

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL ANNUAL REPORT 2022

熊本労災病院 年報 2022年度



Kumamoto Rosai

独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院

Kumamoto Rosai Hospital



Kumamoto Rosai

独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院

Kumamoto Rosai Hospital

熊本労災病院 年報 2022年度

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL
ANNUAL REPORT 2022



CONTENTS

理念・基本方針／患者の権利と責務	2
------------------	---

■病院運営状況

院長 猪股裕紀洋	4
病院幹部職員紹介	6

■病院概要

病院概要	8	アクセス	11
病院行事	9	院内のご案内	12
研修・セミナー	10		

■各診療科・部門紹介

呼吸器内科	16	放射線科	54
消化器内科	18	麻酔科	56
脳神経内科	21	病理診断科	57
糖尿病・代謝内科	23	初期臨床研修医	58
精神科	24	中央手術部	59
小児科	25	救急部	60
循環器内科	26	DMAT	61
心臓血管外科	31	医療安全管理室	63
消化器外科／一般外科	33	感染制御部	65
乳腺外科	35	地域医療連携部	67
呼吸器外科	37	看護部	69
小児外科／移植外科	38	認定看護師・がん相談支援センター	71
脳神経外科	41	看護師特定行為研修	80
整形外科	42	薬剤部	81
形成外科	44	中央リハビリテーション部	83
皮膚科	45	中央放射線部	86
泌尿器科	46	中央検査部	88
産婦人科	48	栄養管理部・栄養管理室	90
耳鼻咽喉科	50	中央臨床工学部	94
眼科	52	事務局	96
リハビリテーション科	53	ボランティア	97

※「スタッフ紹介」「診療体制」については令和5年7月1日現在

■臨床業績

患者数等	100	高度医療	114
疾病構成	104	救急医療	116
院内がん登録データに係る統計	110	地域医療	117

理念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。

患者の権利と責務

【患者の権利】

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。また、分からないことがあれば質問をすることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます(セカンドオピニオン)。
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

【患者の責務】

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けることができるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

病院運営状況



熊本労災病院



院長挨拶

熊本労災病院 院長

猪股 裕紀洋

2022年度の熊本労災病院年報をお届けいたします。今年は、なんとか、年度終了後半年以内に発刊できそうです。この機会に、院長として、いくつかの項目に分けて、病院運営での昨年度を振り返りたいと思います。

1. COVID-19

昨年度は、なお新型コロナウイルス感染症=コロナ2019に翻弄されました。2022年度は、前年よりさらに多数の陽性入院患者様を受け入れ、入院患者数は延べ330名に達しました。発熱外来患者様も多く、延べ13,592名になります。陽性入院患者数を振り返ると7～8月、12～1月の2回のピーク、世間でいう、第7波、8波に相当します。いずれも月別で、7～8月はピークで933名、12～1月で645名の入院があり、それぞれ、いわゆるクラスターの発生をみました。すでに感染は3年目に入っており、国全体としてもようやく組織的対応が取れるようになってきましたが、感染者数の増多には勝てず、熊本県内でも、県や保健所など入院調整にも多くの人のたいへんな努力を要しました。当院としても、行政のお役に立つとともに、逆にたいへんお世話にもなったと思っており、深く感謝申し上げます。感染者の病棟としては、2022年度も、たまたま陰圧室が整備されていたという理由で、中央4病棟でほとんどの陽性患者さんを引き受けていただいたほか、患者増多やクラスターの発生に伴い、各病棟内での隔離を行う事例もありました。それに伴い、一般の患者様の入院の制限も一部かけさせていただき、地域のかたにもご迷惑をおかけしたと存じます。入院患者対応のみならず、他医療圏からも搬送された陽性妊婦さんの帝王切開や、発熱外来への患者集中、集団ワクチン接種など、2022年度も職員を

あげて対応いたしました。地域に存立するこの病院の当然の責務と思って、時には研修医が自発的に発熱外来のお手伝いを買って出るなど、多くの職員が熱い意志をもって参画してくれましたことを、誇りをもって改めてご報告したいと思います。一方で、このようなパンデミックが無ければ、その力を、より前向きな方向性を持って発揮できたのではないかと考えてもしまいます。これから取りかえさないといけないと思います。

2. 診療、勤労者医療など

手術件数は、減少した2021年度よりも若干増加して5,165件となりました。救急車搬入は21年度の3,952台から大幅に増え、4,644台となりました。これは、やはりコロナ2019によるところが大きいと感じております。というのも、整形外科が大きくかわらないのに、呼吸器内科の急患数が大きく増加しているためです。感染の波に平行して、八代圏域外からの救急車搬入が増加したのは前年と同様でした。

救急医療のみならず、当院の特徴である整形外科診療はもちろんのこと、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科などはフル回転で診療をこなし、乳腺や耳鼻咽喉科など、その専門性を活かした診療の活性が上がっています。また、先に記載した、産婦人科での陽性妊婦の帝王切開や、小児でも多かったコロナ感染対応での小児科など、周産期医療も機能を十分発揮しました。

労災病院職員の連携の良さと個々の職員の意識の高さは誇るべき所ですが、ただし、まだまだ職員数は潤沢ではありません。ただ、まだ「優しさが足りない」というご意見は、ご意見箱にときどきみられます。職員がすくなくて余裕がない、などということ言い訳にしてはならないと思っています。一方、最近は、お褒めをいただく場面も増えてきて、

患者サービス委員会を中心に注力してきた「接遇向上」のかけ声が少しだけ浸透してきたように感じています。

地域医療としては、2022年度から常勤がいなくなった八代市立椎原診療所への医師派遣を、毎週1日、当院から呼吸器内科所属で産業医の清水ゆかり先生が派遣されています。さらに、労災病院ならではの、の勤労者医療として、嘱託産業医活動にも力をいれて、7カ所の事業所に産業医を派遣するほか、整形外科を中心とした振動病健診、呼吸器内科を中心としたじん肺の健診などの活動を継続しています。私自身も、従業員50名以下の小規模事業書に派遣される、地域産業保健センターの登録産業医として、健診評価の活動を数回行っていきます。今後、このように、地域の基幹病院として、あるいは労災病院として、役割をさらに発揮していきます。

また、2022年度から、新たに、「HPメディア対応チーム」という多職種からなるチームを作り、毎週金曜の朝短時間のミーティングを重ねて、病院内外での当院の活動を、地域の皆様や医療機関、そして足下の職員に周知していくことをその目的としました。実は、国立医療センターの高橋院長からそのアイデアをいただいたのですが、いろいろな内外の病院の活動を発信し、この年報を作る、「広報誌等編集委員会」とともに、熊本労災病院はどんな病院なんだ、というアピールに努めています。まだ道半ばですが、地味、あるいはお高くとまっている、というイメージをなんとか打破したいと思っています。

3. 施設整備

2021年度には、老朽化した手術室を中心に、本部の専門家などが数日間集中して院内調査を行い、それをもとにその改修計画が示されました。しかし、個別の改修としたその計画では、手術室の部分的な休止が避け得ず、当院の機能上不可能であると思われ、本部折衝の結果、手術室を含む新棟の建設やむなしと判断され、2023年度以降の設計施工が認可されました。この建物には、災害拠点病院としての機能を持たせて、災害時の収容や診療空間も設置し、さらに、手術室と一体のICUや医療材料部、そしてこれも老朽化しているリハビリ棟も含めることとなり、すでに設計段階に入りました。現行の病院機能は維持しながら、

南駐車場に、3階建ての建物が、2025年度夏には完成の予定となっています。より高度な医療の現場となり、地域の皆様にさらに信頼されるものを目指します。

4. 教育研修

2022年度も人の集まりが制限され、種々の会合もweb上となりました。しかし、一方で、なんでもwebの扱いへの反動も出てきて、夏の緩和ケア研修会は、対象を院内のみに絞りながらも対面で実施しました。

研修育成ですが、2022年度も幸いフルマッチでしたので、総勢16名の基幹型研修医が元気に修練に励み、卒業生には、一部の期間でしたが、その研修風景を動画などに残し、自分で編集してUSBに入れて修了生にお贈りしました。見返されるかどうかは解りませんが、少なくとも高齢になるまで保存されれば、良い記念になったと思っています。特定看護師研修も引き続き育成を続け、各年度2名ずつの修了者が看護師の範疇を超えた役割を担って活躍中です。

熊本大学医学部の地域医医療実習も担当しており、2022年度も、5-6年生が各3週間にわたって継続的に院内各所で研修を受けました。八代市中での基幹病院としての地域医療、さらには特色ある勤労者医療の実際をつぶさにみていって来ています。年度中、地域医療実習の学生とは、当院グリルが精一杯サービスして下さるお弁当を、私自身の勉強と楽しみも兼ねて自費で提供し、3週間の終わりに近い一日の昼食をともにしています。専門知識と、一般のかたの感性を併せ持った医学生の、多様な当院の感じ方は、院長としても貴重な情報源であり、また長く大学教員をした身には、若者と話す大いなる楽しみともなっています。

以上、2022年度の活動概略を記載しました。詳細は、各科・部門の記載をご覧ください。日頃より、熊本大学、産業医科大学の各医局、県・市などの行政、多くの地域の医療機関の皆様、さらに地域の住民の皆様のご支援をいただいております。職員を代表して深く感謝申し上げますとともに、これからも熊本労災病院は、診療機能はもとより、優しさ・暖かさをこれまで以上に高めながら、職員一丸となってがんばります、とお誓いをし、2022年度年報のご挨拶といたします。

病院幹部職員紹介

■院長



猪股 裕紀洋

(兼 勤労者医療総合センター長)

■副院長



池田 天史

(医事業務、施設基準、救急・災害医療、診療事務補助者管理、設備改修、機器整備 等)



佐々木 雅人

(医療安全、薬事、治験、倫理、広報誌編集 等)



松村 敏幸

(教育研修、患者サービス、地域連携、労災疾病、外来検診体制整備 等)

■看護部長



福松 之敦

(産婦人科診療体制整備、広報 等)



山上 艶子

■事務局長



木村 幸司

病院概要



病院概要

(令和5年7月1日現在)

病院概要

名称	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院	
所在地	〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地	
電話番号	TEL:0965-33-4151(代表) FAX:0965-32-4405(代表)	
開設承認	昭和29年2月8日	
開設者	独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹	
管理者	院長 猪股 裕紀洋	
病床数	410床	
職員数	医師96名(うち基幹型研修医12名)、看護職431名、医療職118名、事務職67名、その他18名	
診療科 (26診療科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・代謝内科、精神科、小児科、循環器内科、心臓血管外科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科	
指定医療機関等に関する事項	地域がん診療連携拠点病院(国指定)、地域災害拠点病院(熊本DMAT指定病院)、救急告示病院(二次救急医療機関)、臨床研修指定病院、地域医療支援病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心血管疾患急性期拠点病院、心血管疾患回復期医療機関、地域産科中核病院、小児地域医療センター、熊本県地域医療拠点病院、難病基幹協力病院、在宅療養後方支援病院	
認定施設	日本医療機能評価機構認定施設(3rdG:Ver.2.0) 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設 日本呼吸器学会基幹施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本脳神経外科学会連携施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本皮膚科学会認定専門医制度教育研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設(補完施設) 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本産科婦人科学会専門医研修連携施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 浅大動脈ステントグラフト実施施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 NCD参加施設 日本麻酔科学会認定施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本病理学会登録施設 日本乳癌学会認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 日本脳ドック学会認定施設 日本胸部外科学会教育施設 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設 胸部ステントグラフト実施施設 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設 腹部ステントグラフト実施施設 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設	
施設概要	敷地面積：26,681.86㎡ 延床面積：30,193.10㎡	
駐車台数	664台	

令和4年度 病院行事

開催日	内容
4月1日	辞令交付式
4月22日	看護師特定行為研修開講式
5月12日	「看護の日」行事
5月21日	まちの保健室
7月8日	永年勤続者表彰式
10月13日	臓器移植普及推進運動(グリーンリボンキャンペーン)
10月18～28日	ピンクリボン運動
11月4日	「いいお産の日」行事
11月9日	八代がんサロン秋桜cosmos 12周年
11月12日	院内災害訓練
11月14日～18日	全国糖尿病週間イベント
11月21日～25日	医療安全推進週間イベント
12月16日	クリスマスコンサート
3月9日	臨床研修修了式
3月17日	防火(消防)訓練
3月28日	令和4年度看護師特定行為研修閉講式



看護師特定行為研修開講式



「看護の日」行事



永年勤続者表彰式



「いいお産の日」行事



がんサロン12周年記念イベント



八代市総合防災訓練



多数傷病者受入机上訓練



クリスマスコンサート



臨床研修修了式

令和4年度 研修・セミナー

開催日	内 容
6月8日	一次救命処置(BLS)研修
6月16日	輸液ポンプ・シリンジポンプ実技研修
7月31日	市民公開講座『肝がんゼロを目指して』
8月20日	熊本労災病院緩和ケア研修会
9月2日	IVナース(静脈注射認定看護師)育成研修
9月16日	令和4年度第2回 医療安全研修会「コロナ禍においてこそ活かす『医療倫理』の考え方」
10月2日	八代市総合防災訓練(DMAT参加)
10月21日	多数傷病者受入机上訓練
10月24日	令和4年度 第1回熊本労災病院 救急症例検討会
1月18日	第2回京大がんチーム医療研修(Web)
1月21日	脳死判定研修会
1月28日	九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練
2月1日	虐待対応研修会
2月4日	整形外科(脊椎外科)Basicトレーニング
2月16日	救急医療講演会「熊本における救急医療体制と今後の展望」
2月20日	令和4年度褥瘡対策勉強会
2月20日	認知症のVR体験
2月21日	シーネ固定研修
2月22日	地域連携看護懇談会
3月25日	オストメイト医療相談会
3月27日	新興感染症等の発生を想定したweb机上訓練



輸液ポンプ・シリンジポンプ実技研修



IVナース育成研修



令和4年度第2回医療安全研修会



救急症例検討会



褥瘡対策勉強会



シーネ固定研修

アクセス



交通機関

- 産交バス 新八代駅西口より「みなバス」左回りに乗車、
労災病院前下車(所要時間約5分)
- タクシー 新八代駅より乗車(所要時間約3分)
- 乗用車 八代インターより(所要時間約5分)
※新八代駅西口より徒歩約10分

診療時間

- 外来受付時間 午前8:15～11:00
- 休診日 土曜・日曜・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)

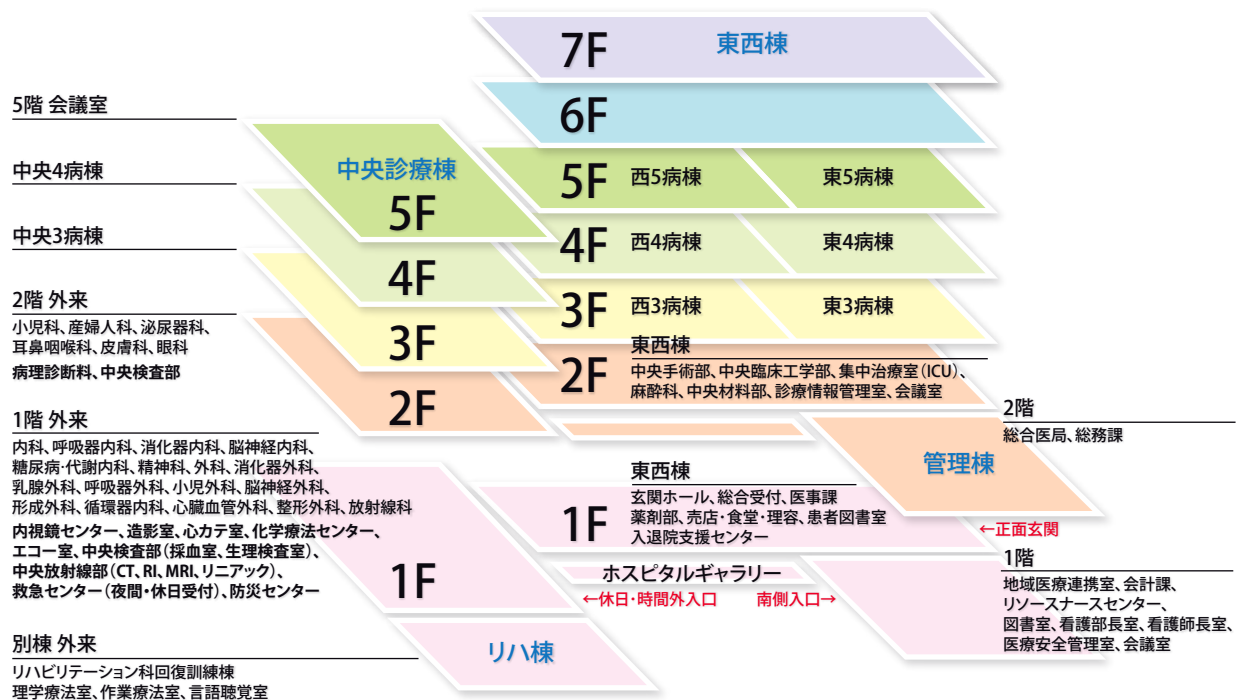
院内のご案内

施設紹介

病院概要



各階案内図



院内案内図

1階



病院概要

2階



各診療科・部門紹介



呼吸器内科

スタッフ紹介



呼吸器内科部長
(兼アスベスト疾患センター長、
兼感染制御部長)

安道 誠

【専門分野】呼吸器一般、感染症、救急医療
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会専門医・指導医、AHA-BLS/ACLSインストラクター、インфекションコントロールドクター、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



第二呼吸器内科部長

山根 宏美

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医・指導医・総合内科専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



腫瘍内科部長

丸山 広高

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本呼吸器内視鏡学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、産業医

呼吸器内科副部長

中山 剛

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本肺癌学会、嚥下リハビリテーション学会、嚥下機能評価研修会修了、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、産業医

呼吸器内科医師

楯崎 恵里子

【専門分野】呼吸器一般 【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、緩和ケア研修会修了

勤労者医療総合センター医(兼呼吸器内科医師)

清水 ゆかり

【専門分野】呼吸器一般 【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、緩和ケア研修会修了、産業医

呼吸器内科医師

川口 紘矢

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会、緩和ケア研修会修了

呼吸器内科医師

井村 昭彦

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本呼吸器学会、緩和ケア研修会修了

呼吸器内科医師

黒木 美樹

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

呼吸器内科の特色

常勤医師9名で、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般に関して、県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。疾病の内訳は、高齢化社会を反映して肺炎・胸膜炎などの感染症が最も多くの割合を占めています。肺癌については、化学療法の進歩で延命効果も高く入院患者数が増加しています。最新の超音波気管支ファイバービデオスコープシステムを導入して従来のTBLBやEBUS-GS法による肺病変の生検に追加して、EBUS-TBNAIによる縦隔・肺門リンパ節の質的診断も行っており、正診率の向上に努めています。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患は治療の中心となる吸入薬の進歩により外来での治療コントロールが良くなり入院割合としては減少し、殆どは救急や他院からの紹介入院です。自然気胸は、必要時は当院呼吸器外科での手術も行っています。間質性肺炎は特発性・膠原病関連・薬剤性等も含めて増加しています。その他の疾患は膠原病・不明熱・感染症等で、総合内科的な役割も担っています。特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等

呼吸器内科

で県外からも広く患者様の紹介を受け入れアドバ
イスや労災疾病申請の援助を行っています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
--	---	---	---	---	---

(午前中)

呼吸器内科	山根	安道	丸山	安道	中山
総合内科/再診		井村	黒木		
再診	中山	川口		山根	鋤崎
腫瘍内科			丸山		丸山

(13:30~16:00)

特殊外来			禁煙外来 山根 (要予約)		
------	--	--	---------------------	--	--

診療実績

(1) 患者数

入院患者数	新患者数	1,208人
	延患者数	19,827人(54.3人/日)
外来患者数	新患者数	4,542人
	延患者数	15,449人(63.6人/日)

(2) 検査実績

気管支鏡検査数	221件	
再掲	TBLB/TBB	126件
	BAL	40件
CTガイド下肺生検	11例	

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 地方じん肺審査医 安道 誠、山根 宏美
- 県南結核審査会委員 安道 誠

学会・講演会発表等

- 学会名 第89回日本呼吸器学会 日本結核非結核性抗酸菌症学会 日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会
- 日程・会場 令和4年10月、完全オンライン開催
- 発表者 内藤大貴、井村昭彦、川口紘矢、清水ゆかり、鋤崎恵里子、中山剛、丸山広高、山根宏美、安道誠、植田寛之
- 題名 デュピルマブによる好酸球性肺炎を呈した一例

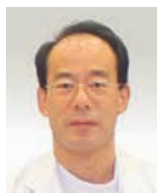
- 学会名 第340回日本内科学会九州地方会
- 日程・会場 令和5年1月、福岡県福岡市
- 発表者 甲斐智恭、中山剛、内藤大貴、井村昭彦、川口紘矢、鋤崎恵里子、丸山広高、山根宏美、安道誠
- 題名 メトトレキサート関連リンパ増殖性疾患により全身多発陰影と気管潰瘍・胃潰瘍を呈した一例

認定施設等

- 日本内科学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

消化器内科

スタッフ紹介



副院長
消化器内科部長
佐々木 雅人

【専門・認定・資格・所属学会】医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医・暫定指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



内視鏡科部長
千代永 卓

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

消化器内科副部長

富口 純

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

消化器内科副部長

市川 亮

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医、緩和ケア研修会修了

消化器内科医師

日隈 ゆかり

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、緩和ケア研修会修了

消化器内科医師

米田 暁

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、緩和ケア研修会修了

消化器内科医師

松田 暖

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

消化器内科の特色

当院の消化器内科では、千代永卓先生、市川亮先生、日隈ゆかり先生、富口純先生、米田暁先生、松田暖先生と私の7人体制ですが、日隈先生は昨年6月より出産・育児休暇中のため、実質は6人体制です。当科の基底ベッド数は41ですが、多いときは60名を超えることもあります。千代永先生は胆膵専門のため、ERCPや超音波内視鏡など胆膵系の検査・治療が増加しています。昨年Spy-glassという結石を破砕できる胆道鏡を導入したので、胆管結石を直接観察して破砕・治療も可能です。閉塞性黄疸や胆嚢炎におけるPTCDやPTGBDも行っています。胆膵悪性腫瘍に対する外科的治療が困難な場合は、既存の化学療法のほか、肝臓に対するトレメリムマブ+デュルバルマブ併用療法、治療胆道癌にものデュルバルマブ治療も可能です。

緊急の上下部内視鏡検査の他、NBI・拡大内視鏡、上下部消化管ESD、小腸/カプセル内視鏡、CTコロノグラフィ、食道胃静脈瘤治療、胃瘻造設・交換などは通常業務として行っています。また熊大消化器内科より週一回松野健司先生にESDのご指導を頂いています。

肝臓専門外来を毎日行っており、外科、放射線科と共に「肝疾患センター」を運営しています。ほぼすべての肝疾患を扱っていますが、B/C型肝炎のコントロールがほぼ完全に可能となった現在、院内外での掘り起こし・啓発活動に力を入れています。特に当科では、検査部で検出したHBs抗原/HCV抗体陽性者はすべてチェックして、必要であれば他科の患者であっても消化器内科を受診するよう担当医または患者に通知するシステムを2018年より確立しています。丁寧で持続的なフォローアップを心がけて肝臓を早期発見し、手術・ラジオ波・TACEによる治療につなげています。さらに肝臓に対する分子標的治療薬ソラフェニブやレンバチニブ治療のほか、免疫チェックポイント阻害剤の新薬デュルバルマブ+トレメリムマブ、アテゾリズマブ+ペバシズマブ併用。ラムシルマブ、レゴラフェニブ、カボメティクスなど最新の治療が可能です。消化器外科医のほか移植外科の林田信太郎先生、小児外科の大矢雄希先生など経験豊富なDrがおられるので肝切除は充実しています。

治療切除困難な悪性腫瘍も増えていますが、病棟消化器カンファレンス、外科・放射線科・病理との

消化器内科

合同カンファレンス、HCCカンファレンス、カンサーボードにて多角的な目で治療方針を決定しています。ポート造設による最新の化学療法を積極的に導入し、情報の共有が早く密で適切な医療を提供しています。学会・研究会にも多数参加しており、JDDWや地方会のほか、ボストン、シンガポール、バンコク、上海、パリ、台湾、香港の国際学会でも発表しました。今年熊本で開催された、消化器病学会/消化器内視鏡学会九州支部例会では6演題を発表しました。

田中靖人教授が熊大消化器内科に赴任されて以来、大学医局は臨床と研究の両輪が廻り始めているように思われます。創薬に関わる研究など夢のあるテーマをリードされておられ、医局の明るい活気を感じるのか若い人たちも入局を希望する人たちが増えているようで、毎年活力ある若い消化器内科医師を送って頂く医局に大変期待しています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
消化器内科	千代永	千代永	佐々木	市川	佐々木
総合内科 ／再診					米田
再診	富口	市川	松田	富口	
PEG相談	米田/ 松田		米田/ 松田		

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	1,171人
	延患者数	14,980人(41.0人/日)
外来患者数	新患者数	1,749人
	延患者数	13,418人(55.2人/日)

手術(内視鏡)件数

症 例	件数
食道ESD	0件
胃ESD	21件
EIS/EVL	9/12件
大腸EMR/ポリペクトミー	206件
大腸ESD	31件
胃ろう造設術	17件

検査/治療実績

症 例	件数
上部内視鏡検査	2,577件
下部内視鏡検査	1,572件
ERCP	285件
EUS	308件
EUS-FNA	31件
カプセル内視鏡	6件
小腸内視鏡	3件

超音波検査/治療

検 査	件数
腹部超音波	3,979件
腹部造影超音波	47件
肝生検	44件
PTCD/PTGBD	8件
経皮的RFA/PEIT	1件

学会、研究会

- 学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
日程・会場 令和4年12月、熊本県熊本市
発表者 塚本尚紀
題名 特徴的な内視鏡所見にて早期の診断治療が可能であった胃蜂窩織炎の1例
- 学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
日程・会場 令和4年12月、熊本県熊本市
発表者 持田香織
題名 超音波内視鏡下経直腸的ドレナージを施行した骨盤内膿瘍の1例
- 学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
日程・会場 令和4年12月、熊本県熊本市
発表者 米田 暁
題名 下血が受診の契機となった虫垂Crohn病の1例
- 学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
日程・会場 令和4年12月、熊本県熊本市
発表者 市川 亮
題名 当院での大腸悪性狭窄に対する内視鏡的ステント留置術の治療成績について
- 学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
日程・会場 令和4年12月、熊本県熊本市
発表者 水田 馨
題名 胆汁静液うっ滞に対し内視鏡治療を行ったcholechoceleの1例

消化器内科

- **学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
- **日程・会場** 令和4年12月、熊本県熊本市
- **発表者** 池邊賢一
- **題名** 胆管上皮内腫瘍(BilIN: Biliary intraepithelial neoplasia)が原因と考えられた無石胆嚢炎の1例

認定施設 等

- 日本消化器内視鏡学会関連施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設

脳神経内科

スタッフ紹介



脳神経内科部長
原 靖幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳卒中学会専門医・評議員、日本頭痛学会専門医・指導医、日本内科学会認定医、日本神経学会、日本神経治療学会、日本リハビリテーション医学会、臨床研修指導医講習会修了

脳神経内科副部長 山本 文夫

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・総合内科専門医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医

脳神経内科の特色

脳梗塞、てんかん、頭痛、めまい、脳炎・髄膜炎、免疫性神経疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症）、神経変性疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、認知症）など、神経疾患全般に関して県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。

入院は半数以上が急性期脳梗塞で、その他もてんかんなど急性・亜急性の疾患が多くを占めます。ただ、近年はパーキンソン病の薬剤調整・リハビリ目的での入院も増えてきています。脳梗塞については、超急性期症例に対するt-PA静注療法に対応し、さらに脳血管内治療適応例はヘリまたは救急車で対応可能な急性期病院へ転送しています。急性期を過ぎてリハビリ継続が必要な場合は、脳卒中連携パスを利用して後方支援病院への転院を進めています。

一方、外来は脳梗塞、てんかんのほか、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症などの神経難病、さらに頭痛、しびれ、ふるえ、めまいに至るまで幅広く診断・治療を行っています。頭痛診療については、片頭痛の新規治療薬である抗CGRP製剤も使用することで治療成績を向上させています。

高齢化を反映して、脳神経疾患のニーズはますます高まってきています。多方面と連携しながら微力ながらも地域医療に貢献してまいりたいと思っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
原	山本	原	山本	池ノ下 (非常勤)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	345人
	延患者数	6,847人(18.8人/日)
外来患者数	新患者数	940人
	延患者数	4,667人(19.2人/日)

学会・講演会発表等

研究会・講演会

- 開催名** エフピー社内勉強会
日程・会場 令和4年4月、熊本県八代市
発表者 原 靖幸
題名 私のパーキンソン病治療
- 開催名** 上益城郡医師会学術講演会
日程・会場 令和4年6月、熊本県御船町
発表者 原 靖幸
題名 片頭痛治療の現状と今後
- 開催名** 偏頭痛地域医療連携セミナーin八代
日程・会場 令和4年7月、熊本県八代市
発表者 原 靖幸
題名 片頭痛治療の現状と今後
- 開催名** 水俣・芦北薬剤師会学術講演会
日程・会場 令和4年7月、熊本県水俣市
発表者 原 靖幸
題名 QOLを考慮したパーキンソン病治療
- 開催名** アムジェン社内勉強会
日程・会場 令和4年8月、熊本県八代市
発表者 原 靖幸
題名 片頭痛治療の現状と今後
- 開催名** 第140回熊本神経カンファレンス
日程・会場 令和4年8月、熊本県熊本市
発表者 山本文夫
題名 原発性中耳癌による右顔面神経麻痺の一例

脳神経内科

- **開催名** 八代薬剤師会学術講演会
日程・会場 令和4年8月、熊本県八代市
発表者 原 靖幸
題名 片頭痛治療の現状と今後
- **開催名** 熊本県南Parkinson disease Webセミナー
日程・会場 令和4年9月、熊本県八代市
発表者 原 靖幸
題名 超高齢化社会におけるパーキンソン病マネジメント
- **開催名** 上益城郡薬剤師研修会
日程・会場 令和4年10月、熊本県嘉島町
発表者 原 靖幸
題名 新時代を迎えた片頭痛治療

認定施設 等

- 日本神経学会教育関連施設
- 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター
- 日本脳卒中学会認定 研修教育施設

糖尿病・代謝内科

スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科部長
(兼栄養管理部長)
金子 健吾

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会、日本臨床栄養代謝学会、日本甲状腺学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



第二糖尿病・代謝内科部長
岩下 晋輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本循環器学会、日本救急学会、日本内分泌学会、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了

糖尿病・代謝内科医師
吉田 知史

【専門・認定・資格・所属学会】

糖尿病・代謝内科医師
今井 佑衣子

【専門・認定・資格・所属学会】
緩和ケア研修会修了

糖尿病・代謝内科の特色

現在、我が国の糖尿病患者数は1,000万人以上と考えられ、予備軍も合わせると2,000万人超とされています。40歳以上では実に3人に1人が耐糖能障害を持つ計算になります。糖尿病や脂質異常症、高血圧症といった病気は、自覚症状をあまり認めないために放置されることが多い疾患であり、そのためこれらの疾患により心筋梗塞や脳卒中といった重篤な疾患を発症する方が後を絶たないのが現状です。糖尿病・代謝内科では、このようにますます増加している糖尿病をはじめとした生活習慣病の診断・治療・教育を中心に、甲状腺疾患（橋本病やバセドウ病などの甲状腺機能異常や甲状腺腫瘍）などの内分泌疾患、電解質異常などの診断・治療を行っています。また、他科入院の代謝・内分泌疾患の診療も行っており、対象患者さんは概ね40～50名/日に上ります。さらに、栄養サポートチームの一員としての栄養管理も全病棟を対象に実施しています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
糖尿病・代謝内科	岩下	金子	櫻井 (非常勤)	金子	岩下
総合内科 ／再診	今井			吉田	
再診			吉田		金子 (要予約)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	171人
	延患者数	3,141人(8.6人/日)
外来患者数	新患者数	703人
	延患者数	7,491人(30.8人/日)

検査実績

検査	件数
甲状腺超音波検査	405件
甲状腺穿刺吸引細胞診	39件

地域活動の実績

毎年11月14日を含む1週間は糖尿病週間となり、当院でもコロナ禍以前は講演会など対面で、それ以降はポスター掲示などのイベントを行なっています。

学会・講演会発表等

- **学会名** 第22回日本内分泌学会九州支部学術集会
日程・会場 令和4年9月、熊本県熊本市
発表者 最勝寺芙美、徳永理衣、櫻井希美、岩下晋輔、金子健吾、荒木栄一
題名 遷延する低血糖に肺水腫・たこつぼ型心筋症を合併した臍性糖尿病の一例
- **学会名** 第340回日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和5年1月、福岡県福岡市
発表者 宮崎真衣、徳永理衣、最勝寺芙美、櫻井希美、岩下晋輔、金子健吾
題名 ペムプロリズマブ投与開始後甲状腺中毒症を来たし、その後劇症1型糖尿病を発症した1例

認定施設等

- 日本糖尿病学会認定教育施設

精神科

スタッフ紹介

精神科医師(非常勤)

本田 荘介

【専門・認定・資格・所属学会】

精神科医師(非常勤)

大内 清

【専門・認定・資格・所属学会】

精神科医師(非常勤)

加治屋 智子

【専門・認定・資格・所属学会】

精神科の特色

令和3年4月からは、他医療機関から3名の先生を派遣いただき、病棟でのリエゾン診療のみを行っています。

また、令和元年10月からは、八代医療圏での発達障がい医療体制を整備するという熊本県の取組みに協力するかたちで、熊本大学病院から派遣された医師1名、臨床心理士1名による発達相談外来を月に2回開設しています。

診療体制

発達相談外来 ※紹介制

月	火	水	木	金
				担当医 (第1・3週)

小児科

スタッフ紹介



小児科部長
吉牟田 純一郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児科副部長
渡邊 聖

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会、日本小児神経学会

小児科副部長
松石 芽衣

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児科医師(非常勤)
永沼 節子

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、日本小児内分泌学会、日本児童青年精神医学会

小児科医師(非常勤)
坂本 理恵子

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医、日本先天代謝異常学会、日本小児栄養消化器肝臓学会、日本集中治療医学会

小児科の特色

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっており、一般的な小児疾患に対応しています。

外来診療では急性期の患者(主に感染症疾患)だけでなく神経疾患(てんかん、発達障害など)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎など)、内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など)、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療・管理に従事しています。また、入院患者の多くを占めるのが感染症疾患(肺炎、腸炎など)であり、児の不安軽減や院内感

染防止に配慮しながら治療にあたっています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
小児科	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田
	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
	松石	松石	松石	松石	松石
	永沼			坂本 (非常勤) (第1・4週)	
予防接種/ 1か月健診		予防接種 (紹介のみ)	1か月 健診		

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	282人
	延患者数	1,303人(3.6人/日)
外来患者数	新患者数	2,038人
	延患者数	6,194人(25.5人/日)

学会・講演会発表等

- 学会名 八代薬剤師会学術研修会
日程・会場 令和5年3月、熊本県八代市
発表者 吉牟田純一郎
題名 小児の経静脈輸液と経口補液

論文発表

- 雑誌名 小児内科 54(11): 1909-1913, 2022
発表者 松石芽衣、坂本理恵子、吉牟田純一郎
題名 超音波検査が診断に有用であった、5年間抗菌薬未使用の小児Clostridioides difficile感染症

認定施設等

- 小児初期救急医療病院

循環器内科

スタッフ紹介



副院長
松村 敏幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医・九州・沖縄地方会代議員、社会医学系専門医・指導医、日本職業・災害医学会評議員、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了



循環器内科部長
血管内科部長
土井 英樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・九州・沖縄地方会運営委員、浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施医、日本フットケア・足病医学会、日本職業・災害医学会、緩和ケア研修会修了



第二循環器内科部長
心臓リハビリテーション部長
阿部 浩二

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、日本心臓リハビリテーション学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



第三循環器内科部長
川上 和伸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本心血管インターベンション学会認定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格、緩和ケア研修会修了、産業医

循環器内科副部長
古川 祥太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション学会認定医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本プライマリケア連合学会指導医、臨床研修指導医講習会修了

循環器内科副部長
小森田 貴史

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、JMECC/ICLSインストラクター、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、緩和ケア研修会修了

循環器内科医師
竹尾 政宏

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会、緩和ケア研修会修了、産業医

循環器内科医師
小林 貴大

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会

循環器内科医師
石丸 雄大

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、緩和ケア研修会修了、産業医

循環器内科

循環器内科の特色

循環器内科はスタッフの異動に伴い小森田貴史先生が5年ぶりに復帰し、新たな診療体制となりました。

当科は前部長の松村敏幸副院長以来20年以上にわたり、地域の方々の心臓および血管に関わる様々な疾患に対し、昼夜問わず迅速かつスムーズに対応することを心がけ、また実践してきました。日本心血管インターベンション治療学会研修施設である本施設では、循環器内科医が24時間体制で緊急カテーテル検査・治療を行うことはもちろんのこと、心臓血管外科医師とはいつでも連絡を取り合える環境にあり、外科的処置や緊急手術が必要な症例においても即時に対応できる体制も整えています。このような長年の取り組みにより、県南はもとより県央および鹿児島県出水市など、非常に広いエリアから患者様のご紹介をいただいております。近年では防災ヘリやドクターヘリによる遠隔地の循環器全般にわたる救急疾患も積極的に受け入れています。さらに、我々の診療をサポートしてくれる必要不可欠な存在である心臓・血管専門の超音波検査技師も6名在籍し、年間1万件を超える非常に多くの患者様の心・血管エコー検査を行っています。

川上和伸先生をリーダーとする不整脈領域においては日本不整脈心電学会認定不整脈専門医が在籍し、近年需要が伸び続けている高周波アブレーション、クライオバルーンアブレーション等の頻脈性不整脈治療を積極的に行っております。さらに昨年にはレーザーバルーンアブレーションも開始いたしました。近年ペースメーカーの適応となる患者様の高齢化などに伴い、通常のリード挿入やペースメーカー植え込み部の感染などのリスクが高い患者様も増えてきました。そこでリードレスペースメーカーを導入し、リスクの高い患者様には積極的に植え込んでいます。また県南でICDやCRT-P、CRT-Dなどによる致死的不整脈や心不全への治療を施行できるのは、現在当院のみであり、こちら県南全域からご紹介いただいております。このように昨今非常に多くのペースメーカー等のデバイスを植え込まれた患者様がおられることから、当院では川上先生の指導のもと、臨床工学士の方々と協力して遠隔モニタリングも行っております。これにより異常の早期発見につなげ、患者様の予後に大きく寄与できると考えています。

下肢動脈を中心とした末梢血管治療は、20年ほど前から九州でもいち早く体制を整備して力を入れており、内科的および外科的なアプローチの両面から患者様の病態に応じて対応しています。特に重症下肢虚血（CLTI）症例は熊本県南全域、県央、鹿児島県出水市などから積極的に受け入れており、令和3年4月からは、下肢創傷治療のスペシャリストとして非常に経験豊富な形成外科の匂坂正信先生をリーダーとして、足壊疽外来を開設しました。循環器内科医師、WOC看護師、循環器内科病棟・外来看護師とともにチームでCLTIをはじめとした患者様の足を救うべく、積極的に治療介入を行い、多くの方の下肢救済を実現することができました。また創傷治療を促進するための後療法としてレオカーナを用いたアフエレーシスも導入し、古川祥太郎先生をリーダーとしてより一層下肢救済に取り組んでいるところです。

また心臓・血管リハビリテーションにも力を入れており、阿部浩二先生をリーダーとして外来および病棟に心不全療養指導士の資格を有する専任看護師1名を配置し、充実した対応が可能となりました。外来リハ患者様も順調に増えており、積極的に入院中から介入して退院後も可能な限り自分の足で歩ける状態を維持し、さらには心不全増悪による再入院減少にも寄与できるよう取り組んでいきたいと思っております。

外来では引き続き循環器内科と血管外来を統合して月～金まで全て二診体制とし、心臓ならびに全身の血管疾患に対する診療を、包括的かつ円滑に対応するよう努めています。これからも一層スムーズな受け入れができるよう頑張っております。

循環器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
循環器内科 血管外来	竹尾 小林	小森田 石丸	松村 土井	阿部 担当医	古川 担当医
不整脈外来	川上 (要予約)			川上	
特殊外来			循環器 足壊疽外来 匂坂 (要予約)	難治性 高コレステロール 血症外来 阿部 (要予約)	

○救急患者紹介への電話対応

	月	火	水	木	金
午前 (~13:00)	土井	土井	小森田	土井	土井
午後 (13:00-17:00)	古川	古川	土井	土井	小森田

※担当者不在の場合は予め代行者を決めて対応いたします。

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	1,069人
	延患者数	12,508人(34.3人/日)
外来患者数	新患者数	1,503人
	延患者数	10,345人(42.6人/日)

治療実績

症 例	件数
冠動脈インターベンション	235件
末梢血管インターベンション	117件
カテーテル焼灼術	154件
永久ペースメーカー移植術(新規・交換)	85件
リードレスペースメーカー留置術	15件
植込み型除細動器移植術(新規・交換)	5件
両室ペーシング=心臓再同期療法 (CRT+CRTD、新規・交換)	13件
心エコー	7,904件
血管エコー	3,103件
経食道心エコー	115件

学会・講演会発表等

学会【国内学会】

- 学会名** 第65回日本形成外科学会・学術集会
日程・会場 令和4年4月、大阪府
発表者 匂坂正信
題名 総頸動脈が露出した深頸部膿瘍再建時の wound bed preparationに銀含有創傷被覆材が著効した一例
- 学会名** 第132回日本循環器学会九州地方会
日程・会場 令和4年6月、Web
発表者 竹尾政宏
題名 Duchenne型筋ジストロフィー患者に発症したST上昇型心筋梗塞の一例
- 学会名** TECC-TECC塾
日程・会場 令和4年7月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 FFRを用いてEVTを施行した1例
- 学会名** 第34回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年8月、宮崎県
発表者 松村敏幸
題名 孤独死の要因となる動脈硬化性疾患と精神的ストレスの研究
- 学会名** 第34回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年8月、宮崎県
発表者 ○阿部浩二、梅田美結、竹尾政宏、石丸雄大、小林貴大、古川祥太郎、川上和伸、土井英樹、松村敏幸
題名 分岐角度の大きいLCx入口部のCTO病変とRCA入口部の石灰化結節病変に対して、PCIを施行した1例
- 学会名** 第34回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年8月、宮崎県
発表者 ○古川祥太郎、竹尾政宏、石丸雄大、梅田美結、小林貴大、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題名 当院での重症下肢虚血に対するチーム医療の取り組み
- 学会名** 第34回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年8月、宮崎県
発表者 ○梅田美結、竹尾政宏、石丸雄大、小林貴大、古川祥太郎、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題名 左外腸骨動脈の狭窄病変に対する治療適応の判断においてflow wireによる圧較差評価が有用だった1例

循環器内科

- **学会名** 第34回日本心血管インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年8月、宮崎県
発表者 ○竹尾政宏、石丸雄大、梅田美結、小林貴大、古川祥太郎、川上和伸、阿部浩二、土井英樹
題名 末梢血管治療後に残存した右第一趾の黒色壊死に対してLDLアフェレーシスで良好な経過をたどった一例
 - **学会名** 第26回日本心不全学会 シンポジウム
日程・会場 令和4年10月、奈良県
発表者 松村敏幸
題名 心不全患者の就労支援
 - **学会名** 35回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年12月、福岡県久留米市
発表者 ○古川祥太郎、竹尾政宏、石丸雄大、梅田美結、小林貴大、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題名 Buerger病のCLTIに対してViscosity Interventionが奏効し治癒し得た一例
 - **学会名** 35回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年12月、福岡県久留米市
発表者 ○小林貴大、石丸雄大、梅田美結、竹尾政宏、古川祥太郎、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題名 右膝窩動脈瘤の急性血栓閉塞に対し二期的に経皮的末梢血管拡張術を施行した症例
 - **学会名** 35回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会
日程・会場 令和4年12月、福岡県久留米市
発表者 ○梅田美結、石丸雄大、小林貴大、竹尾政宏、古川祥太郎、川上和伸、阿部浩二、土井英樹、松村敏幸
題名 感染性心内膜炎が原因と思われるaorto mitral curtainに生じた弁瘤により重症僧帽弁閉鎖不全症を来した1例
 - **学会名** TECC - TECC 2022 Grab the Globe
日程・会場 令和4年12月、Web
発表者 土井英樹
題名 Cuttingに魅せられて20年
 - **学会名** EVTケースシェアin 九州・沖縄 with JET
日程・会場 令和5年2月、Web
発表者 ○古川祥太郎、土井英樹
題名 高度な蛇行と石灰化を有するBTK病変に対してWolverinePCBが有効であった1例
 - **学会名** 日本医療マネジメント学会第25回熊本支部学術集会
日程・会場 令和5年3月、熊本県熊本市
発表者 松村敏幸
題名 心不全患者の就労支援
- 【講演会】**
- **開催名** 人吉市球磨郡医師会webセミナー
日程・会場 令和4年4月、Web
発表者 川上和伸
題名 県南地区における心房細動治療～抗凝固療法を含めて
 - **開催名** 九州OASIS症例検討会
日程・会場 令和4年4月、web
発表者 匂坂正信
題名 足難治性創傷におけるOASIS®の使用経験から
 - **開催名** 八代薬剤師会学術研修会
日程・会場 令和4年5月、熊本県八代市
発表者 古川祥太郎
題名 肺高血圧症治療 ～基礎から実臨床まで～
 - **開催名** 豊橋ライブデモンストレーション セミナー
日程・会場 令和4年6月、Web
発表者 土井英樹
題名 俺の“TRIAS”活用法
 - **開催名** 熊本CLTI研究会
日程・会場 令和4年7月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 こんな症例にレオカーナをやってみた
 - **開催名** 第31回九州トランスラディアル研究会
日程・会場 令和4年8月、福岡県福岡市
発表者 阿部浩二
題名 外来心リハ、始めました。
 - **開催名** 第31回九州トランスラディアル研究会
日程・会場 令和4年8月、福岡県福岡市
発表者 匂坂正信
題名 OASIS®を用いた植皮術で可能になる救肢をあきらめない形成外科的CLI治療戦略
 - **開催名** アブレーション連携webセミナー in 八代
日程・会場 令和4年8月、Web
発表者 川上和伸
題名 県南地区における心房細動治療～抗凝固療法を含めて
 - **開催名** 第51回宮崎循環器セミナー
日程・会場 令和4年9月、宮崎県
発表者 古川祥太郎
題名 OASISを用いた循環器内科的CLI治療戦略

循環器内科

- **開催名** 第51回宮崎循環器セミナー
日程・会場 令和4年9月、宮崎県
発表者 土井英樹
題名 私の考えるDrug deviceの使い方
- **開催名** 第51回宮崎循環器セミナー
日程・会場 令和4年9月、宮崎県
発表者 匂坂正信
題名 OASIS®を用いた植皮術で可能になる救肢をあきらめない形成外科的CLI治療戦略
- **開催名** がんトータルケアセミナー in 八代
日程・会場 令和4年9月、Web
発表者 土井英樹
題名 がん関連血栓症の対応 ～予防対策から抗凝固療法まで～
- **開催名** ARNI 高血圧Web Symposium
日程・会場 令和4年9月、Web
発表者 阿部浩二
題名 最近の高血圧、心不全治療 ～ARNIの期待について～
- **開催名** 八代・水俣エリア透析患者の足病診療 連携講演会
日程・会場 令和4年11月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 当院におけるCLTI 治療戦略
- **開催名** KICK-S
日程・会場 令和4年11月、福岡県
発表者 古川祥太郎
題名 当院でのAo-iliac, SFA-POP, BKの治療戦略について
- **開催名** 九州Wolverineセミナー
日程・会場 令和4年12月、福岡県
発表者 土井英樹
題名 Cuttingに魅せられて20年
- **開催名** 血栓症フォーラム
日程・会場 令和5年1月、熊本県熊本市+Web
発表者 土井英樹
題名 日本人に合わせた静脈血栓塞栓症の治療戦略 ～がん関連血栓症の話題を含めて～
- **開催名** 循環器内科脳神経内科連携webセミナー
日程・会場 令和5年3月、web
発表者 川上和伸
題名 ESUSの一因である心房細動の検出と治療
- **開催名** 第2回熊本CLTI研究会
日程・会場 令和5年3月、web
発表者 古川祥太郎
題名 え?レオカーナが効かない?

- **開催名** 第1回循環器内科 若獅子の会
日程・会場 令和5年3月、Web
発表者 古川祥太郎
題名 レオカーナ後も創が治らなかった1例

論文発表

- **雑誌名** 治療と仕事の両立支援コーディネーターマニュアル
発表者 松村敏幸
題名 両立支援コーディネーターに求められる基本的な医療知識:心疾患分野

認定施設 等

- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施施設

心臓血管外科

スタッフ紹介



心臓血管外科部長
森山 周二

【専門・認定・資格・所属学会】三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導責任者、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会認定医、日本血管外科学会、日本外科学会、日本循環器学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

心臓血管外科医師 中田 浩介

【専門・認定・資格・所属学会】日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科学会、緩和ケア研修会修了

心臓血管外科の特色

当科は平成3年に開設されて以来、30年以上の実績ある診療科です。心臓血管外科を標榜する施設が県中心部に集中しており、施設の集約化が求められるなかで唯一県中心部以外に存在しています。

当科では急性大動脈解離や大動脈瘤破裂などの救命のために緊急手術が必要な症例にも昼夜を問わず対応し、主に県南の地域医療に貢献してきました。小地方都市にある施設のため手術症例数は多くありませんが、当科では大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの血管内治療や弁形成術、下肢静脈瘤に対するレーザー治療にも取り組んでいます。

また当施設は上記の胸部および腹部大動脈瘤に対する県南唯一のステントグラフト実施施設です。「地元完結で社会復帰・自宅退院する」を第一に考え、患者様にとって最適な治療を提供し患者様や家族の望まれる治療ができるように努めています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	森山		森山	金子 (非常勤再診のみ) 森山 (要相談)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	88人
	延患者数	2,067人(5.7人/日)
外来患者数	新患者数	217人
	延患者数	1,562人(6.4人/日)

手術実績

症例	件数
冠動脈手術	9件
弁膜症手術	18件
単弁手術	8件
連弁膜症手術	10件
(Maze 手術併施)	1件
その他の心臓手術	1件
大動脈瘤手術	23件
胸部大動脈瘤	2件
開胸手術	2件
腹部大動脈瘤	21件
開腹手術	7件
ステント手術(EVAR)	14件
急性大動脈解離手術	4件
(上記のうち人工心肺使用手術)	34件
末梢動脈手術	7件
下肢静脈瘤手術	27件
(Laser手術)	21件
その他の手術	11件
計	96件

学会・講演会発表等

- 学会名 第55回日本胸部外科学会九州地方会総会
日程・会場 令和4年7月、長崎県長崎市
発表者 中田浩介
演題名 冠動脈鎖骨下動脈盗血症候群に対する一手術例

心臓血管外科

- **学会名** 第194回熊本外科集談会
日程・会場 令和4年9月、熊本県熊本市
発表者 中田浩介、森山周二、廣田貴史、
原 正彦、福井寿啓
演題名 超高齢者に対する心臓手術自験例の検討
- **学会名** 熊本県iNOフォーラム
日程・会場 令和4年11月、熊本県熊本市
発表者 廣田貴史、森山周二、中田浩介、
原 正彦、福井寿啓
演題名 2弁置換後周術期管理におけるNO吸入
療法の経験

臨床研究

- 破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究
- 急性大動脈解離症例の疫学および予後調査研究

認定施設 等

- 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設

消化器外科／一般外科

スタッフ紹介



一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



消化器外科部長
井上 光弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医、日本内視鏡外科学会認定医、日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本がん治療認定医機構認定医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科、一般外科副部長 **辻 顕**

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科、一般外科副部長 **江藤 二男**

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

消化器外科／一般外科の特色

国指定の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん治療の提供・患者や家族の満足度の高い治療と365日24時間熊本県南の救急患者さんの受け入れを2本柱で行っています。消化器外科医が中心となり、一般外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科・移植外科とチームで救急医療・診療にあたっています。鏡視下手術に力を入れており、胃・大腸・鼠径ヘルニア・肺の手術のみならず肝臓・膵臓の内視鏡外科手術や肝胆膵外科の高難度手術も行っています。ハイボリュームセンターに負けない手術とグローバルスタンダードな治療・手術を目指しています。

手術以外でも癌化学療法を積極的に入院・外来で行っており、県南では緩和病床も少ないため、緩和病床を活用し、看取りまで対応しています(年間35名程度)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
井上	井上 (新患)		担当医	江藤
	辻			

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	618人
	延患者数	8,443人(23.1人/日)
外来患者数	新患者数	1,120人
	延患者数	5,095人(21.0人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

手術実績

項目	件数
手術室内手術件数	792件

消化器外科／一般外科

学会・講演会発表等

- **学会名** 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 飯坂正義
演題名 大規模災害時における外科医の役割と今後の課題について—熊本地震, 令和2年7月豪雨を経験して—
- **学会名** 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 辻 顕
演題名 当院での直腸悪性腫瘍手術に対する経肛門減圧管の経験
- **学会名** 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 安倍悠乃
演題名 下部消化管内視鏡検査にともなう医原性鼠径ヘルニア嵌頓の2例
- **学会名** 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 宮城大智
演題名 肝硬変に伴う難治性腹水から発症した成人傍直腸ヘルニア根治術の1例
- **学会名** 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 松田崇秀
演題名 当院で経験した急性上腸間膜動脈閉塞症12例の検討
- **学会名** 第76回日本食道学会学術集会
日程・会場 令和4年9月、東京都新宿区
発表者 森永剛司
演題名 食道癌根治切除後のoligo-recurrenceの検討
- **学会名** 第60回日本癌治療学会学術集会
日程・会場 令和4年10月、兵庫県神戸市
発表者 飯坂正義
演題名 地方がん拠点病院における多職種連携—AYA世代進行胃癌に対する治療の一例—
- **学会名** 第95回日本胃癌学会総会
日程・会場 令和5年2月、北海道札幌市
発表者 飯坂正義
演題名 切除不能若年(A世代1)進行胃癌の1治療経験
- **学会名** 第95回日本胃癌学会総会
日程・会場 令和5年2月、北海道札幌市
発表者 森永剛司
演題名 胃癌におけるHLA-E発現制御機構の解明

- **学会名** 第59回日本腹部救急医学会総会
日程・会場 令和5年3月、沖縄県宜野湾市
発表者 飯坂正義
演題名 当院における閉鎖孔ヘルニア修復術の工夫—腹腔鏡下腹膜(ヘルニア嚢)翻転結紮法による閉鎖孔ヘルニア修復術について—

論文発表

- **雑誌名** Drug Discoveries & Therapeutics 16 (5), 251-253, 2022-10-31
発表者 Ohya Yuki, Hayashida Shintaro, Yoneda Akira, Tsuji Akira, Inoue Taihei, Chiyonaga Suguru, Kuramoto Kunitaka, Oda Kotaro, Iizaka Masayoshi, Nakahara Osamu, Inomata Yukihiko
題名 Laparoscopic-assisted treatment for diospyrobezoar-induced intestinal obstruction after distal gastrectomy and cholecystectomy

認定施設等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設(認定施設)
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 日本肝臓学会関連施設
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設育研修認定施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- NCD施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 日本乳癌学会関連施設

乳腺外科

スタッフ紹介



乳腺外科部長

林 裕倫

【専門・認定・資格・所属学会】日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建責任医師、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィー認定医(A判定)、乳房超音波医師講習会(A判定)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

乳腺外科医師

竹野 雅子

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

乳腺外科の特色

〈扱う疾患〉

乳腺疾患を担当します。

代表的な疾患名として、感染症(乳腺炎、乳輪下膿瘍、肉下腫性乳腺炎)、代謝性疾患(女性化乳房)、腫瘍性疾患(乳管内乳頭腫瘍、線維腺腫、葉状腫瘍、乳癌)などです。

〈検診〉

クーポン検診(氷川町、八代市、芦北町)の受診を受け付けています。

さらに、2023年度から乳がん検診コースを開設しました。

- (I) マンモグラフィコース
- (II) 乳腺超音波コース
- (III) マンモグラフィ+乳腺超音波コース

：検査日 ☞ 毎週火曜日、水曜日、木曜日

Real size 3D model of the breast cancer を用いて乳がん検診の啓蒙活動を平日頃の診療で実践しています。

Real size 3D model of the breast cancer とは乳癌MRI画像を実物大で3Dプリンターで出力作製したものです。実際の乳癌のサイズ、形状を手にとって実感していただいています。

〈手術〉

経口補水法を取り入れ、さらに疼痛管理対策により手術2～3時間後の食事および、早期離床を可能とし快適な周術期生活となるように取り組んでいます。

乳腺手術は乳房部分切除、乳房切除を実施しています。そしてセンチネルリンパ節生検は色素法とアイソトープ法の併用を採用実施しています。

〈薬物療法〉

乳がん初期治療は標準治療を基本としていますが、患者さんの基礎疾患や希望を取り入れた個別化医療を積極的に行っています。一方でステージⅣや手術不能の局所進行乳癌に関しても患者さんに満足していただける治療を実践しています。

最近の特徴としては遠方の施設より再発治療を希望されて受診される方が増加傾向です。このような方にも通院などの負担が少しでも軽減できるように配慮して診療させていただいています。

〈乳腺手術症例数〉

年度によって変動がありますが、年間約100症例前後の手術を実施しています。今後も、乳がん専門病院として八代地域の乳がん診療に貢献してまいります。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
林	林	林	林	林
	竹野	竹野 (午後)	竹野	

乳がん検診外来(クーポン健診):火・木

※月・水午前はその都度臨時に対応可能です

手術日:月・水・木・金(週4日対応)

化学療法:月・火・水・木・金(週5日対応)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	338人
	延患者数	2,173人(6.0人/日)
外来患者数	新患者数	1,120人
	延患者数	3,872人(15.9人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

手術実績

症例	件数
乳腺手術	85件

乳腺外科

検査実績

項目	件数
乳腺超音波検査	1,481件
マンモグラフィー検査	759件

学会・講演会発表等

- 学会名 第19回日本乳がん学会九州地方会
日程・会場 令和4年3月、長崎県長崎市
発表者 竹野雅子
題名 Collagenous spherulosisの一例
- 学会名 第30回日本乳癌学会学術総会
日程・会場 令和4年6月、神奈川県横浜市
発表者 林 裕倫、竹野雅子
題名 Real size 3D model of the breast cancer および演劇ビデオによる乳がん検診啓蒙への当院の取り組み
- 学会名 第18回熊本乳癌研究会
日程・会場 令和4年9月、熊本県熊本市
発表者 林 裕倫
題名 乳癌・卵巣癌手術歴のある左頸部リンパ節転移から学ぶもの

認定施設 等

- 日本乳癌学会認定施設

呼吸器外科

スタッフ紹介



呼吸器外科部長
柴田 英克

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・胸腔鏡安全技術認定・評議員、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・評議員、日本臨床細胞学会・専門医、がん治療認定医、日本肺癌学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

呼吸器外科の特色

呼吸器外科では、呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携し、正確な診断、病期の決定を行い、手術が必要な患者さんには速やかに手術を行います。また、手術後に抗癌剤治療が必要な患者さんには、当科において、継続的に治療を行っていきます。

呼吸器外科の手術においては、小さな傷で、患者さんへの負担軽減を目指す胸腔鏡下手術が主流となっております。当科でも、胸腔鏡下手術を積極的に行い、周術期の疼痛の軽減、早期退院、日常生活への早期の復帰を目指しております。

肺を切除するという事は、肺の機能を低下させます。当院では、術前・術後のリハビリテーションを行い、手術による日常生活の質の低下を最小にし、普段の生活への復帰をスムーズに行えるよう、リハビリテーション科と連携して診療にあたっています。

肺癌以外にも、気胸や、気管・気管支腫瘍、胸腺腫などの縦隔腫瘍、肋骨腫瘍などの胸壁腫瘍など、心臓・大血管、乳腺以外の胸部の疾患で手術対象となるものには積極的に手術を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
		柴田		柴田

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	100人
	延患者数	936人(2.6人/日)
外来患者数	新患者数	1,120人
	延患者数	866人(3.6人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

手術実績

症例	件数
手術件数	78件
肺癌	36件
転移性肺腫瘍	7件
縦隔腫瘍	3件
気胸・血胸	7件
膿胸	11件
その他	14件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第39回日本呼吸器外科学会学術集会
日程・会場等 令和4年5月、東京都港区
発表者 柴田英克
演題名 開窓術により心房細動が改善した中縦隔巨大嚢胞の1例

論文発表

- 雑誌名 日呼外会誌 2022; 36: 683-687
発表者 柴田英克、眞田 宗、鈴木 実
題名 9年の経過を追えた巨大肋骨原発線維性骨異形成の1切除例
- 雑誌名 気管支学 2023; 45: 135-139
発表者 柴田英克、丸山広高、山根宏美、安道 誠
題名 ノカルジア感染を合併した嚢胞状気管支拡張を伴う肺分画症の1切除例

認定施設等

- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

小児外科／移植外科

スタッフ紹介



小児外科部長
(兼緩和ケア科部長)
大矢 雄希

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・評議員、日本外科学会専門医・指導医、日本移植学会認定医、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了、緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了



移植外科部長
林田 信太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本移植学会認定医、日本小児外科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

小児外科・移植外科医師

有留 法史

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会、日本外科学会、緩和ケア研修会修了



院長
小児外科・移植外科医師
猪股 裕紀洋

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医、日本移植学会認定医、日本社会医学系指導医・専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了、八代水俣地域産業保健センター登録産業医

小児外科／移植外科の特色

(1)小児外科

新生児から中学生程度(16才未満)の年齢の範囲での、小児を対象とした、いわゆる一般外科疾患を扱います。新生児から乳幼児期には、小児特有の先天的な疾患の診断治療を行っています。当院は、熊本県内でも多くはない、日本小児外科学会の指導医・専門医が在籍する施設で、4名体制で専門医が対応しています。当院での収容や処置が困難な場合、大学病院などへの転送治療依頼を行います。また、鼠径ヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留睪丸、肛門部の異常(痔核、痔瘻など)なども当科の対象になります。慢性の便秘、反復する腹痛、時々見られる嘔吐などに小児外科対象疾患が隠れていることがあり、そのような症例の紹介にも対応しています。

なお、実績としては急性虫垂炎の手術症例も多く、ほとんどを腹腔鏡下で行っています。このほか、小児の胸部や腹部の外傷、異物誤嚥など、救急疾患にも対応しています。

(2)移植外科

肝臓移植を多数経験した日本移植学会認定医が3名在籍し、肝移植を必要とする患者さんの適応評価、説明、生体肝移植医療の実施、脳死移植施設への紹介などを行います。また、術後患者さんの日常的なフォロー、肝機能異常に対する肝生検を含めた評価と治療など、術後ケアにも継続的に対応しています。また、臓器提供推進にむけて院内体制整備支援事業、熊本赤十字病院を中心とした臓器提供施設連携体制構築事業に力をいれています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
大矢		猪股	林田	

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	289人
	延患者数	2,641人(7.2人/日)
外来患者数	新患者数	1,120人
	延患者数	1,344人(5.5人/日)

※外来新患者数は外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科の合計

小児外科／移植外科

手術実績

症 例	件数
小児外科関連の手術症例数	64件
鼠径ヘルニア、陰嚢水腫	17件
急性虫垂炎(腹腔鏡下虫垂切除術)	13件
肝生検	13件
臍ヘルニア	7件
停留精巣	7件
食道静脈脈結紮術(EVL)	3件
漏斗胸手術(Nuss手術)	2件
内肛門括約筋切開術(Lynn手術)	1件
舌小帯短縮症	1件

地域活動の実績

- 八代地域医療調整会議(委員) 猪股裕紀洋
- 熊本県移植医療推進ネットワーク協議会(会長) 猪股裕紀洋
- 厚生労働省 臓器移植委員会(委員) 猪股裕紀洋

学会・講演会発表等

- 学会名 第58回日本移植学会総会
日程・会場 令和4年10月、愛知県名古屋市
発表者 大矢雄希
演題名 生体肝移植15年後に右横隔膜ヘルニアを来した1例
- 学会名 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 大矢雄希
演題名 LPEC針を用いた腹腔鏡下胃瘻造設術44例の検討
- 学会名 第122回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和4年4月、熊本県熊本市
発表者 猪股裕紀洋
演題名 国内初の、多施設共同肝移植外科医養成事業の総括
- 学会名 第49回日本胆道閉鎖症研究会
日程・会場 令和4年12月、東京都港区
発表者 猪股裕紀洋
演題名 肝肺症候群、肺高血圧症を合併した胆道閉鎖症肝移植後の長期経過

論文発表

- 雑誌名 DEN Open. 2022; 3(1): e126
発表者 Abe Y, Ohya Y, Nakahara O, Chiyonaga S, Maeda Y, Ichikawa R, Imamura M, Yamabe S, Morinaga T, Tsuji A, Hayashida S, Iizaka M, Sasaki M, Inomata Y.
題名 Incarceration of a colonoscope in an inguinal hernia: A report of two cases
- 雑誌名 Drug Discov Ther. 2022; 16(5): 251-253.
発表者 Miyagi D, Nakahara O, Ohya Y, Kuramoto K, Tsuji A, Hayashida S, Inoue M, Iizaka M, Sasaki M, Inomata Y.
題名 Percutaneous surgical repair for a patient with adult pararectal hernia caused by intractable ascites associated with liver cirrhosis.
- 雑誌名 Journal of Pediatric Surgery Case Reports 2023; 89: 102526
発表者 Hayashida S, Inomata Y, Ohya Y, Matsumura T.
題名 Long term survival of a biliary atresia patient by repeated liver transplantations for portopulmonary hypertension in addition to the hepatopulmonary syndrome
- 雑誌名 Liver Transpl. 2022; 28(4): 603-614.
発表者 Yamamoto H, Sambommatsu Y, Ishii M, Shimata K, Isono K, Honda M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.
題名 Surgical Outcomes of Domino Liver Transplantation Using Grafts From Living Donors With Familial Amyloid Polyneuropathy.
- 雑誌名 Transplant Proc. 2023; 55(3): 606-612.
発表者 Ishii M, Ibuki S, Morinaga J, Shimata K, Hirukawa K, Isono K, Honda M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.
題名 Elevated Alfa-Fetoprotein and Des-Gamma-Carboxy Prothrombin Levels Predict Poor Outcomes After Liver Transplantation for Hepatocellular Carcinoma Beyond the Japan Criteria

小児外科／移植外科

- 雑誌名 Surg Case Rep. 2022 18; 8(1): 199.
発表者 Kadohisa M, Inomata Y, Sakisaka M, Sugawara Y, Hibi T.
題名 Massive duodenal ulcer bleeding due to the ruptured hepatic artery pseudoaneurysm after living donor liver transplantation.
- 雑誌名 Surg Endosc. 2022; 36(5): 3028-3038.
発表者 Kawano T, Souzaki R, Sumida W, Ishimaru T, Fujishiro J, Hishiki T, Kinoshita Y, Kawashima H, Uchida H, Tajiri T, Yoneda A, Oue T, Kuroda T, Koshinaga T, Hiyama E, Nio M, Inomata Y, Taguchi T, Ieiri S.
題名 Laparoscopic approach for abdominal neuroblastoma in Japan: results from nationwide multicenter survey
- 雑誌名 Gastroenterol. 2022; 57(7): 495-504.
発表者 Genda T, Ichida T, Tanaka E, Mochida S, Ueno Y, Terai S, Inui A, Ueda Y, Ohdan H, Egawa H, Umeshita K, Furukawa H, Inomata Y.
題名 Allograft liver failure awaiting liver transplantation in Japan
- 雑誌名 Pediatr Surg Int. 2022; 38(2): 201-208.
発表者 Kawabata S, Sakamoto R, Uto K, Irie T, Kadohisa M, Shimata K, Narita Y, Isono K, Honda M, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Yamamoto H, Nakano M, Sugawara Y, Inomata Y, Hibi T.
題名 Intellectual development of patients with biliary atresia who underwent living donor liver transplantation in infancy.

認定施設 等

- 日本外科学会専門医制度修練施設(継続)
- 日本小児外科学会教育関連施設B

臨床研究

- 令和4年度厚労科研費補助金 「難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究」研究分担者
(主任研究者 田口智章)
- 令和4年度厚労科研費補助金 「小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究班」研究協力者
(主任研究者 仁尾正記)

脳神経外科

スタッフ紹介



脳神経外科部長
植田 裕

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定

脳神経外科医師

河野 達哉

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

脳神経外科の特色

当科は熊本大学脳神経外科の支援のもと、脳神経外科疾患全般の治療を行っています。2023年4月から常勤医が新たなメンバーとなりました。

脳出血やくも膜下出血といった出血性脳卒中や頭部外傷といった救急疾患等にも対応し、ガイドラインに基づいた診断・治療を行っています。必要時は周辺の関連病院にも協力いただき、患者さんのニーズに合わせた治療を心がけております。虚血性脳卒中に対しても当院脳神経内科と協力し、内頸動脈や頭蓋内動脈の狭窄・閉塞に対する血行再建術などにも積極的に取り組んでまいります。

日本脳神経外科学会専門医制度における研修施設、脳卒中学会の研修教育施設などに認定されており、若手医師の教育、指導にも力を入れております。

また、当院では脳ドックも実施しており、未破裂脳動脈瘤や無症候性脳腫瘍などの早期発見やリスクの評価、疾患発症の予防にも取り組んでおります。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
脳神経外科	植田		植田		植田
	河野		河野		河野
			等 (非常勤)		
脳ドック	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	214人
	延患者数	6,156人(16.9人/日)
外来患者数	新患者数	744人
	延患者数	2,321人(9.6人/日)

手術実績

症 例	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	31件
水頭症手術(シャント手術)	10件
頭蓋内血腫除去	6件
脳動脈瘤クリッピング	6件
頭蓋形成術	5件
脳腫瘍摘出術	1件
穿頭脳室ドレナージ術	1件
内視鏡的血腫除去	2件
脳血管内手術(コイル塞栓)	8件
合 計	70件

認定施設 等

- 日本脳神経外科学会連携施設
- 日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- 日本脳ドック学会認定施設

整形外科

スタッフ紹介



副院長
池田 天史

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、日本救急医学会、日本骨折治療学会、日本脊椎脊髄病学会日本脊椎脊髄神経手術手技学会、日本災害医学会日本外傷診療研究機構、JATECインストラクター、日本DMAT隊員、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了、労災補償指導医、地方労災医員



整形外科部長
(兼関節外科部長)
宮崎 眞一

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、日本人工関節学会、日本股関節学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



手外科部長
土田 徹

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



脊椎外科部長
川添 泰弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

整形外科部長
二山 勝也

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本リウマチ学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、日本救急医学会、日本骨折治療学会、日本脊椎脊髄病学会日本脊椎脊髄神経手術手技学会、日本災害医学会日本外傷診療研究機構、JATECインストラクター、日本DMAT隊員、臨床研修指導医講習会修了、臨床研修プログラム責任者養成講習会修了、緩和ケア研修会修了

整形外科副部長
片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会、日本DMAT隊員、緩和ケア研修会修了

整形外科医師
石川 喜仁

【専門・認定・資格・所属学会】

整形外科医師
井手 淳之介

【専門・認定・資格・所属学会】
緩和ケア研修会修了

整形外科の特色

整形外科では医師9名で日常診療を行っています。脊椎外科・関節外科・手外科・外傷など専門性を重視し分担して診療にあたっています。また多くの研修医も整形外科をローテートしてくれており活気をもらっています。脊椎外科(顕微鏡使用の除圧術や低侵襲手術、金属を併用した固定術など)、関節外科(人工関節や関節鏡下手術など)、手外科、マイクロ、外傷(骨折や脱臼)に対する手術を多く行っています。病院内に多種類の手術材料・器械を準備しており急患に対して早期の手術も可能な状態です。他科の協力も得られており多発外傷・高エネルギー外傷にも対応しています。2022年度(2022年4月から2023年3月)の手術症例数は1,400例となっておりコロナ下においても昨年度と同等の手術件数を行っています。救急・手術に特に力を入れており、時間外、緊急の場合に対応しています。脊椎センターも担当しておりドクターヘリ等による脊椎脊髄損傷の県内からの受け入れや緊急手術も行っています。2022年度で1日平均入院患者数78.9人、1日平均外来患者数96.9人、平均在院日数20.7日でした。手術・救急対応重視の為、

整形外科

外来新患は救急と紹介患者とさせていただいています。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院後転院加療など大変お世話になっております。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
整形外科 ・ 脊椎 センター	川添	宮崎	川添	武藤	池田
	土田	池田	二山	土田	宮崎
	担当医	担当医	石川	担当医	担当医
	二山	片山	武藤	片山	井手
	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	1,385人
	延患者数	28,781人(78.9人/日)
外来患者数	新患者数	3,950人
	延患者数	23,536人(96.9人/日)

手術実績 (令和4年度年間手術室内手術症例)

症 例		件数
計		1,400件
分野別	脊椎	447件
	上肢、手	265件
	下肢	329件
	外傷	278件
	リウマチ	3件
	スポーツ	15件
	小児	32件
	腫瘍	31件

学会・講演会発表等

- 学会名 JOSKAS-JOSSM 2022
日程・会場 令和4年6月、北海道札幌市
発表者 湯本みずほ
演題名 Fleck signを伴う外傷性腓骨筋腱脱臼に対する固定法の工夫
- 学会名 水保市芦北郡医師会学術講演会
日程・会場 令和4年7月、熊本県水保市
発表者 池田天史
演題名 頸椎損傷・頸髄損傷の診断のポイント

- 学会名 第144回西日本整形・災害外科学会
日程・会場 令和4年11月、山口県宇部市
発表者 笹岡眞光
演題名 柔道により発症した上前腸骨棘・腸骨稜同時裂離骨折の1例
- 学会名 第144回西日本整形・災害外科学会
日程・会場 令和4年11月、山口県宇部市
発表者 湯本みずほ
演題名 骨折術後の抜釘施行後に生じた仮性動脈瘤の2例
- 学会名 Pain Live Symposium in 人吉球磨
日程・会場 令和4年12月、熊本県人吉市
発表者 池田天史
演題名 頸椎損傷・頸髄損傷の診断のポイントと治療について
- 学会名 Pain Live Symposium in 熊本
日程・会場 令和5年1月、熊本県熊本市
発表者 池田天史
演題名 脊椎疾患に対する保存療法～特に疼痛対策について～
- 学会名 痛みのマネージメントWebセミナー
日程・会場 令和5年2月、熊本県熊本市
発表者 池田天史
演題名 脊椎疾患に対する保存療法～手術適応について～
- 学会名 第4回 火の国外傷セミナー
日程・会場 令和5年2月、熊本県熊本市
発表者 湯本みずほ
演題名 今年度治療に難渋した多発外傷の1例
- 学会名 地域で考える骨粗鬆症 in 八代
日程・会場 令和5年3月、熊本県八代市
パネリスト 武藤和彦

論文発表

- 雑誌名 整形・災害外科 66 (1), 107-110, 2023-01-01
発表者 山元雅典、池田天史、宮崎眞一、土田 徹、川添泰弘、武藤和彦
題 名 症例 化膿性関節炎の鑑別を要した小児恥骨骨髓炎の1例

地域活動の実績

- JATEC 福岡コース(飯塚病院)インストラクター 武藤和彦
- JATEC 岐大コース(岐阜大学)インストラクター 武藤和彦

認定施設 等

- 日本整形外科専門医研修施設

形成外科

スタッフ紹介

形成外科医師(非常勤)

小倉 猛

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会、労災協力医、更生医療指導医、身体障害者法第15条指定医、難病指定医、緩和ケア研修会修了

形成外科医師(非常勤)

坂本 佳奈

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会

形成外科の特色

形成外科は、主に先天性の奇形、後天性の変形などを形態的、機能的に修復、再建する科で、最終的な目標として、社会に適応していただくことを目的としております。

取り扱う主な疾患は、おおよそ以下のとおりです。

(1)救急

- 顔面外傷(上顎骨、頬骨、下顎骨、鼻骨骨折含む)
- 熱傷(初期の局所、全身管理から瘢痕まで)
- その他(主として剥脱創、皮膚欠損創)

(2)先天異常

- 唇裂、口蓋裂(言語障害を伴う)
- 頭蓋、顔面(耳介、眼瞼、鼻、顔面骨など)の奇形
- 母斑、血管腫、その他の皮膚腫瘍
- 手足の先天異常(多指症、合指症)
- その他(陥没乳頭、胸筋欠損など)

(3)後天性変形

- 熱傷、外傷後の瘢痕、瘢痕拘縮
- 各種皮膚潰瘍(褥瘡など)
- 陳旧性顔面骨骨折(鞍鼻、斜鼻など)
- その他(陥入爪など)

(4)悪性腫瘍

- 顔面の癌摘出や術後変形の再建
- 乳癌切除後の乳房再建
- 放射線照射後の難治性潰瘍の修復

診療体制

外来

月	火	水	木	金
小倉 (非常勤)		小倉 (非常勤)	坂本 (非常勤)	

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	56人
	延患者数	368人(1.0人/日)
外来患者数	新患者数	509人
	延患者数	1,862人(7.7人/日)

手術実績

区分	件数
入院手術件数	52件
全身麻酔	39件
腰麻・伝達麻酔	2件
局所麻酔・その他	11件
外来手術件数	285件
局所麻酔・その他	285件

手術例内訳

区分	入院手術			外来手術	件数
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	局所麻酔・その他	
1 外傷	2		1	85	88
2 先天異常	12			5	17
3 腫瘍	22	2	6	120	150
4 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2		1	2	5
5 難治性潰瘍	1				1
6 炎症・変性疾患			1	30	31
7 その他			1		1
Ex レーザー治療				43	43
大分類計	39	2	10	285	336

皮膚科

スタッフ紹介



皮膚科部長
城野 剛充

【専門・認定・資格・所属学会】日本皮膚科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

皮膚科医師
押川 由佳

【専門・認定・資格・所属学会】
皮膚科専門医、日本皮膚科学会、日本研究皮膚科学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

皮膚科医師
山下 淳二

【専門・認定・資格・所属学会】

皮膚科の特色

皮膚は全体重の16%を占め最大の臓器であり、その役割・機能としては、体内の水分の喪失を防ぎ、紫外線など外界からの物理的・化学的刺激や微生物から生体内部を保護する働きがあります(ホメオスタシスの維持)。また、発汗作用などによる体温調節、痛みや温度に対する感覚器の役目も果たしており、さらに免疫反応の場としての役割も担っています。皮膚は最外層にあり、自分以外の人の目にも触れることから社会的境界線と表現される事もあります。このような様々な機能を担う皮膚が障害されることで日常生活に直接支障が生じることもあれば、掻痒やそれによる不眠が生じたり、また見た目の問題で精神的ダメージを負う事もしばしばあります。皮膚の疾患を罹患した方ではこれらの理由で「生活の質: QOL」が低下していることが明らかになっており、皮膚科では症状や病変部のみでなく、心の健康にも配慮して診療を行っています。

近年、皮膚科領域の多くの疾患において新しい薬剤・治療の開発が進み、治療の選択肢は10年前とは大きく変わり、アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬といった疾患を中心に当時は治らなかった皮膚病変が「治る」時代になりました。同様に他科の疾患においても新薬の開発は目まぐるしい中で、皮膚障害が起こりやすい薬剤の使用も増加しています。それら他科における治療時の皮膚障害を最小限にし、治療継続を下支えするのも当科の役目と考えています。

〈医療機関の方々へ〉

皮膚に関することでしたら何でも対応いたしますので遠慮なくご紹介ください。また、ご要望等ありましたらお気軽にご連絡下さいませ。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
城野	城野	担当医	城野	山下
山下	押川		押川	押川

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	236人
	延患者数	2,545人(7.0人/日)
外来患者数	新患者数	1,725人
	延患者数	8,978人(36.9人/日)

手術実績

区分	件数
入院手術件数	185件
外来手術件数	241件

検査実績

区分	件数
皮膚生検	229件

認定施設等

- 皮膚科学会専門医教育研修認定施設

泌尿器科

スタッフ紹介



泌尿器科部長
宮本 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



第二泌尿器科部長
中村 圭輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医、緩和ケア研修会修了

泌尿器科医師

今藤 淳之助

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

泌尿器科の特色

泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしくごお願い申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、こ

の10数年一定数を維持していることから八代圏では手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹介をお願い申し上げます。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
宮本	手術日につき要相談	宮本	今藤	中村

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	311人
	延患者数	2,560人(7.0人/日)
外来患者数	新患者数	763人
	延患者数	6,068人(25.0人/日)

手術件数

項目	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	44件
経尿道的前立腺切除術	15件
腎(尿管)悪性腫瘍手術	19件
前立腺全摘術	4件
小児手術	7件
停留精巣固定術	4件
精巣捻転手術	2件
その他	1件
尿道狭窄内視鏡手術	3件
前立腺生検	45件
経尿的尿管ステント留置術	18件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)上部尿路	13件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)下部尿路	4件
精巣の手術(除睾術陰のう水腫)	15件

泌尿器科

学会 講演会発表等

- **学会名** 日本泌尿器科学会第204回熊本地方会
日程・会場 令和4年9月、熊本県熊本市
発表者 今藤淳之助、中村圭輔、宮本 豊
演題名 膀胱に発生した炎症性筋線維芽細胞腫の1例

- **学会名** 日本泌尿器科学会第205回熊本地方会
日程・会場 令和5年3月、熊本県熊本市
発表者 今藤淳之助、中村圭輔、宮本 豊
演題名 Pembrolizumeb+Lenvatinib療法中にirAEを発症し難渋した腎細胞癌の一例

認定施設 等

- 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設

産婦人科

スタッフ紹介



副院長
(兼産婦人科部長)
(兼地域医療連携副室長)
福松 之敦

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科指導医、日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医・指導医、日本がん検診・診断学会認定がん検診認定医、母体保護法指定医師、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

産婦人科医師
値賀 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科指導医、母体保護法指定医師、緩和ケア研修会修了

産婦人科医師
坂田 準

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専攻医

産婦人科の特色

地域周産期中核病院の産科として、八代圏域にとどまらず、人吉球磨圏域、宇城圏域、芦北圏域からの症例にも対応し、他科との連携により様々な合併症妊娠の管理を行っています。また、当院には新生児集中治療室はありませんが、小児科と連携し切迫早産の入院管理や、妊娠34週以降で人工呼吸管理が必要ないと予想される早産にも対応します。

婦人科疾患に関しては、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍などの良性疾患はもとより、子宮頸がん・体がん、卵巣がん、腹膜がんなどの悪性腫瘍の治療も行っています。手術療法に加え、化学療法や放射線科との共診による放射線治療も可能です。

かかりつけの患者様で産婦人科に関連する訴えがあれば、お気軽にご紹介いただければ幸いです。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
産婦人科	一般外来	福松		福松	坂田	福松
		桑原 (非常勤)	値賀	桑原 (非常勤)	値賀	値賀
	がん検診		福松 坂田			
	助産外来	午後 (要予約)	午後 (要予約)	午後 (要予約)	午後 (要予約)	午後 (要予約)

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	349人
	延患者数	3,176人(8.7人/日)
外来患者数	新患者数	595人
	延患者数	5,935人(24.4人/日)

〈婦人科手術〉

症 例	件数
子宮全摘出術	28件
悪性腫瘍AT+BSO、再発など	8件
筋腫核出術	4件
開腹附属器腫瘍手術	32件
円錐切除	7件
子宮内膜搔爬術	6件
帝王切開	65件
選択	25件
	緊急
開腹手術	106件

〈産科〉

症 例	件数
分娩数(帝王切開 例、双胎 例含む)	110件
流産処置(手動真空吸引法)	3件

産婦人科

学会 講演会発表等

- **学会名** 令和4年度熊本産科婦人科学会総会及び第240回学術講演会
日程・会場 令和4年7月、熊本県熊本市(ハイブリッド開催)
発表者 山本康寛、値賀正彦、福松之敦
演題名 間葉系腫瘍と鑑別を要した子宮内膜ポリープの2例
- **学会名** 第74回日本産科婦人科学会学術講演会
日程・会場 令和4年8月、福岡県福岡市
発表者 東矢俊光¹⁾、西村朗甫²⁾、今村裕子²⁾、値賀正彦³⁾、田山親吾²⁾、近藤英治²⁾
 1) JCHO熊本総合病院、2) 熊本大学病院、3) 熊本労災病院
演題名 子宮頸がんIII期にて化学放射線療法後、経過良好であった症例で、約19年後に見られた悪性腹膜中皮腫の1例
- **学会名** 第74回日本産科婦人科学会学術講演会
日程・会場 令和4年8月、福岡県福岡市
発表者 今村裕子^{1,2)}、島田清史郎^{1,2)}、値賀正彦¹⁾
 1) 熊本労災病院、2) 熊本大学病院
演題名 子宮頸癌の加療後に小腸腔瘻を発症し外科的治療が有効であった一例
- **学会名** 令和4年度熊本産科婦人科学会第241回学術講演会
日程・会場 令和4年11月、熊本県熊本市(ハイブリッド開催)
発表者 山元康寛¹⁾、岩越 裕¹⁾、下川理沙²⁾、値賀正彦³⁾、田山親吾¹⁾、山口宗影¹⁾、本原剛志¹⁾、福松之敦³⁾、東矢俊光²⁾、近藤英治¹⁾
 1) 熊本大学大学院生命科学研究部 産科婦人科学講座、2) JCHO熊本総合病院 婦人科、3) 独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院 産科婦人科
演題名 術前化学療法中に腫瘍崩壊症候群を発症し、救命しえた悪性卵巣腫瘍の一例
- **学会名** 令和4年度熊本産科婦人科学会第242回学術講演会
日程・会場 令和5年3月、熊本県熊本市(ハイブリッド開催)
発表者 簗島 弘、蛭原優花、値賀正彦、福松之敦
演題名 甲状腺ホルモン産生を伴う卵巣甲状腺腫の一例

認定施設 等

- 日本産科婦人科学会専攻医教育研修認定施設

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科部長
増田 聖子

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会指導医、日本気管食道科学会専門医(咽喉系)、がん治療認定医機構がん治療認定医、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、補聴器適合判定医師、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会補聴器相談医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会騒音性難聴相談医、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、小児慢性特定疾病指定医、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会熊本県地方部会理事、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会熊本県補聴器キーパーソン、熊本県耳鼻咽喉科医会理事、熊本県障害児審査委員会委員、労災協力医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

耳鼻咽喉科医師
村上 瑛

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、緩和ケア研修会修了

耳鼻咽喉科医師
竹村 隼也

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、緩和ケア研修会修了

耳鼻咽喉科の特色

常勤医3名体制で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般の診断、診療を行っています。

特色

- 一般的な耳鼻咽喉科疾患、手術をガイドラインに基づいて行っています。
- 緊急入院は365日体制で受け入れており、緊急手術症例も全例当院で行っています。
- 頭頸部癌診療を積極的に行っており、年々患者数が増加しています。現在頭頸部癌ガイドラインで推奨されている、一般的な化学療法・分子標的薬レジメンはほぼすべて施行しています。また頭頸部癌手術も積極的に行っており、終末期医療もできる限り当院で行っています。
- 耳鼻咽喉科の特色である、感覚器障害や機能障害の診療に積極的に取り組んでいます。予約制の特殊外来として、補聴器耳鳴外来、嚥下外来、嗅覚外来、めまい外来、顔面神経麻痺外来を行っています。社会の高齢化に伴い、感覚器障害や機能障害の患者が急増することが予測され

るため、これに対応する外来診療の充実を図っています。

- 診療レベル向上のため、各種講習会、学術講演会にも積極的に参加しています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
午前	増田	増田	村上	増田	担当医
	村上	竹村	竹村	村上	
午後				補聴器・耳鳴外来	手術
	手術	手術		嚥下外来	手術
	補聴器・耳鳴外来(1,3,5週)				
					顔面神経麻痺外来

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	484人
	延患者数	4,344人(11.9人/日)
外来患者数	新患者数	1,441人
	延患者数	7,918人(32.6人/日)

手術実績

症例	件数
耳科手術	計 44件
鼓膜チューブ挿入術	39件
先天性耳瘻管摘出術	1件
鼓膜形成術	4件
鼻科手術	計 200件
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	95件
鼻中隔矯正術	43件
鼻甲介切除術	55件
涙嚢・鼻涙管手術	4件
眼窩吹き抜け骨折手術	2件
その他	1件

耳鼻咽喉科

症 例	件数
口腔咽喉頭手術	計 186件
扁桃摘出術	119件
アデノイド切除術	21件
唾石摘出術	6件
舌・口腔良性腫瘍摘出術	1件
舌・口腔悪性腫瘍摘出術	3件
咽頭悪性腫瘍摘出術	1件
その他咽頭手術	9件
喉頭微細手術	23件
嚥下機能改善手術、誤嚥防止手術、音声機能改善手術	3件
頭頸部手術	計 68件
頸部郭清術	4件
顎下腺悪性腫瘍摘出術	1件
耳下腺良性腫瘍摘出術	10件
耳下腺悪性腫瘍摘出術	1件
甲状腺良性腫瘍摘出術	5件
甲状腺悪性腫瘍摘出術	8件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	5件
鼻・副鼻腔悪性腫瘍摘出術	3件
頸部リンパ節生検	5件
頸部嚢胞摘出術	2件
顎下腺摘出術	5件
その他の頸部手術	19件
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	15件
気管切開術	23件

学会・講演会発表等

- 学会名** 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会学術講演会
日程・会場等 令和4年5月、熊本県熊本市
発表者 増田聖子
 共同演者:村上 瑛、植田寛之、高野若菜
演題名 最近1年間に治療を行った深頸部膿瘍症例の検討
- 学会名** 第84回耳鼻咽喉科臨床学会
日程・会場等 令和4年7月、広島県広島市
発表者 増田聖子
 共同演者:植田寛之、高野若菜
演題名 乳癌篩骨洞転移の1例

- 学会名** 第84回耳鼻咽喉科臨床学会
日程・会場等 令和4年7月、広島県広島市
発表者 村上 瑛
 共同演者:宮丸 悟、幸野香織、折田頼尚
演題名 EBウイルス関連リンパ増殖性疾患(EBV-LPD)による口腔咽喉頭潰瘍の1例
- 学会名** 第61回日本鼻科学会
日程・会場等 令和4年10月、石川県金沢市
発表者 増田聖子
 共同演者:村上 瑛、植田寛之、高野若菜、折田頼尚
演題名 術後性上顎嚢胞に発生した上顎洞癌の1例
- 学会名** 第61回日本鼻科学会
日程・会場等 令和4年10月、石川県金沢市
発表者 植田寛之
 共同演者:村上瑛、高野若菜、増田聖子
演題名 小児多発血管炎性肉芽腫の1例

地域活動の実績

- 熊本県障害児審査委員会委員** 増田聖子(H27年度～)
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会 学校保健担当委員** 増田聖子(H29年度～)
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会 医療福祉担当委員** 増田聖子(H29年度～)
- 熊本労働局 労災協力医** 増田聖子(R2年度～)

認定施設 等

- 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科研修施設**
- 日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設**
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(咽喉系)**

眼科

スタッフ紹介

眼科副部長

入江 杏菜

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会、緩和ケア研修会修了

眼科医師

吉積 華子

【専門・認定・資格・所属学会】日本眼科学会、日本白内障屈折矯正手術学会、緩和ケア研修会修了

視能訓練士

梶原 結真

【専門・認定・資格・所属学会】日本視能訓練士協会

視能訓練士

福田 夏美

【専門・認定・資格・所属学会】日本視能訓練士協会

眼科の特色

眼科の診療は医師2名(うち1名育休中)、看護師1名、ORT2名の体制で行っています。

外来日は月～金曜日の主に午前中で、完全予約制ではありません。当日午前11時までに受診いただければ柔軟に対応いたしますのでご相談ください。

午後からは特殊検査や処置のほか、手術説明会を行っています。

手術日は月・木曜日の午後で白内障手術を中心とし、翼状片手術のほか、耳鼻科医師の協力のもと全身麻酔下で涙嚢鼻腔吻合術(鼻内法)も施行しています。

基本的に当院での手術は入院下であり、白内障ですと片眼2泊3日で施行しています。

熊本県南の中核病院としての役割を果たしていきますよう努めて参りたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
吉積	吉積	吉積	手術日につき要相談	吉積

診療実績

患者数

入院患者数	新患者数	159人
	延患者数	399人(1.1人/日)
外来患者数	新患者数	614人
	延患者数	5,429人(22.3人/日)

手術・治療実績

手術室内で行ったもの	件数
水晶体再建術	155件
眼瞼結膜腫瘍手術	1件
翼状片手術	8件
外来で行ったもの	件数
角膜・強膜異物除去術	1件
結膜下異物除去術	1件
後発白内障手術	13件
創傷処理	1件
虹彩光凝固術	2件
麦粒腫切開術	1件
網膜光凝固術	10件
霰粒腫摘出術	1件
硝子体注射(アイリニア)	83件
硝子体注射(ルセンティス)	60件

学会・講演会発表等

- 学会名** 第567回 熊本眼科集談会
日程・会場 令和5年3月、熊本県熊本市
発表者 吉積華子¹⁾、梶原結真¹⁾、入江杏菜¹⁾、古島京佳²⁾、松本菜音²⁾、福田莉香子²⁾、岩崎留己²⁾、蕪 龍大²⁾、竹下哲二²⁾
 1)熊本労災病院、2)上天草総合病院
演題名 分節型低加入度数眼内レンズと焦点深度拡張型単焦点眼内レンズの中間視力の年齢による差
- 学会名** 第38回JSCRS学術総会
日程・会場 令和5年6月、北海道札幌市
発表者 吉積華子
演題名 2種IOLの年齢による中間視力

認定施設等

- 日本眼科学会専門医制度研修施設

リハビリテーション科

スタッフ紹介



リハビリテーション科部長
松村 直樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本リハビリテーション医学会認定医、がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了、日本老年医学会東海支部主催高齢者医療研修会研修了

リハビリテーション科の特色

当科は、リハビリテーション科医師1名、理学療法士16名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、診療助手3名でのスタッフで構成されています。

リハビリテーションは様々な疾患や外傷によって生じた障害に対して、その評価と診断のもとに必要・適切な治療を行うものであり、食事、移動、排せつ、更衣、整容などの日常生活動作(ADL)を自立して行い、かつ日常生活関連動作(IADL:買い物、調理、洗濯、掃除など)も快適に遂行でき、介助量を軽減して生活の質(QOL)を高め、復学、復職、家庭復帰していくことを目指します。

当院では、急性期脳血管障害、整形外科疾患、脊髄損傷、各種神経疾患のリハビリは勿論のこと、心臓循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患等で安静臥床が必要な患者様に生じやすい廃用症候群の予防を目的としたリハビリについても、入院または手術後の早期から取り組んでいます。他にも、脳血管障害等で生じた上下肢筋痙縮に対してボツリヌス毒素を用いた治療も行っております。

様々な病態に対して、ニーズに応じたリハビリテーション治療を提供できるよう、知識技術・人間力の向上に努めてまいります。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
松村	松村	松村	松村	松村

認定施設 等

- 日本脳ドック学会認定施設

放射線科

スタッフ紹介



放射線科部長
臨床教授

荒木 裕至

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本医学放射線学会研修指導者、臨床研修指導医養成講習会修了

放射線科副部長

横田 康宏

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本消化器内視鏡学会、日本消化器病学会、緩和ケア研修会修了

放射線科副部長

井上 泰平

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、緩和ケア研修会修了

放射線科医師

森口 直哉

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、緩和ケア研修会修了

放射線科の特色

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医修練機関および画像診断管理認証施設に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

平成29年1月より熊本県初導入の2管球CTが稼働しています。熊本県南地区をはじめ医療圏のニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。さらに令和3年10月に2台体制の64列CTを更新致しました。更新したCTはスイッチング方式のデュアルエネルギーCTですので、上記2管球CTと合わせて従来と比べ、レベルアップした診断体制となりました。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
一般外来	荒木	井上	横田	荒木	荒木
特殊外来		放射線治療外来 村上 (非常勤) 要予約		IVR外来 田村 (非常勤) 要予約	放射線治療外来 山田 (非常勤) 要予約

診療実績

検査実績

区分	件数
CT 検査	17,297件
MRI 検査	5,758件
RI 検査	412件

(その他)大動脈ステントグラフトなど、高度先進的な医療(特殊)な手術・検査を実施。

放射線科

学会 講演会発表等

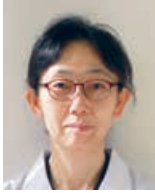
- **開催名** 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和4年7月、WEB
発表者 森口直哉
題名 脾臓血管肉腫の腫瘍破裂による腹腔内出血の一例
- **開催名** 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和5年1月、WEB
発表者 森口直哉
題名 頚椎および椎体外に発生した赤芽球性肉腫の一例
- **開催名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和4年12月、熊本県八代市
発表者 徳永成晃、横田康宏
題名 耳下腺腺房細胞癌の1例
- **学会名** 第114回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
日程・会場等 令和4年12月、熊本県熊本市
発表者 横田康宏
題名 腹腔内出血が契機で発見された脾臓血管肉腫の一例
- **開催名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年1月、熊本県八代市
発表者 田上 慧、井上泰平
題名 後縦隔髄外造血巣の1例
- **開催名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年2月、熊本県八代市
発表者 持田香織、横田康宏
題名 硬化性肺胞上皮腫の1例
- **開催名** 院内症例検討会
日程・会場等 令和5年3月、熊本県八代市
発表者 隈部 光、井上泰平
題名 卵巣甲状腺腫の1例

認定施設 等

- 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設
- 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

麻酔科

スタッフ紹介



麻酔科部長
集中治療科部長
成松 紀子

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本救急医学会救急科専門医、Infection Control Doctor (ICD)、日本DMAT隊員(統括)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



第二麻酔科部長
中央手術部長
山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、日本臨床麻酔学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了



第三麻酔科部長
中嶋 健

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本麻酔科学会専門医、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

麻酔科医師
是松 伸之介

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、緩和ケア研修会修了

麻酔科医師
田中 祥平

【専門・認定・資格・所属学会】緩和ケア研修会修了

麻酔科の特色

常勤医5名に加えて週2回、熊本大学麻酔科より非常勤医師の応援を頂きながら手術麻酔、集中治療に携わっています。術前に麻酔科外来で直接診察を行い、検査結果などから問題点を拾い上げ、患者さまが安全に手術を受けられるよう、最適な麻酔方法を選択します。患者さまへの麻酔説明もこのときに行いますが、少しでも手術への不安を和らげられるよう心がけており、質問などもお受けしています。麻酔の種類には全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔)、局所麻酔などがあります。当院では

局所麻酔以外の手術の麻酔はすべて麻酔科医によって施行されます。

術後は麻酔状態からの回復を待って、痛みや吐き気、その他患者さまの全身状態を評価して病棟に戻るためのチェックを行います。手術部位の痛みに対しては硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬の持続注射などでコントロールを行い、麻酔関連の合併症がなかったかどうかの診察も術後数日の間に行っています。

集中治療室は6床あります。基本的には主治医科管理になっていますが、平日の日勤帯は麻酔科医の担当医が携わるようにしています。術後の患者や救急患者の受け入れを行っています。

地域救急医療との連携も当院にとっては不可欠です。救急救命士の気管挿管実習をはじめ、八代地域の救急隊員、救急救命士の技術の向上、知識維持のための定期的な研修にも積極的に協力しています。

診療体制

術前外来

月	火	水	木	金
成松	成松	成松	成松	成松

診療実績

診療実績

症例	件数
手術室における手術件数(局所麻酔症例含む)	3,804件
麻酔科管理症例数	2,607件
全身麻酔	2,153件

認定施設等

- 日本麻酔科学会認定病院

病理診断科

スタッフ紹介



病理診断科部長
栗脇 一三

【専門・認定・資格・所属学会】日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会専門医研修指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、厚生労働省認定死体解剖資格、臨床研修指導医講習会修了

臨床検査技師

臨床検査技師

井上 博幸

臨床検査技師

関本 香純

臨床検査技師

川野 陽子

臨床検査技師

園田 鮎美

臨床検査技師

田中 寛大

病理診断科の特色

病理診断科では、当院の理念である良質で信頼される医療に貢献するために、診療で提出される患者さんから採取された組織検体や細胞診検体を用いて、病理診断を行っています。全身の組織（頭頸部、食道、胃、十二指腸、大腸など消化管、肺、肝臓、胆嚢、胆管、膵、卵巣、子宮体部、子宮頸部、膀胱、腎臓、前立腺、皮膚、骨など）の生検や手術標本の診断を行っています。また、細胞診標本（胸水、腹水、肺、膵、胆汁、子宮頸部・体部、甲状腺、乳腺、リンパ節）など多彩な穿刺吸引細胞診を行っています。これらの診断により、患者さんの手術や化学療法の治療方針の決定がなされることとなります。組織検体から免疫染色や遺伝子解析から、化学療法の選択に寄与する情報の提供も行われています。

術中迅速組織診断により、手術中に断端やリンパ節における癌の有無、腫瘍の良悪の判定を行っています。また胸水、腹水、洗浄液における術中迅速細胞診も行っています。

当院で不幸にして亡くなられた患者さんに対して、病理解剖が行なわれることがあります。病理解剖により、最終的な死因や、生前の臨床診断の確認、病変の広がりや治療効果の判定、時に予想してい

ない病変が見出されることもあり、診断治療の検証の機会となっています。

診療実績

診断等件数

	R2年度	R3年度	R4年度
組織診断	3,800件	3,337件	3,889件
術中迅速診断	96件	118件	129件
細胞診断	3,172件	3,413件	2,741件

認定施設 等

- 日本病理学会研修登録施設
- 日本臨床細胞学会認定施設

初期臨床研修医

臨床研修理念

当院は、多診療科を有する地域の中核病院として、救急医療、がん治療、小児周産期医療など豊富で幅広い症例を背景に、初期研修医に対して、チーム医療の中で、医療の基礎知識、総合的診断能力や基礎的医療技術の修得を目指した研修を実施しています。当院での研修を通して、医師としての社会的使命を認識し、生命に関わる倫理の向上や人格の涵養を図り、どこでもどのような立場でも活躍できる能力を備えた医師の基礎を形作ります。

研修医の自主性が尊重される研修システムであり、積極性のある研修医は臨床経験も豊富となり、大きな伸びが期待できます。

研修プログラムの特徴

内科においては、総合内科として6か月の研修をまず行い、その後希望に応じた多彩で柔軟なプログラムを用意します。

研修医は一学年10名前後と少数であり、指導医がマンツーマンできめ細かく対応しています。経験症例は、カンファレンスや医局会で発表し、1年目から学会（地方、全国）発表も行っています。また、研修期間内で論文（英文和文）の投稿についても指導しており、実績もあります。

その他、労災病院の特色として、勤労者医療・産業医活動、職業別疾病医療も研修が可能です。

2年次研修医(令和4年度採用)



後列左から：田上 慧、甲斐 智恭、田畑 遼、徳永 成晃
前列左から：塚本 尚紀、持田 香織、隈部 光、吉岡 幸英

1年次研修医(令和5年度採用)



左から：長 春菜、糸永 光里、荒金 真帆、天野 ゆり



シーネ固定研修



中心静脈カテーテル研修



気管挿管に関する勉強会



臨床研修修了式

中央手術部

スタッフ紹介



中央手術部長
(第二麻酔科部長)

山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】麻酔科標榜医、日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、日本臨床麻酔学会、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

手術室師長
田頭 久代

中央臨床工学部長
植田 公昭

麻酔科常勤医師 5名
看護師 22名
看護助手 2名
臨床工学技士 6名
医師事務作業補助者 1名
○手術室数:8室(うち1室バイオクリーンルーム)、1室簡易陰圧装置設置

- ・安全対策：医療事故防止のために、手術全例でマーキング・タイムアウトを実施し、患者確認・手術部位確認の徹底を行っています。

診療実績

手術実績

	R2年度	R3年度	R4年度
手術件数	3,380件	3,049件	3,804件
緊急手術	950件	1,166件	1,184件

手術が円滑に行えるよう各診療科・部門と協力を行いチーム医療に努めるとともに、患者様が安全・安心に手術を受けられるよう努力して参ります。

中央手術部の特色

- ・外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、整形外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、眼科、消化器内科の手術を行っています。
- ・予定手術だけでなく緊急手術を数多く受け入れており、休日・夜間は麻酔科医1、2名と看護師2、3名のオンコール体制で24時間の緊急手術に備えています。

看護師の取り組み

- ・術前訪問：外来で、もしくは病室を訪問し入室してから退室前までの流れを説明し、患者さんの不安を少しでも和らげられるよう取り組んでいます。
- ・術後訪問：術後患者さんを訪問し、術中の良肢位保持や安全確保のためのフィードバックにつなげ、より良い看護が行えるよう取り組んでいます。

救急部

スタッフ紹介



一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)、臨床研修指導医講習会修了、緩和ケア研修会修了

外来看護師長

中島 真由子

外来看護師長補佐	2名
看護師	8名
看護助手	1名
医師事務作業補助者	1名

救急部の特色

熊本労災病院は、開院以来、八代医療圏のみならず県南地域の二次救急医療の拠点病院として急性期医療を担ってまいりました。八代を中心に、水俣・葦北、人吉・球磨、宇城などの周辺医療圏より、年間およそ3,500台から4,000台もの救急車を受入れているほか、ヘリポートの設置以降は、天草医療圏や熊本医療圏など、より遠方の医療圏からの救急

患者についても、積極的に受入れを行なっています。

熊本労災病院救急部の特徴は、日勤帯／夜間帯あるいは平日／休日を問わず、24時間、365日、内科系および外科系の当番医師をそれぞれ配置していることにあります。これにより迅速かつ適切な受入れ、初期診療が可能で、全診療科の各専門医の医療的介入へ円滑につなげることが可能となっています。また当救急部は、いわゆる“持ち寄り型”ともいえますが、疾患によっては、各科専門医が、より迅速に介入できる利点があります。とりわけ高エネルギー外傷などの重症外傷については、外科、整形外科、脳神経外科が連携して対応しているほか、小児科、産婦人科に積極的に参画してもらうことで、熊本県小児初期救急医療病院、熊本県産科中核病院としての機能を果たしています。

そのほか、当救急部としては、八代救急隊との病院滞在型救急ワークステーションや、院内職員や救急隊のほか、保健所、開業医の先生方にもご参加いただく救急症例検討会などをおして、救急隊はもとより、圏内の救急医療に関わる諸先生方とのパートナーシップをより深化してまいります。救急専門医指揮下の独立した救急チームや専用入院病床の整備など、未完成な点も多々ありますが、従前の体制による機動的な運用でカバーしつつ、今後の継続的進化を目指したいと思っております。

最後に、あらためて熊本労災病院救急部の発足をお知らせするとともに、“全ては、救急患者さまのため”、全身全霊を込めて、県南地域の急性期医療を支えてまいり所存ですので、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

救急搬送件数の推移

救急車搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2	295	299	305	400	372	328	348	319	348	350	292	296	3,952
R3	290	320	293	376	311	291	344	332	378	336	300	378	3,949
R4	323	333	418	465	401	385	364	339	437	429	365	385	4,644

救急ヘリ搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R2	4	1	0	27	3	2	4	1	3	3	2	1	51
R3	7	0	0	3	3	2	3	3	2	3	3	2	31
R4	0	1	2	1	3	2	1	0	2	1	4	2	19

※令和2年7月は、豪雨災害による増

DMAT

スタッフ紹介

■ 医師



(統括DMAT)
一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義



麻酔科部長
成松 紀子



第二脊椎外科部長
武藤 和彦



整形外科副部長
片山 修浩

■ 看護師



看護師長補佐
岩本 真奈美



看護師長補佐
橋本 直紀



稲田 聡美



中倉 智樹



三浦 由美子



大山 里奈

■ 業務調整員



主任理学療法士
長田 政和



医療ソーシャルワーカー
(社会福祉士)
椀谷 豊

DMAT

DMATの特色

熊本労災病院は、熊本県地域災害拠点病院に指定されており、DMAT指定医療機関でもあります。DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは、災害時医療派遣チームの一つで、その発端は、1995年に発生した阪神・淡路大震災に遡ります。阪神・淡路大震災においては、500人以上の防ぎ得たであろう災害死があったと推定されています。その背景には、①発災直後から介入できる機動性をもった医療チームがなかったこと、②災害時に診療拠点となる医療機関がなかったこと、③被災地域から非被災地域への患者搬送のシステムがなかったこと、そして④災害時における医療機関の情報を共有するツールがなかったこと、などがあったとされ、我が国の大規模災害への対応の脆弱性が露呈した出来事となりました。これを契機に、①DMATの養成、②災害拠点病院の整備、③広域搬送システムの構築、④EMIS(広域災害緊急医療情報システム; Emergency medical information system)の整備が進められました。

近年、地震災害や豪雨水害などが、毎年のように日本各地で発生し、その規模も広域化、甚大化しています。熊本県も例外でなく、記憶に新しいところでは、熊本地震、九州北部豪雨災害、そして令和2年7月豪雨災害などの大規模災害を経験することとなりました。特に、令和2年7月豪雨災害では、熊本県地域災害拠点病院である当院に、県南地域保健医療調整本部が設置され、球磨川流域をはじめ、甚大な被害を受けた県南地域の豪雨災害に対応することとなりました。このとき受け入れたDMATは、熊本県内のみならず、九州・沖縄、近畿、東海、四国ブロックなど広域に及び、のべ60隊を数えました。またその活動は、病院はもとより、診療所、介護施設、避難所など多岐にわたり、EMIS上でのモニタリングに始まり、医療施設と入院患者、介護施設と入居者の安否確認、避難所スクリーニングなどに奔走しました。また被災医療機関に対しては、資機材の提供のほか、入院患者様の転院・受け入れ調整、病院避難などの支援を行いました。

私たち熊本労災病院DMATは、こうした県内有事のみならず、今後起こりうるとされる首都直下型地震や南海トラフ地震など、国家的規模の大災害などに対応すべく、訓練、技能維持に努め、活動して

まいります。



訓練参加時



令和2年7月豪雨

医療安全管理室

スタッフ紹介



副院長
医療安全管理室長
医療安全総括責任者
佐々木 雅人



医療安全管理者
高野 さおり

構成員

医療安全対策委員会 副委員長 大矢 雄希	糖尿病・代謝内科部長 金子 健吾
脊椎外科部長 川添 泰弘	医薬品安全管理者 (薬剤部長) 谷口 一成
医療機器安全管理者 (臨床工学部部長) 植田 公昭	事務局次長 伊藤 新
医事課長 松元 祐至	

概要

今日の医療現場では、さまざまな職種の医療従事者がチーム一丸となって協働し、発展する医療技術・機器・機材や医薬品を駆使して、高齢化・重症化が進む患者に医療を提供している。

安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療の質に関わる重大な課題である。そのためには、熊本労災病院及び職員個人が、医療安全の必要性・重要性を施設および自分自身の課題と認識し、医療安全管理体制の確立を図り、安全な医療の遂行を徹底することが最も重要である。

医療事故を防止するためには「人間はエラーを犯すものである」ということを前提として、スタッフ及びシステムによるエラーのチェック機能を強化していくことが重要である。そのためには、医療事故

やインシデント事例の情報収集を恒常的に行うとともに、その発生状況・原因分析及び対策の検討を行い組織横断的に取り組むチーム医療をめざして活動している。

業務内容の特徴と実績

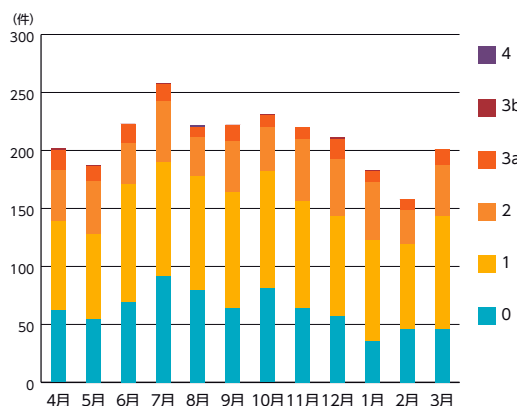
医療安全に対する目標及び活動計画を立案し、インシデントレポート、医療事故報告から発生した事実の把握と対策についての検討を行っている。

また、重要事例に関しては病院長、医療安全管理室長、医療安全管理者は相互に連絡をとり対処し、過失が考えられる重篤な事例に関しては医療安全緊急対策会議にて、対応について検討している。

職員の安全に対する意識向上を図り、本院における医療安全の確保を目的として、医療安全対策委員会の下部組織に実働部隊としてのリスクマネジメント会議を設置している。ここでは多職種による事例分析や情報共有、安全ラウンドを実施し、職種間の連携を重視した活動を行っている。また、職員の安全教育の一環である医療安全対策研修会はe-ラーニングによる研修を実施し、複数回視聴できるように学習の機会を提供している。

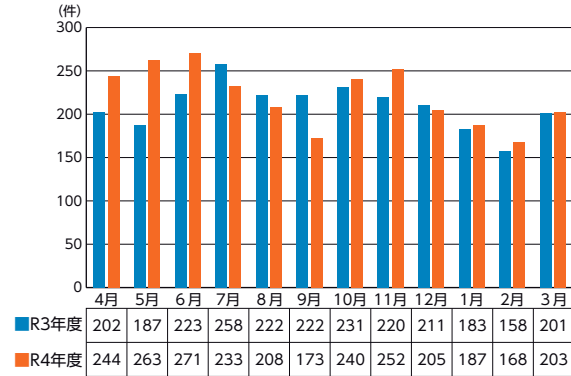
新規採用者、中途採用者へのオリエンテーションを活用した安全教育や、院外での医療安全に関わる研修や講演会への参加、労働者健康安全機構の医療安全研修会の受講を推進し職員の安全文化の醸成に取り組んでいる。また地域連携相互チェック、労災病院間医療安全相互チェックなどを行い、他施設からの助言を取り入れた安全の視点での業務改善なども行っている。

令和4年度月別レベル別報告件数
報告総数2,635件

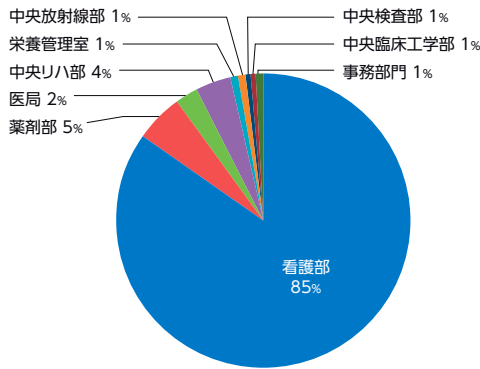


医療安全管理室

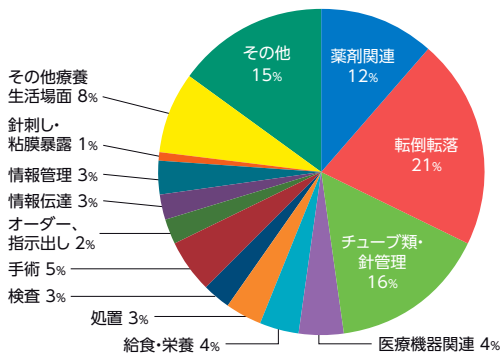
■ 報告件数R3年度、R4年度比較



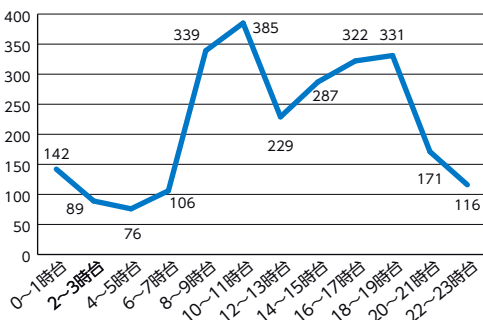
■ R4年度職種別報告



■ R4年度医療事故報告表題別



■ 令和4年度発生時間別件数



医療安全講演会及び研修会

- 2022年6月24日～7月27日 e-ラーニング
テーマ「院内迅速対応システムについて」
全職員視聴100%
 - 2022年9月16日
テーマ「コロナ禍においてこそ活かす臨床倫理の考え方」
当日参加+e-ラーニング視聴100%
 - 2022年7月25日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
医師対象
講師:林田信太郎移植外科部長
 - 2022年7月26日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
研修医対象
講師:林田信太郎移植外科部長
- *その他、BLS研修、新人看護師研修(KYT研修)医療ガス研修など開催

医療安全推進週間

- 2022年11月21日～25日
テーマ「患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進」
 - 医療安全ポスター掲示
 - 手洗いチェック
 - 患者確認「院内患者確認実践状況」ビデオ上映
 - 院内安全ラウンド
 - システム改善ポスター発表
- 医事課
「くまもとメディカルネットワーク患者情報提供時のエラー防止」
- 中央検査部
「当院における病理検体検査取り違え防止の取り組みについて」
- 薬剤部
「新型コロナウイルス感染症の治療薬であるパキロビットについて」
- 中央臨床工学部
「返却時点検の実施」
- 栄養管理部
「誤配膳防止への取り組み」
- 中央リハビリテーション部
「代行依頼された患者の未介入防止について」
- 中央放射線部
「放射線被ばく管理について」
- 看護部
「薬剤投与時のダブルチェックによる確認方法の見直し」

感染制御部

スタッフ紹介



感染制御部長
(呼吸器内科部長)
安道 誠

【認定・資格】インфекションコントロールドクター

感染管理認定看護師

和久田 容子

感染対策チームスタッフ

小児外科部長

大矢 雄希

【認定・資格】インфекションコントロールドクター

主任薬剤師

丸山 久美子

【認定・資格】感染制御専門薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師

主任臨床検査技師

森口 美琴

【認定・資格】感染制御認定
臨床微生物検査技師

主任臨床検査技師

浜島 智央

【認定・資格】感染制御認定
臨床微生物検査技師

感染管理認定看護師

高村 敦史

【認定・資格】感染管理認定
看護師

感染管理認定看護師

大倉 尚子

【認定・資格】感染管理認定
看護師

感染制御部の特色

感染制御部は院内感染対策を円滑に行うための院長直属の組織として2007年に設立されました。病院内における感染対策の充実のみではなく、地域の医療機関や福祉施設等との連携、支援を行うことで、地域における感染対策の質および意識の向上にも努めることを目的としています。

感染制御部では、下部組織である感染対策チーム(ICT)と協働し下記の業務を行っています。

- 院内感染発生状況、耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況の把握、分析および院内への情報提供。
- 院内感染対策マニュアルの作成および改訂に関すること。
- 院内感染対策の実施状況の把握および対策の評価と改善。
- アウトブレイク発生に係ること。
- 職業感染(血液体液曝露、ウイルス性疾患、結核等)の対策に係ること。
- 感染症および院内感染対策に係るコンサルテーション業務および教育。
- その他、院内感染対策に係ること。
- 連携施設、地域の医療機関および介護施設等からの感染対策に係るコンサルテーション業務および支援。
- 地域における感染対策に係る研修会の開催。

院内における活動内容

(1)院内感染対策委員会

部長が委員長をつとめ、ICTより耐性菌の検出状況および指定抗菌薬の使用状況等の報告を行い、病院における感染対策の方針等に関する検討を行っています。新型コロナウイルス感染症の対応の検討、情報提供を行い、必要時には他の委員会と協働し対応を検討しました。

(2)ICTミーティング、院内ラウンド

週1回、院内感染対策に係ることについて会議を行い、病院内のラウンドを行うとともに、耐性菌検出者および*Clostridioides difficile*感染症(CDI)の患者に対する感染対策実施状況の確認を行っています。耐性菌等の集積が認められた場合には、遺伝子検査による確認を行い必要時に介入しています。

■ 令和4年度ICTラウンド対象患者

- MRSA：70件
- ESBL産生菌：63件
- その他の耐性菌：19件
- CDI：22件

■ 遺伝子検査(POT法)事例 なし

(3)サーベイランスの実施

- 厚生労働省院感染対策サーベイランスの登録(検査部門、手術部位感染(SSI)部門、全入院患者部門)
- 熊本県感染管理ネットワーク微生物サーベイランス
- 耐性菌サーベイランス
- SSIサーベイランス(外科)
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連サーベイランス(ICU)
- 手指消毒剤使用量調査

感染制御部

(4) 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)の活動

広域抗菌薬(MEPM、DRPM、LVFX注、CZOP、TAZ/PIPC)や抗MRSA薬(VCM、DAP、TEIC、TZD、MUP)の届出制、LZDの許可制を導入し、使用状況の確認および薬剤部によるTDMを実施し、適正な抗菌薬の使用ができるよう必要時フィードバックを行っており、2018年度よりASTを組織し活動を開始しました。2020年度からは外来における上気道炎および感染性胃腸炎に対する経口抗菌薬の使用に関しての把握も行い、抗菌薬の適正使用に向けた取り組みを行っています。

■ 令和4年度 AST介入実績

- 血液培養陽性者：256件
- 指定抗菌薬の使用が7日間を超えた患者：186件
- その他：1件

(5) 職業感染対策

事務部門の支援のもと、新入職者の抗体価(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、B型肝炎ウイルスなど)検査および必要時のワクチン接種、インフルエンザ流行前のインフルエンザワクチンの接種を行っています。また、針刺しなどの血液体液曝露が発生した際の対応支援および報告書の管理、発生状況の分析等を行っています。

その他、院内での流行性疾患の曝露事例が発生した場合、接触者を把握し、経過のフォローを行っています。

■ 血液・体液曝露発生数

針刺し・切創：11件 粘膜曝露：1件 その他：0件

■ 結核

令和4年度 結核曝露発生数 外来：0件、病棟：1件

(6) 教育・啓発

【教育】

■ 入職者オリエンテーション

■ 院内感染対策研修会の企画・開催(e-learningにより開催)

- ① 令和5年1月6日～2月22日
「バンコマイシンTDMの新しい運用について」
「SARS-CoV-2とインフルエンザについて」
- ② 令和5年2月21日～3月31日
「当院のLocal Antibiogramについて」
「コロナ禍でも大事な手指衛生」

【啓発・広報】

- 院内感染対策菌 週報の発行
- 院内誌(ばんぺいゆ)における「Infection Control Teamだより」の掲載

- 医療安全推進週間におけるイベント(外来ホールにおける手洗いチェック)

(7) コンサルテーション

院内・院外を対象に、感染症診療および感染対策に関するコンサルテーションを行っています。

(8) アウトブレイク等の対応

【令和4年度における対応事例】

- 新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生した事例
クラスター発生事例：11例(クラスター発生に伴う感染者延べ数216名)
- 新型コロナウイルス感染症の院内発生事例

(9) 感染防止対策加算に係るカンファレンスおよび相互チェックの実施

① カンファレンス

連携病院：八代北部地域医療センター、平成病院、たかの呼吸器科内科クリニック、八代ハートクリニック、保田医院、八代中央クリニック

- 令和4年6月29日(Web開催)
「令和3年度集計報告」「感染対策向上加算連携における概要説明と意見交換」
- 令和3年11月7日(Web開催)
「連携強化加算における報告様式について」「院内での感染症事例の共有」「インフルエンザについて」
- 令和5年2月27日(Web開催)
「院内での感染症事例の共有とディスカッション」
- 令和5年3月27日(Web開催)
新興感染症等の発生を想定した訓練「麻疹発生時の対応シミュレーション」
共催 八代保健所、八代市医師会、八代郡医師会
参加施設：入院医療機関3施設、外来医療機関20施設

② 相互チェック

連携病院：熊本南病院、熊本再春医療センター
訪問：熊本再春医療センター(令和4年11月25日)
受審：熊本南病院(令和4年12月2日)

地域活動の実績

地域における活動

- 熊本県感染管理ネットワーク
- 熊本臨床微生物ネットワーク(KCMN)

COVID-19に係るクラスター等における感染対策支援
訪問件数：15件

地域医療連携部

スタッフ紹介



副院長
地域医療連携部長
松村 敏幸

副院長
地域医療連携副部長
福松 之敦

スタッフ

- 地域医療連携室

地域医療連携室係長	1名
MSW	4名
退院支援看護師	4名
事務職	2名
- 入退院支援センター

入院支援看護師	3名
---------	----

地域医療連携室、入退院支援センターの特色

地域医療連携室では、地域医療機関(患者様の転院受入調整及び紹介患者様の問い合わせ等)、市町村行政機関、介護保健施設等と幅広く連携業務を行っています。

また、患者様に対して、各諸法制度に関する手続き、各種障害、生活支援・行政サービスに関する相談などを行っています。他の医療機関とも更なる連携強化を図り、患者様に良質な医療が提供できるよう努力しています。

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携し、がん等で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を開設しています。

入退院支援センターでは、入院前の患者様に対し多方面からのサポートし、必要に応じて多職種と連携をとりながら患者様の入院に対する不安の解消を図っています。

業務体制

地域医療連携室は、医師2名(兼任)、看護師4名、MSW4名、事務職2名(1名兼任)の13名、入退院支

援センターは、看護師3名体制です。

ここでは、患者様の紹介・逆紹介の手続きや、入院患者様の入院から退院までのサポートを実施しています。

また、がん相談支援センターの専任看護師と共に、地域の医療機関とがんに関する情報を共有し、より緊密な連携を図り、地域がん診療の向上に努めています。

「両立支援相談窓口」では、がん等の病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成29年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

業務実績

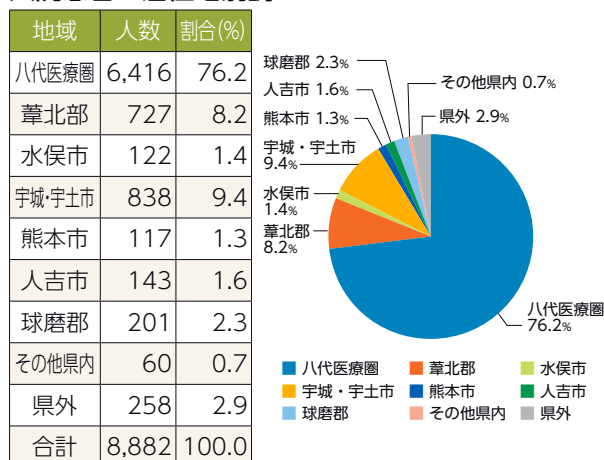
相談・支援件数

令和4年度	退院相談	1,631件
	在宅療養支援(外来)	550件

紹介率・逆紹介率

	令和3年度	令和4年度
紹介率	77.6%	70.5%
逆紹介率	100.1%	89.5%

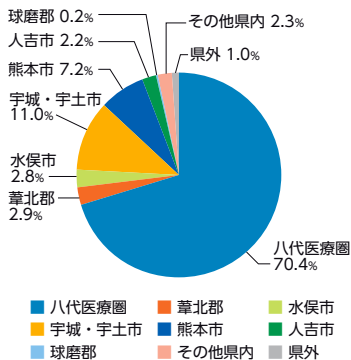
入院患者の居住地別調



地域医療連携部

患者の転院先地域別調

地域	人数	割合(%)
八代医療圏	857	70.4
葦北部	35	2.9
水俣市	34	2.8
宇城・宇土市	134	11.0
熊本市	88	7.2
人吉市	27	2.2
球磨郡	228	0.2
その他県内	28	2.3
県外	12	1.0
合計	1,217	100.0



両立支援相談窓口相談件数等実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	2	2	2	0	0	2	0	2	1	0	1	1	13
面談数	7	4	6	2	1	7	4	7	5	3	7	3	56

地域医療連携の会の開催

地域医療連携の会は2部制になっており、1部では当院医師の専門分野について講演を行い、2部では懇親会を開催し、地域の開業医等の先生方との意見交換を行っています。令和4年度は、COVID-19の感染状況を鑑み開催を見送りました。今後は感染状況が収まり次第、開催する予定です。

地域医療支援病院運営委員会の開催

年4回外部委員の出席の下、地域医療連携の実績報告と外部委員の提言をお聞きし、地域医療支援病院としての運営に関する意見交換を実施しています。

委員会名 第1回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和4年5月30日(月)

場所 中央診療棟5階会議室

出席者数 外部委員 6名

当院委員 3名

事務局 6名

看護部 1名

委員会名 第2回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和4年9月14日(水)

場所 中央診療棟5階会議室

出席者数 外部委員 6名

当院委員 5名

事務局 5名

看護部 1名

委員会名 第3回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和4年12月12日(月)

場所 中央診療棟5階会議室

出席者数 外部委員 6名

当院委員 4名

事務局 5名

看護部 1名

委員会名 第4回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和5年3月13日(月)

場所 中央診療棟5階会議室

出席者数 外部委員 6名

当院委員 5名

事務局 5名

看護部 1名

看護部

スタッフ紹介



看護部長
山上 艶子

看護副部長
坂上 和江

看護副部長
荒川 直美

スタッフ

(令和5年5月1日現在)

看護師長	12名
看護師長補佐	13名
看護師	373名
准看護師	3名
看護助手(夜間助手16名含む)	36名
ワーカー	2名

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者さまに寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

令和4年度目標

- 看護の質向上
- 病院組織運営への貢献
- 看護職として主体的な自己成長
- 働きやすい職場づくり

「看護の質向上」では、地域の高齢化に伴い高齢患者や老々介護、独居の入院患者が多いこともあり、切れ目のない看護の提供や地域とのつながりが重要になります。院内での継続看護の強化、退院後訪問の推進やオンラインでの地域懇談会の開催を実施しました。また、認知症患者の世界を理解し看護に反映させたいとVR研修を取り入れました。

「病院組織への貢献」では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でベッドコントロールが大変な時期がありました。当該の診療科にこだわらず様々な診療科を看るなど各病棟が柔軟に取り組みました。発熱外来でも急激に患者増加がありましたが協力体制で対応しました。また、看護部門が関連する診療報酬加算に関して積極的に関わりました。

「看護専門職としての自己成長」では、計画した研修は予定通り実施できました。オンラインやeラー

ニングの研修は継続しています。主体的な参加に課題があります。動機づけして受講を推進していきたいと考えています。

「働きやすい職場づくり」では、4月から夜間看護補助者を導入して今まで看護師が実施していた業務を委譲できた事は業務負担の軽減につながりました。今後も業務改善や他業種とタスク・シフト/シェアを行い、看護の専門性の発揮やワークライフバランスにつなげたいです。

管理・運営

看護部職員配置

(令和5年5月1日現在)

看護部管理室	看護部長	1名
	看護副部長	1名
	看護副部長(兼看護師長)	1名
	医療安全管理者(看護師長)	1名
	リソースセンター(看護師長補佐)	1名
	リソースセンター(看護師)	6名
	地域医療連携室(看護師)	6名
	看護部(看護師、事務補助)	2名
病棟部門	看護師長	9名
	看護師長補佐	9名
	看護師	282名
	看護助手	32名
	ワーカー	2名
外来部門	看護師長	1名
	看護師長補佐	2名
	看護師	57名
	准看護師	3名
	看護助手	2名
手術部門	手術室(中央材料室兼務)看護師長	1名
	手術室看護師長補佐	1名
	手術室看護師	21名
	手術室看護助手	2名

看護体制

- 7：1看護(平成21年5月1日～)
- 夜間勤務等看護加算取得
- 3交替制(病棟、ICU)
2交替制(救急外来)
待機制(手術室)

看護部

各種会議・委員会

各種会議・委員会	開催頻度
看護師長会議	月2回
看護師長補佐会議	月1回
教育委員会	月1回
キャリアアップ支援委員会	月1回
新人看護職員育成委員会	月1回
看護部接遇向上委員会	月1回
在宅ケア支援委員会	月1回
看護記録委員会	月1回
看護基準・手順委員会	月1回
せん妄・認知症ケア委員会	月1回
看護部安全対策委員会	月1回
看護部感染対策委員会	月1回
看護部NST・褥瘡対策委員会	月1回
看護の日実行委員会	随時
認定看護師会	奇数月1回

各種会議(主な会議)

- **師長会議**
看護部門の最高決定機関として、看護部内の管理・運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡・調整・協議します。
- **師長補佐会議**
看護部門の第一線の現場に関する管理、運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡、調整、協議します。

各種委員会(主な委員会活動について記載)

- **教育委員会**
キャリアラダーでは49名のレベル認定を行った。個々に能力を開発、維持・向上し、キャリアを形成できるように支援している。本部研修主催の中堅看護師研修には、10名が参加しそれぞれの課題解決に取り組んだ。また、VR研修では、せん妄・認知症ケア委員会とコラボレーションし、VRによる認知症の世界を体験した。
- **キャリアアップ支援委員会**
継続教育として役割別研修・ラダー別のキャリアアップ研修に取り組んだ。IVナース研修では、レベル1・2(22名)、レベル3(37名)、化学療法のライン確保ができるIVナース3C(6名)、CVポートの穿刺のできるIVナース3P(20名)が院内認定し資格を取得することができた。今後も継続し看護の質向上の推進力となる人材育成に取り組む。
- **新人看護職員育成委員会**
新人看護職員が看護技術を習得できるように研修を企画し、集合研修とOJTが連動するように取り組んだ。集合研修後はストレスチェックを実施し、職場環境に適応できているかを参考にしながら支援した。
- **看護記録委員会**
看護記録の質向上を目指し、看護記録監査を実施した。記録の記載表現を倫理的側面から考える機会として、「看護者の倫理綱領」を意識し、誰も不快に感じ

ない記録を心掛けるように学習した。倫理的感性を高めるためにも継続する。

- **在宅ケア支援委員会**
勤労者看護、在宅ケアの推進と支援の充実を目的に、退院前後訪問を8例実施した。生活者の視点を得ることで、積極的な看護介入・支援を早期に実施することにつながった。病棟や外来連携においても看護が切れ目なく行えるようにサマリーの活用を通して連携をはかった。
- **看護基準・手順委員会**
ナーシングスキルと当院の手順の整合性をはかり、医療機器の手順作成と見直しを行った。世界情勢からくる物品不足もあり、急遽手順改訂を余儀なくされた。胃瘻抜去のインシデントから、採用されている4種類の胃瘻チューブのパネルを作成し、違いについて周知した。
- **せん妄・認知症ケア委員会**
せん妄・認知症対応能力向上を図るため、研修参加、自己チェック実施、事例検討を通じた成功体験の共有、身体拘束最少化に向けた4つの取り組みを実施した。
- **看護部安全対策委員会**
前年度のインシデント・アクシデントのデータより、患者誤認防止、確認不足によるインシデントの減少、安全な療養環境提供のためのリスク感性支援・育成・強化の3点に着目し取り組んだ。
- **看護部感染対策委員会**
手指衛生の適切なタイミングと方法、医療廃棄物の正しい取り扱い、膀胱留置カテーテルの適正使用の3点を主に取り組み、各部署の委員と共に自部署の状況把握とスタッフ指導を実施した。
- **接遇向上委員会**
退院時アンケートや接遇マナー意識調査を行った。退院時アンケートの意見に対しては、各部署で改善策を考え接遇向上に取り組んだ。接遇基準や身だしなみチェックの改訂、ナースコールの対応改善を行った。貴重品の預かり手順について会計課と調整した。
- **看護部NST・褥瘡対策委員会**
NSTに対する認識を高め、適切な栄養管理を行い、褥瘡及びブスキンケアの予防、早期発見・早期治療を図ることを目的に活動を実施した。

看護研究発表

- 熊本県看護協会八代支部
二次開口非粘膜翻転法でストーマ再増設術を受けた患者の危機に対する段階的介入の一例
(リソースナースセンター 坂田 舞)
- 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
Stepwise Care for Patient Undergoing Revision Secondary Opening Stoma Case Report
(リソースナースセンター 坂田 舞)
- 第25回医療マネジメント学会 熊本支部学術集会
患者誤認防止対策への取り組み
(安全対策委員会 岩下武司)

認定看護師

皮膚・排泄ケア

スタッフ紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師
坂田 舞

はじめに

2011年6月に認定資格を取得し、2012年5月よりリソースナースセンター配属となりました。主に褥瘡管理者専従として、皮膚・排泄ケア領域における看護活動を展開してきました。2022年度の活動内容を以下に報告します。

活動内容

〈創傷ケア領域〉

これまで集合研修や事例検討など委員会全体で対策を講じてきたが、ここ数年は褥瘡推定発生率の下げ止まりが課題となっていました。

そこで今年度は、各部署が主体となって年間院内発生事例を分析し、課題と対策について検討し、管理者と委員を中心に部署単位で個別的な話し合いを行うという、これまでにない新たな取り組みを行いました。

この新たな取り組みにより以下の効果を認めました。

1. 主体的に分析を行うことで、自部署の問題に対する意識を高めることができる。
2. 自部署の現状と課題を知り、自部署に合った具体的対策を検討することができる。
3. 部署単位で深く掘り下げて検討することで、問題点をより明確化することができる。
4. 委員だけでなく管理者参加型とすることで、部署全体で問題点を共有し、より実践的で有用な対策を講じることができる。

話し合いにより各部署の個別的な分析と課題について共有することができました。具体的対策まで立案できた部署もありましたが、実施や評価には至っていないため、次年度は早めに計画した対策を実践し、評価までできるようにサポートしていきたいと思います。

〈ストーマケア領域〉

ストーマケアにおいて、在院日数短縮等に伴い、外来看護や退院後訪問の拡充を図りました。患者や家族の負担軽減を図りながら継続ケアを充実させ、ストーマ装具の決定やセルフケア指導など、これまで入院中に行っていたケアを退院後に行うことができました。訪問看護師との同行訪問も増え、当院に受診歴がない患者の相談も増加しました。また、在宅だけでなく施設へも出向くことができ、介護施設職員とも顔の見える関係で連携を深めることが出来ました。地域に必要とされる皮膚・排泄ケア認定看護師として、今まで以上に連携を深めることができたと考えます。

またCOVID19感染拡大に伴い、ストーマに関連する患者が当該部署以外の病棟に入院することが増えた年でもありました。そのため、術前ケアやストーマ局所ケアに慣れない部署へレクチャーや実践的指導を行いました。ストーマを保有し化学療法を継続する患者も多く、個別的なケアが継続できるように努めました。今後ますます病棟混合化が進むことが予測され、どの部署でも標準的なケアが実践できるように教育システムを充実していく必要があると考えます。

活動実績

ケア内容	件数
術創ケア	36件
難治性潰瘍(循環器足壊疽外来ほか)	565件
ドレーン・ろう孔ケア	9件
スキンテア	11件
予防ケア	5件
医療関連機器圧迫創傷	2件
在宅等相談	70件
在宅訪問	6件
褥瘡回診	56件
WOC褥瘡ラウンド	446件
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	249件
ストーマサイトマーキング	28件
周術期ケア	24件

認定看護師

ケア内容	件数
装具選択	269件
セルフケア指導	176件
トラブルケア	246件
社会資源の説明と手続き	32件
在宅サービスとの連携	132件
生活指導	170件
ケアシート作成	20件
失禁治療的ケア	12件
排泄管理指導	15件

<教育>

研修内容	開催回数	参加人数
院内ワンポイントレクチャー (昼間15分程度)	2回	18人
院内研修会 (新人研修、褥瘡勉強会など)	2回	96人
出前講座	1件	30人
合計	4回	144人

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第31回日本・創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
- **演題名** Stepwise Care for Patient Undergoing Revision Surgery for Secondary Opening Stoma: Case report

執筆等

- 「ブラバプロテクティブシール」の説明ツールへの原稿執筆

その他

- 特定行為研修受講
- 一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」中級コース修了

認知症看護

スタッフ紹介

認知症看護認定看護師
上淵 恵子

認知症看護認定看護師
柿本 里美

はじめに

認知症看護の質の向上を図り、認知症を有する患者様が安全に安心して治療や入院生活を送ることができ、ご本人にとってより良い生活の場へ退院できるよう、認知症ケアチーム・せん妄ケアチームの一員として活動しています。

ご本人らしさや、持つ力に着目するとともに、ご本人に「聞く」こと、言葉でうまくつたえられないサインをキャッチすることに重点を置きながら支援を行っています。

年間活動報告

(1) 病棟ラウンド

- 毎週水曜日：せん妄ケアチームラウンド
- 毎週金曜日：認知症ケアチームラウンド

(2) 院内研修

- 新人看護師研修
「認知症の基礎知識とコミュニケーション」
ロールプレイ
「帰宅欲求の強い認知症患者様への関わり」
- 全体研修(e-learning)
- ミニレクチャー
「認知症ケア加算・せん妄ハイリスク患者ケア加算」
「夜勤で困らない!不穏時・不眠時指示薬の使い方」
「認知症の基礎知識」
「認知症患者とのコミュニケーション」
- 熊本労災看護専門学校講義：
老年看護学方法論Ⅱ(日常生活援助技術)

認定看護師

クリティカルケア

スタッフ紹介

クリティカルケア認定看護師
寺瀬 真利子

はじめに

平成27年6月に集中ケア認定看護師となり、ICU病棟に所属し院内で活動を行なっている。特定行為研修を修了し、今年度よりクリティカルケア認定看護師へ名称が変更となった。ここに令和4年度の活動について報告する。

活動と評価

1 集中ケア領域において自らが役割モデルとなるよう、知識や技術の実践指導を行う。

(1) 専門コースの開催(4回/年)

呼吸サポートチームとして研修を企画、開催した。

開催内容	開催日	参加数
呼吸器内科医が行う人工呼吸管理	6月11日	31名
循環器内科医が行う睡眠時無呼吸検査とCPAP	9月12日	20名
理学療法士が伝えたい「呼吸介助法」のコツ	10月21日	27名
臨床工学技士が伝えたい人工呼吸器の安全管理	11月11日	17名

(2) 院内にけるコンサルテーション

呼吸サポートチームメンバーとして週に1回のラウンドを実施した。設定と指示書の確認や物品管理について確認し、看護ケアに関する助言を行った。

【指導】勉強会12件、院内e-ラーニング1件、カンファレンス参加1件、

【相談】2件

(3) 熊本労災看護専門学校 講師

「健康危機状況にある人の看護」について、4回実施
「フィジカルアセスメント」について、4回実施

2 生命の危機状態にある患者・家族に対し、より良いチーム医療が提供できるよう、リーダーシップを発揮し、関連する多職種との連携と協働ができる。

(1) 看護師特定行為の実施

呼吸器(気道確保に係るもの)関連	
・経口用気管チューブ位置確認	5件
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	
・人工呼吸器からの離脱	9件
・人工呼吸器管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	4件
・侵襲的陽圧換気の設定変更	7件
動脈血液ガス分析関連	
・直接動脈穿刺法による採血	16件
・橈骨動脈ラインの確保	15件

認定看護師

緩和ケア

スタッフ紹介

緩和ケア認定看護師

岡山 浩子

はじめに

2005年8月に認定取得し17年目を迎え、緩和ケアチーム専従看護師、がん専門相談員として活動した。令和4年度の活動を以下に報告する。

活動と評価

(1)参加学会

- 学会名 第27回 日本緩和医療学会学術大会参加Web学会参加
- 日 程 令和4年7月1日(金)～7月2日(土)

(2)緩和ケア研修開催

- 8月20日(土)
- 医師:10名、薬剤師:1名、看護師8名、理学療法士:1名

(3)緩和ケアチーム回診

- 回診件数:268件/年 新規紹介:93件
- 回診実施(2回/週、月曜・木曜日実施、適宜臨時回診実施)
- 依頼診療科(呼吸器内科、消化器内科、泌尿器科、整形外科、婦人科、消化器外科、耳鼻科)

(4)がん患者指導管理

(診療方針等医師と共同) イ:106件

がん患者指導管理

(心理的不安の軽減) □:8件

(5)教育

- ①熊本労災看護専門学校講義
成人看護学方法論Ⅲ(終末期と緩和ケア)
90分×3回 第53期生

(6)がんサロン

- 1回/月、2022年11月より対面、オンライン開催再会

(7)がん相談員活動(令和3年度がん相談員活動報告参照)

- 新型コロナ感染対策でピンクリボンイベント開催、全部署職員で「上を向いて歩こう」の合唱動画を作成した

(8)熊本緩和ケアカンファレンス開催

- 2022年10月20日(木) 18:00～19:00
(オンライン開催)
内容:「AYA世代(高校3年生)の胃がん患者への就労・両立支援の取り組み事例」
参加人数:95名

認定看護師

がん化学療法看護

スタッフ紹介

がん化学療法看護認定看護師
梅田 知寿子

はじめに

2015年に認定資格を取得し、外来化学療法センターに在籍しています。2022年度の活動について以下に報告します。

活動内容

外来化学療法センター内では、外来移行前に、外来通院治療のオリエンテーションを実施し、患者や家族が安心して治療を受けられるように取り組んでいます。がん化学療法による有害事象については、医師・薬剤師・外来化学療法センターの看護師と情報共有し、より安全で安楽に治療ができるように取り組んでいます。昨年度の外来化学療法センターの利用総数は約1,950件でした。消化器科、呼吸器科、乳腺外科などを中心に多くの科で外来通院治療が増えています。

毎月第2・第4週水曜日の消化器がんカンサードでは、消化器内科医・消化器外科医・放射線科医を中心に看護師、薬剤師などのスタッフも参加し、治療中の患者や今後治療導入予定患者などの情報共有や意見交換を行います。その内容を共有し、スムーズな治療継続サポートを心掛けています。また、月1回開催のがん化学療法委員会へ参加し、認定看護師としてレジメンの審査に携わりつつ、治療センターの現状について報告しています。

昨年度後期から、院内のIVナース制度がスタートし、CVポート穿刺の院内認定看護師が23名、がん化学療法時の血管確保の院内認定看護師が8名誕生しました。今後の育成も医師の協力を得ながら進めていきます。

脳卒中リハビリテーション看護

スタッフ紹介

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
水町 広恵

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
田中 孝樹

はじめに

脳卒中看護分野において自己研鑽かつ、スタッフの知識・技術の向上に努め、多職種とのチーム連携を強化し、患者に質の高い看護が提供できることを目標にして活動を行いました。活動内容を以下に報告します。

年間活動報告

活動内容

- ① 日々の看護として病棟に入院される脳卒中患者の観察やアセスメント、看護介入、看護ケアをスタッフとともにいった。(実践・指導・相談)
- ② 熊本労災看護専門学校講師
 - ・生活行動に障害のある人の看護(脳卒中患者を通して)4~5月 計4回
 - ・老年期看護方法論Ⅰ 10月~2月 計7回
- ③ 新人看護研修講師 4月(食事介助とポジショニング、嚥下評価について)
- ④ 認定活動日(計11日)
 - ・病棟学習会の実施(計9回)
 - くも膜下出血患者の疾患、症状、看護について(5月、11月)
 - 慢性硬膜下血腫について(6月)
 - 入院患者の症例について(6月)
 - 脳梗塞の患者の看護、疾患について(10月)
 - パーキンソン病の患者の特徴と看護について(11月)
 - 延髄梗塞、病態、症状と看護について(3月)
 - ・退院調整の促進、クリニカルパスの使用チェック
 - ・患者生活指導や再発予防指導の実施
 - ・他病棟の脳卒中患者ラウンドの実施
- ⑤ 排尿ケアチーム活動 ラウンド件数 97件(34名)

認定看護師

糖尿病看護

スタッフ紹介

糖尿病看護認定看護師
本山 詔誇

はじめに

糖尿病看護認定看護師として、糖尿病患者の支援を院内外において行いました。その活動を以下に報告します。

活動状況

(院内)

- 新人研修 5月12日 15:15~16:45
- 熊本労災看護専門学校 成人看護方法論Ⅰ 計4回
- 糖尿病週間イベントの企画・運営 テーマ:災害
11月14日~11月18日
- 糖尿病教室の実施 毎週木曜日 14:00~15:00

	2019年	2020年	2021年	2022年
療養指導	75	69	75	59
透析予防指導	120	124	120	130
フットケア	281	313	281	296

*延べ件数

(院外)

- 第9回糖尿病看護実践力開発セミナー
ファンリテーター 7月10日
- 九州糖尿病看護認定看護師研修会
WEB開催 企画・運営 9月11日
- 小児サマーキャンプ(小児1型糖尿病患者支援)への
参加 11月27日

その他 役員活動

- 日本糖尿病教育・看護学会 ネットワーク委員
- 熊本地域糖尿病療養指導士会 認定委員・研修委員



糖尿病週間イベント ポスター、グッズ展示
11月14日~11月18日

認定看護師

呼吸器疾患看護認定看護

スタッフ紹介

呼吸器疾患看護認定看護師
菅原 真澄

はじめに

呼吸器疾患看護認定看護師として自己研鑽を行い、病棟スタッフの一員として実践を通し、呼吸器関連の援助に対するニーズを見出しながら指導・相談支援につながるよう病棟内外での活動を行っています。

年間活動報告

(1) 院内外の研修講師、講義

① RST勉強会

開催内容	開催日	参加数
呼吸器内科医が行う人工呼吸管理	6/11	31名
循環器内科医が行う睡眠時無呼吸検査とCPAP	9/12	20名
理学療法士が伝えたい「呼吸介助法」のコツ	10/21	27名
臨床工学技士が伝えたい人工呼吸器の安全管理	11/11	17名

RSTメンバーで講師を担い、院内に向けた勉強会を開催した。

② 熊本労災看護専門学校講師

「セルフマネジメント」「フィジカルアセスメント呼吸・消化器」

③ 呼吸サポートチーム活動

人工呼吸関連のケアなどが安全に行われているかラウンドや啓蒙活動を行いました。

ラウンド：毎週 全体第2・4週火曜11時～、
他週は適宜

メンバー：医師(呼吸器内科2名、循環器内科2名)、
臨床工学技士3名、リハビリテーション(PT)2名、
医事課職員1名、看護師(安全管理者、クリティカルケア認定、呼吸器疾患看護認定)各1名



④ 特定行為実践

人工呼吸器関連、血液ガス採取

(2) 呼吸器関連の管理、看護など

- IPPV、NPPVに関し呼吸器設定、管理などに携わりました。
- NPPV導入などに関し、機種、マスク種類、設定などを主治医と共に行い、ケアや管理などに対し看護師へ情報提供し継続した看護、観察へつながるよう介入を行いました。
- CPAP、睡眠時無呼吸検査などに関し、導入やデータ解析に携わり、医師へ情報提供と患者や家族とスタッフへの伝達や指導を行いました。

がん相談支援センター

スタッフ紹介

がん専門相談員
山田 恵子

がん専門相談員
平本 瞳

はじめに

がん相談は院内での相談を中心に院外でのがん相談も行いました。また広報活動にも力を入れ、ピンクリボン運動推進イベントでは院内の多職種が参加して、乳がん検診啓発の動画を作成、またFMラジオに出演し、地域の方々への乳がん検診啓発、がん相談支援センターのPRに繋げることができました。開設12周年となった八代がんサロン「秋桜」は対面での開催も再開しました。

年間目標と活動報告

(1)がん専門相談員として患者や家族の人権を尊重し、より良い療養生活を送れるように支援する。

- ①がん相談総件数は1,491件(目標1,500件)。(図1)
- ②相談内容は、症状・副作用・後遺症に関する相談が多かった。(図2)
- ③八代がんサロン「秋桜」：対面による開催を再開。11月は抹茶を点て、12月には院外のカフェでお茶会、3月にはお花見会を開催。
- ④ピンクリボン運動推進イベント：乳がんに関する展示や乳がん検診啓発動画の上映。
- ⑤がん相談員WG活動：森都心プラザ図書館への出張相談会への参加。

(2)在宅療養を安心して送れるよう、地域医療施設との連携を行い、継続的な情報共有を積極的に行う。

- ①「私のカルテ」による地域連携パスは導入件数16件(目標20件)。(図3)
- ②がん口腔医科歯科連携の目標件数は209件(目標200件)。(図4)

図1 相談件数と相談方法(2019年度～2022年度)

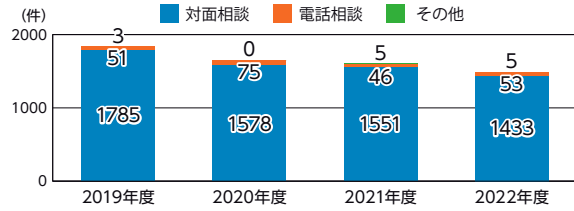


図2 相談内容(2019年度～2022年度)

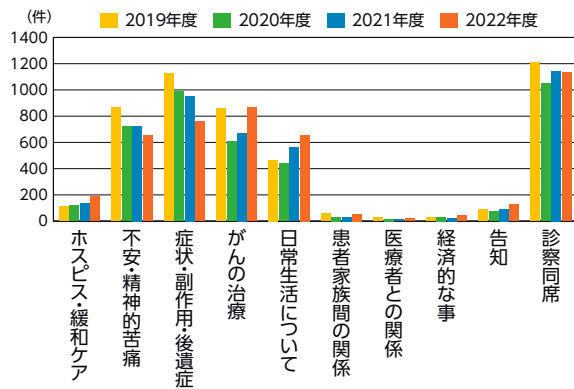


図3 「私のカルテ」導入件数(2019年度～2022年度)

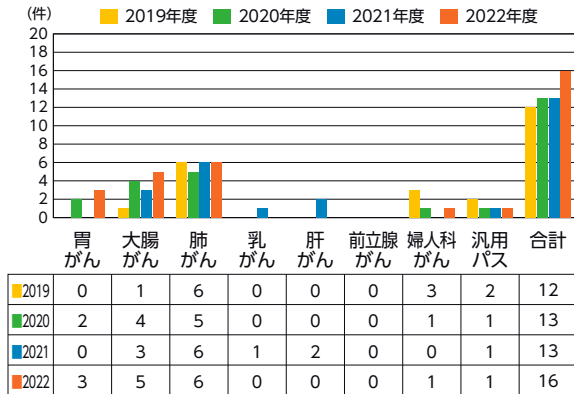
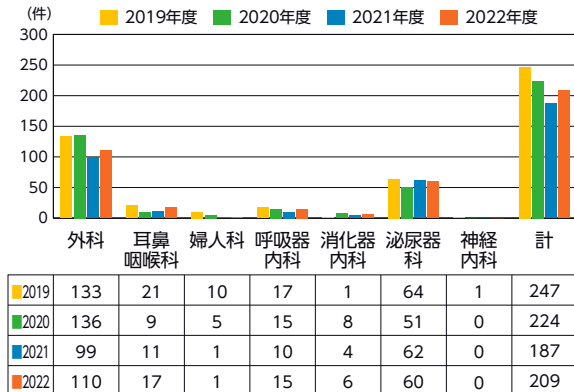


図4 がん口腔医科歯科連携件数(2019年度～2022年度)



がん相談支援センター



ピンクリボン運動推進のためラジオ出演しました



院内のピンクリボン運動推進イベント開催



11月の八代がんサロン秋桜cosmosは、
抹茶を点てて楽しみました

看護師特定行為研修

看護師特定行為研修の概要

少子超高齢社会の医療への影響に対して、また、社会の多様なニーズに応えていくために専門性の高い医療を提供するために、熊本労災病院で看護師の特定行為研修を開始して4年目になりました。2021年度修了した2名を含めて4名が現場で活躍しています。

日本看護協会は「生活と保健・医療・福祉をつなぐ質の高い看護の普及」を掲げています。看護師の特定行為研修制度を通して医療ニーズに対応する認定看護師の育成促進が明記されました。全国で2万人を超える21分野の認定看護師教育も、特定行為研修を組み込み分野の再編成が行われました。

今年度は、当院の認定看護師2名が第4期生として、それぞれ「創傷管理領域」「感染管理領域」を修了しました。

また、「感染管理関連」の区分は以下の通りです。

- ①栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ②感染に係る薬剤投与関連
- ③栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連



栄養に係るカテーテル管理(CVC)関連の実習

そして、既に修了した特定看護師4名の活動実績は、「動脈血液ガス分析関連」「呼吸器(気道確保に係るもの)関連」「呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連」が中心で回数を重ねてスキルアップに努めています。

2022年度は「術中麻酔領域パッケージ」「外科系基本領域パッケージ」を1名ずつ受講しています。手術や検査のために医師不在となる時間帯に、特定行為研修修了者がアセスメントを行い、医師と看護師の間を繋ぐこと。更に、医師と患者の間を繋ぐことを期待しています。特定看護師の活躍をすすめて、より質の高い医療を提供していきたいと考えます。



「創傷管理関連」のOSCEの場面



「創傷管理関連」のOSCE指導者の方々と

「創傷管理領域」の区分は以下の通りです。

- ①栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ②創傷管理関連



令和4年度特定行為研修閉講式

薬剤部

スタッフ紹介



薬剤部長
谷口 一成

薬剤副部長
奥 美和

主任薬剤師	4名
薬剤師	11名
薬剤事務補助	1名

【認定・資格取得状況】

日本医療薬学会 がん指導薬剤師	1名
日本緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	4名
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師	11名
日本医療情報学会 医療情報技師	2名

施設認定

- 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設
- がん専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 医療薬学専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 薬物療法専門薬剤師研修施設(基幹施設)
- 薬学部薬学生実務実習研修施設

薬剤部の業務概要

薬剤部は、病院における医薬品の適正安全使用を担う部門として機能しています。患者様に安全で有効な薬物療法を支援するために、薬剤師は他医療スタッフと異なる薬学的視点に立ち、薬の専門家として努力しています。調剤・処方鑑査、医薬品管理、医薬品情報、薬物血中濃度測定・処方設計支援、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製、治験コーディネート・治験薬管理、入院患者様への薬剤管理指導とともに、医療スタッフへの医薬品安全使用にかかわる情報提供を行っています。

業務内容と活動実績

(1)調剤業務

内外用薬・注射薬の入院患者を中心とした院内処方調剤を行っています。調剤を始める前の処方鑑査時に、疑義が生じた場合は処方医に問合せを行い、適正な薬物療法が行われるように努めています。

(2)製剤業務

薬剤が、治療上必要であるが投与する剤形・規格・濃度など市販されていない場合に、薬剤の調製を行っています。また、感染リスクの高い高カロリー輸液や医療従事者の曝露が問題となる抗がん剤など無菌的に調製を行うことで感染・曝露防止に努めています。

(3)医薬品管理業務

採用薬剤の在庫適正化を図り、円滑に供給するために購入管理を担当しています。後発医薬品の検討を提案し、購入薬品費の節減も提案しています。

(4)医薬品情報業務

院内医薬品に関する情報の収集・整理・保管・加工・伝達などを目的に、「薬剤部だより」などのお知らせや医療スタッフからの質疑への対応を行っています。院内で発生した副作用情報の受付も行っていきます。電子カルテ薬品情報のメンテナンス、院内採用薬品集の作成なども行っていきます。

(5)病棟業務

入院患者様への服薬指導、薬歴管理、医療スタッフへの薬品情報提供などを行い、医薬品の安全適正使用に努めています。薬剤の血中濃度を解析することで、効果の確認・有害作用の防止などにも努めています。

(2020年6月より病棟薬剤業務実施加算算定)

(6)治験薬管理業務

当院は、治験薬の開発を通じて医療に貢献することを目的に治験に協力をしています。病院の治験業務の中で、薬剤部は、治験薬剤の管理・調剤業務などを担っています。

薬剤部

(7)業務実績

入院処方箋枚数	92,374枚
外来処方箋枚数	9,471枚
入院注射箋枚数	164,104枚
外来注射箋枚数	19,002枚
製剤件数	66件
抗がん剤調製件数	3,200件 (入院:804件、外来:2,396件)
薬剤管理指導件数	9,161件(請求件数7,346件)
麻薬管理指導件数	455件
薬物血中濃度解析	135件

学会・講演会発表等

研修会

- **研修会名** 八代薬-薬連携 熊本労災病院がん化学療法研修会
日程・会場等 令和4年10月、八代、口演
発表者 山口圭太郎
演題名 抗がん剤の制吐療法について
- **研修会名** 八代薬-薬連携 熊本労災病院がん化学療法研修会
日程・会場等 令和5年3月、八代、口演
発表者 北森靖隆
演題名 肺癌の殺細胞性抗がん剤の副作用と対策

中央リハビリテーション部

スタッフ紹介



中央リハビリテーション部長
(理学療法士)

岡元 進一

理学療法士 主任

山本 慎一

理学療法士 主任

大洲 人士

理学療法士 主任

長田 政和

理学療法士 主任

吉田 絵美

理学療法士 主任

木村 友亮

他 11名

作業療法士 主任

西田 充征

作業療法士 主任

小屋野 宏明

他 5名

言語聴覚士 主任

畠山 克隆

他 3名

リハビリテーション助手

3名

【認定・資格取得状況】

・認定理学療法士(脳卒中)	4名
・認定理学療法士(運動器)	4名
・認定理学療法士(循環)	2名
・認定理学療法士(呼吸)	1名
・心臓リハビリテーション指導士	6名
・3学会合同呼吸療法認定士	12名
・呼吸ケア指導士	1名
・両立支援コーディネーター	1名
・がんリハビリテーション研修会修了	23名

中央リハビリテーション部の特色

中央リハビリテーション部では、整形外科疾患や脳血管疾患を初め、呼吸器・循環器やがんなど様々な疾患に、入院や手術直後から「早期リハビリテーション」に取り組んでいます。スタッフ数は、理学療法士17名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、リハ助手3名の総勢31名です。各スタッフが、専門的資格を取得したり、認定研修を受講したりして、専門的知識を活かした治療の提供に努めています。また、病棟担当制を取り入れ、ICUや病棟を中心に早期離床を重視して積極的に介入しています。ICUや病棟のカンファレンスにも参加し、連携を図っています。また、医師や認定看護師を含む多職種で実施している呼吸器・NST・排尿ケア・褥瘡対策・認知症ケアのラウンドにも参加して、チーム医療に積極的に携わっています。また、機構の掲げている政策医療の一環である両立支援活動として、就労状況に合わせた復職(就労)支援にも取り組んでいます。院外活動としては、熊本県の委託業務である地域リハビリテーション活動として、「八代地域リハビリテーション広域支援センター」を受託して、圏域のリハビリテーション従事者や地域の方々への研修会開催や現地での相談対応など、地域に根ざした事業にも積極的かつ継続的に取り組んでいます。その他にも、熊本地震を発端に、DMATやJ-RAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)などの災害に対する支援活動にも参画しています。

業務内容と活動実績

診療業務は、脳血管疾患や運動器疾患のリハビリテーションを中心に、心大血管リハやがん患者のリハ、呼吸器リハに加え、誤嚥性肺炎に伴う摂食嚥下訓練など、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による高度の専門的な治療を提供しています。診療体制では、リハ室は基より、『早期離床』目的に、一般病棟やICU病棟に於いて超早期から集中的に治療を実施しています。心疾患のリハビリテーションでは、個別治療の他、複数の入院・外来患者を対象とした集団治療も実施しています。また、実際に介入する際は、必要時にCPX(心肺運動負荷試験)による検査を行い、安全な環境の下で実施しています。

中央リハビリテーション部

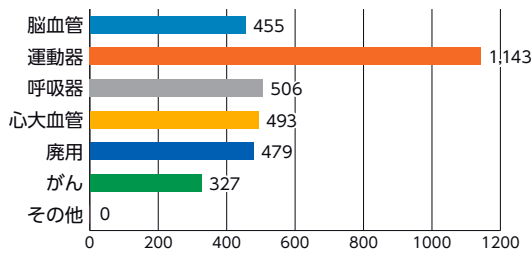
〈2022年度 活動実績〉

1. 疾患別の治療実績(患者数) (表1) (図1)

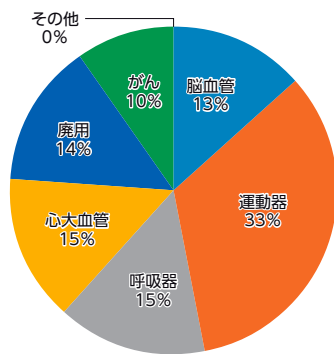
疾患別では、3,403人と前年度より増加しており、中でも循環器, 廃用が増加している。

表1 疾患別実績

疾患別	患者数
脳血管	455人
運動器	1,143人
呼吸器	506人
心大血管	493人
廃用	479人
がん	327人
その他	0人
合計	3,403人



(図1)

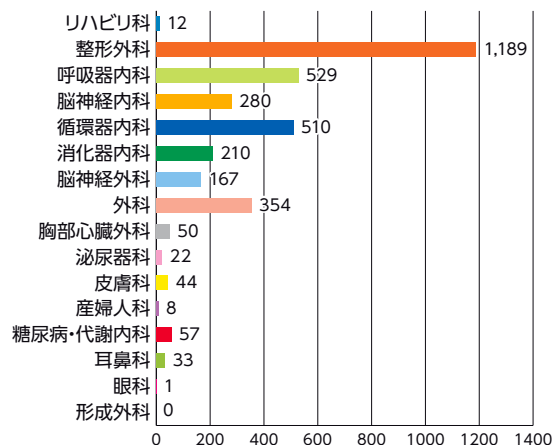


2. 診療科別の治療実績(患者数) (表2) (図2)

整形外科34%, 内科系31%, 循環器科15%を占めており、循環器科がより増加している。

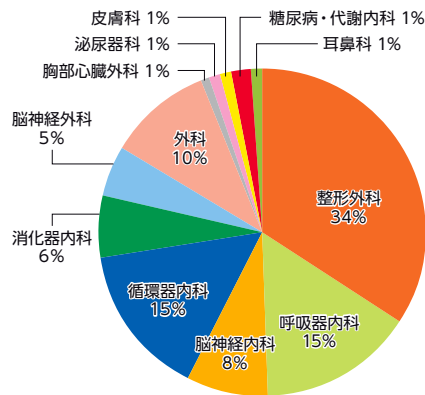
表2 診療科別実績

診療科	患者数
リハビリ科	12人
整形外科	1,189人
呼吸器内科	529人
脳神経内科	280人
循環器内科	510人
消化器内科	210人
脳神経外科	167人
外科	354人
胸部心臓外科	50人
泌尿器科	22人
皮膚科	44人
産婦人科	8人
糖尿病・代謝内科	57人
耳鼻科	33人
眼科	1人
形成外科	0人
合計	3,466人



中央リハビリテーション部

(図2)



3. 算定単位数実績(表3、図3、表4、図4)

全体的としては、前年度実績は上回っている。ただし、部門別も、前年度を上回る実績となった。

表3 全体算定単位数

年度	単位数
2022年度	104,242
2021年度	95,208

(図3)

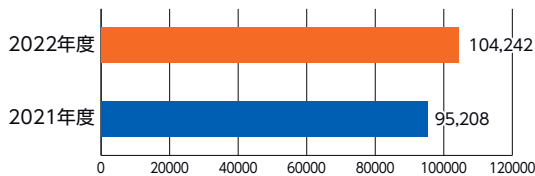
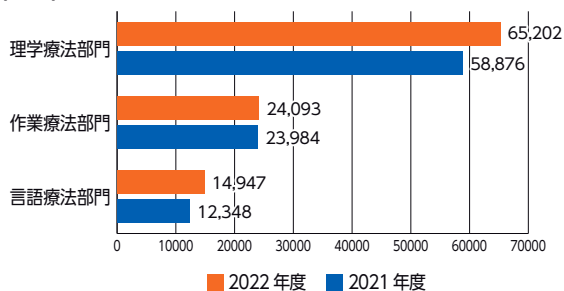


表4 部門別算定単位数

年度	理学療法部門	作業療法部門	言語療法部門
2022年度	65,202	24,093	14,947
2021年度	58,876	23,984	12,348

(図4)



地域活動の実績

中央リハビリテーション部では、平成12年度より熊本県からの委託業務である、「地域リハビリテーション広域支援センター」事業を受託して運営しています。地域の医療や介護、福祉に関わる皆さまや地域の住民に向けた研修や相談などのリハビリテーションに関する支援を幅広く実施しています。活動の際は、八代市郡7施設の地域密着リハセンター(熊本県指定)と情報共有・連携を図っています。コロナ禍で、地域活動が行いにくい状況にありましたが、WEBでのICTリテラシーを促進し、新しい形での支援活動を行っています。

令和2年熊本豪雨災害の復興は未だ道半ばです。八代市郡のリハビリテーション関連施設と共同で、復興リハビリテーション活動を継続して行っています。

医師会や自治体等の公的委員

- 西田主任作業療法士：
八代市障害者認定審議会(委員)
- 西田主任作業療法士：
八代市介護保険認定審査会(委員)
- 西田主任作業療法士：
八代市介護保険事業計画・評価審議会(委員)
- 小屋野主任作業療法士：
八代市介護保険認定審査会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 令和4年度 第1回地域リハ従事者研修会
令和4年11月18日(金)
「コロナ禍における認知症ケア」
講師：元田真一氏(作業療法士)
(株式会社シンパクト ケアサポートメロン代表)
報告者：小田千里氏
(公益社団法人 認知症の人と家族の会 熊本県支部)
- 令和4年度 第2回地域リハ従事者研修会
令和5年2月7日(火)
「科学的介護情報システム(LIFE)の導入意義と運用の実際」
～導入する?しない?導入を迷われている事業者向け研修～
講師：金子茂稔氏
(株式会社 未来図Labo代表取締役 作業療法士)

中央放射線部

スタッフ紹介



中央放射線部長
橋口 和博

主任診療放射線技師
前床 正国

主任診療放射線技師
小林 功治

主任診療放射線技師
本田 光希

主任診療放射線技師
遠山 和香子

主任診療放射線技師
甲斐 健一

診療放射線技師 19名
助手 1名

【認定・資格取得状況】

第1種放射線取扱主任者、検診マンモグラフィ撮影認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、医療情報技師、X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師

中央放射線部の特色

中央放射線部は画像診断部門、放射線治療部門に分けられ、画像診断部門は一般撮影、透視、CT、MRI、血管撮影、核医学検査、マンモグラフィ、骨密度装置、ポータブル撮影に分けられます。救急撮影では24時間体制で、一般撮影、CT、MRIなどの撮影を行っています。最近では専門技師や認定技師の取得や2015年に医療被ばく情報研究ネットワークより、診断参考レベル2015が策定され、2020年には改定されていますが、それに沿った形での被ばく管理にも精力的で、当放射線部ではさらに低被ばくでの検査に力を入れています。また臨床実習でも積極的に学生の受け入れを行っています。

業務内容と活動実績

画像診断部門

①一般撮影

X線撮影装置4台を備え、1台はFPD(フラットパネルディテクター)システムです。胸部、腹部、骨の撮影を一日平均140件撮影しています。

②X線透視

透視装置は2台あり、ともにFPDシステムで、内視鏡を用いて行うERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やTBLB(経気管支生検)、神経ブロック、嚥下造影などに用いられます。最近では胆道系のステント留置など、非血管系のIVRも行われています。

③CT

CT装置は2台あり、1日に平均65件の検査を実施しています。ともに64列マルチスライスCTであり、そのうちの1台は2管球CTで、高速撮影、被ばく線量低減、デュアルエネルギー撮影ができ、より最新技術の撮影に対応したCTとなっています。

また、昨年度のCT更新により2台ともデュアルエネルギー撮影が可能となりました。3Dワークステーションでは血管系の3Dや骨の3Dも積極的に作成しています。

④MRI

MRI装置は2台あり1台が3.0T(テスラ)、もう1台が1.5TのMRIです。3.0T、1.5Tの特性を生かし頭部や椎体、腹部、四肢などの検査を1日平均28件の検査を実施しています。高磁場での検査であるため、安全には特に配慮を行い検査に当たっています。また急性期脳梗塞や救急での脊椎病変、MRCPなどの撮影は24時間対応しています。

⑤血管造影検査

血管造影では1台はバイプレーン、もう1台がシングルプレーンです。いまでは血管内治療(IVR)が盛んに行われており、頭部や心臓、腹部、四肢に至る血管までの治療を実施しています。循環器領域では循環器の先生方と、腹部、骨盤系では放射線科の先生方と検査、治療に当たっています。またオペ室でステントグラフトによる治療も行っています。

⑥核医学検査

SPECT/CT装置が1台あり、主に骨シンチ、心筋シンチ、頭部SPECTを中心に行っており、CTと組み合わせた画像表示(フュージョン画像)も行っています。最近ではアルツハイマー型認知症の検査や

中央放射線部

パーキンソン病の検査にも威力を発揮しています。

⑦マンモグラフィ

撮影には認定講習会を受講し、認定資格を持った女性技師が担当しています。乳腺外科と連携を取りながら市検診にも取り組んでいます。本年に八代では初めてトモシンセシス(3D)が撮影可能な装置を導入しました。

⑧骨密度検査

骨そしょう症やその治療効果のため、腰椎、太骨頸部の測定を行っています。微量のX線を腰椎、大腿骨に照射して検査します。検査データは精度の高いDEXA法を使用しています。

⑨ポータブル撮影

院内に4台あり、病棟、ICU、オペ室などで撮影を行っています。至急にも対応できるよう救急室でもポータブルの撮影を行います。オペ室には外科用イメージが4台あります。1台はステントグラフトに使用するDSA装置です。

⑩画像管理

モダリティで作成した画像はすべてサーバーに送られ、院内配信されます。院外への紹介時にはDVDを作成し、また他施設から紹介を頂いた場合も、画像を取り込み診断に役立てています。

放射線治療部門

①放射線治療

放射線治療は手術、抗がん剤治療と並ぶがん治療のひとつです。体への負担が比較的軽度で、手術と比較して機能、形態の温存が期待できるという特徴があり、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能なリニアック装置1台、治療計画装置1台で治療に当たっています。三次元画像を基にした詳細な治療計画が可能で、60対のマルチリーフコリメータを使用し全身の各部位に対して限局的に策定した箇所へ治療を行うことができます。

業務実績

検査種別		件数	
X線撮影	単純撮影	41,854件	
	透視造影	脳・脊髄領域	0件
		消化器領域	790件
		骨盤腔領域	31件
		循環器領域	1,619件
		その他造影	512件
		透視単独	215件
		透視合計	3,159件
	マンモグラフィ	759件	
ポータブル撮影	7,820件		
核医学検査		410件	
CT	第一 (64列)	4,809件	
	第二 (2管球)	12,488件	
	CT合計	17,297件	
MRI	第一 (3.0T)	2,840件	
	第二 (1.5T)	2,907件	
	MRI合計	5,747件	
放射線治療		2,916件	
骨塩定量		447件	
画像再構成		19,973件	

認定施設 等

- マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設 更新中

中央検査部

スタッフ紹介



臨床検査センター長
吉田 顯正



中央診療支援統括室
中央検査部門担当
栗脇 一三



中央検査部長
森谷 智輝

主任臨床検査技師
井上 博幸

主任臨床検査技師
森口 美琴

主任臨床検査技師
吉田 健一

主任臨床検査技師
浜島 智央

主任臨床検査技師
井上 祐子

主任臨床検査技師
結石 友里菜

臨床検査技師
検査助手
事務

計30名
計3名
1名

【認定・資格取得状況】

《病理検査部門》病理医1名、細胞検査士7名、認定病理検査技師2名

《検体・細菌検査部門》感染制御認定微生物検査技師2名、認定臨床微生物検査技師2名、二級臨床検査士(細菌)1名、二級臨床検査士(血液)1名、二級臨床検査士(臨床化学)1名、緊急臨床検査士2名、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師1名、精度管理責任者1名、臨地実習指導者3名、熊本県糖尿病療養士2名、健康食品管理士2名

《生理検査部門》超音波検査士(循環器)5名、超音波検査士(消化器)3名、超音波検査士(体表)1名、超音波検査士(血管)1名、超音波検査士(健診)1名、精中機構乳房超音波技術試験A判定1名

中央検査部の業務内容

当中央検査部は、日常診療から救急医療まで24時間体制で診療支援を行う部門です。臨床検査センター長の吉田顯正先生と病理診断科部長である栗脇一三先生の下、30名の臨床検査技師、3名の検査助手、事務1名が在籍し検査業務を行っています。

当院では日本臨床衛生検査技師会から旧制度の精度保証認定施設として認定取得してきましたが、新制度に代わって『品質保証施設認証制度』を令和5年5月に認証承認しました。これにより、当院の臨床検査分野の認証範囲が拡大(2分野→12分野)され、臨床検査のさらなる精度向上が実証されることとなりました。これは一定の基準をクリアし、臨床側へ提供している検査結果が標準化および高品質であると認められ、極めて高い信頼性を有していると評価されるものです。また、院内では各種臨床検査業務の他にICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)やNST(栄養サポートチーム)などのチーム医療にも参画し、院外では各種学会や研修会等に積極的に参加し、知識や技術の研鑽に努め、各学会の認定資格を多数取得しています。

病理検査部門は、地域がん診療拠点病院として重要な位置付けにあり、細胞診断分野では病理医とともに細胞検査士が正確な診断に寄与し、精度向上への取り組みを継続実施することで日本臨床細胞学会から施設認定を受けています。

検体検査部門は、一般検査、血液検査、生化学免疫検査、輸血検査が含まれます。日常では正確な検査データを報告するために内部精度管理を行い、外部精度管理では毎年高い評価を受けています。また最新の高精度な自動化分析機器を整備し、迅速且つ信頼性の高いデータを報告しています。

細菌検査部門においては、県内ではいち早く先端技術を駆使した遺伝子検査装置を導入し、県南地域における感染制御の中心的役割も果たして、認定微生物検査技師制度協議会から国内で僅か150施設、熊本県内でも5施設しかない研修施設認定を受けています。

生理検査部門は、最新の超音波装置を導入し、医師と緊密な連携を取りながら高度で迅速な検査を行っています。日本超音波医学会認定超音波検査士が多数在籍し、心臓、頸動脈、腹部、乳腺、下肢血管、甲状腺等の専門的検査を行うと共に、研修医の教育も担っています。また、臓器移植時に必要な脳

中央検査部

死判定脳波検査もチームで取り組んでいます。

労災病院の特徴の一つである振動病検診は、振動工具を取り扱う労働者の振動暴露状況を調べる検査で、当検査部から県内外へ出張検診も行っていて、毎年数百名の方の労災疾病の予防、治療等に大きく貢献しています。

業務実績

年度別臨床検査件数の推移

	R2	R3	R4
生化学	1,067,770件	918,927件	1,075,820件
免疫	83,919件	86,491件	91,022件
血液	220,902件	223,755件	200,146件
一般	31,134件	29,997件	31,093件
微生物	31,206件	45,450件	46,296件

年度別生理検査件数の推移

	R2	R3	R4
心電図	14,717件	14,394件	14,625件
ABI	1,332件	1,447件	1,405件
心エコー	7,400件	7,704件	7,904件
腹部エコー	3,914件	3,959件	4,101件
血管エコー	2,848件	3,006件	3,103件
乳腺・甲状腺エコー	2,525件	2,750件	2,809件

年度別病理検査件数の推移

	R2	R3	R4
組織診断	3,894件	3,337件	3,889件
術中迅速診断	106件	118件	129件
細胞診断	3,195件	3,413件	2,741件

地域活動の実績

振動障害巡回検診

- 日程 令和4年10月19日～21日
場所 鹿児島市
参加者 池内尚貴、前田 卓
- 日程 令和4年10月27日～28日
場所 天草市
参加者 池内尚貴、津志田京子
- 日程 令和4年11月10日～11日
場所 人吉市
参加者 田中寛大、前田 卓

- 日程 令和4年11月24日～25日
場所 山都町
参加者 吉田健一、福田健太

学会・講演会発表等

発表・講師・座長

- 学会名 第41回 九州地区労臨技学会
日程・会場等 令和4年10月 門司(Web)
演題 『自動化学発光酵素免疫分析装置「アキュラシード」を用いたSARS-CoV-2抗原定量検査について』
発表者 椿 夏香
- 学会名 熊臨技熊本地区冬季研修会
日程・会場等 令和5年2月(Web)
演題 『自動化学発光酵素免疫分析装置を用いたSARS-CoV-2抗原定量検査について』
発表者 椿 夏香
- 学会名 令和4年度 細胞診初心者講習会
日程・会場等 令和4年5月 熊本県下各施設
講師 井上博幸(体腔液領域)
- 学会名 第17回熊本細胞診セミナー
日程・会場等 令和4年11月 熊本市
講師 川野陽子、森谷智輝、関本香純、井上博幸(各症例提示)
- 学会名 令和4年度 細胞検査士二次試験対策
日程・会場等 令和4年11月 熊本市
講師 井上博幸(体腔液領域)
- 学会名 2022年度 熊本県臨床精度管理調査報告会
日程・会場等 令和5年2月5日(Web)
講師 森口美琴
- 学会名 令和4年度 第54回 熊本県医学検査学会
日程・会場等 令和4年6月 熊本市
座長 森谷智輝(病理検査部門一般演題)
- 学会名 令和4年度 第1回 熊本県臨床検査技師会 臨床微生物部門研修会
日程・会場等 令和4年8月4日(Web)
座長 森口美琴
- 学会名 令和4年度 第2回熊本県臨床検査技師会 臨床微生物部門研修会
日程・会場等 令和4年9月1日(Web)
座長 森口美琴
- 学会名 令和4年度 第3回熊本県臨床検査技師会 臨床微生物部門研修会
日程・会場等 令和4年11月11日(Web)
座長 森口美琴

栄養管理部・栄養管理室

スタッフ紹介



栄養管理部長
(糖尿病・代謝内科部長)
金子 健吾



栄養管理室長
藤井 しのぶ

スタッフ

主任栄養士	1名
管理栄養士	7名
栄養士	1名
調理主任	1名
調理師	12名
作業員	1名
食器洗浄委託職員	9名

【認定・資格】 NST専門療法士、病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士、熊本地域糖尿病指導士、肝炎コーディネーター
【所属学会等】 日本臨床栄養代謝学会、日本病態栄養学会、日本肥満学会、日本職業・災害医学会、日本栄養士会、熊本県糖尿病療養指導士会

栄養管理部・栄養管理室の特色

栄養管理部は、給食管理と栄養管理の両輪を担っています。給食管理では、安全で満足度の高い食事の提供、行事食や個人対応食などのフードサービスを実施し、病院食が患者一人ひとりの命や治療を支える基であるということを念頭に置き、取り組んでいます。

栄養管理では、栄養サポートチーム専門療法士や糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士など、専門資格を有した管理栄養士が、NST(栄養サポートチーム)、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなど医師を中心としたそれぞれのチームの一員として、看護師、薬剤師、その他コメディカルとともに活動を行っています。

その他、生活習慣病、がん、嚥下障害、低栄養などの患者に対し、栄養指導・栄養相談を積極的に行い、治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態の改

善および免疫力低下の防止、QOLの改善に貢献できるように取り組んでいます。

業務内容

(1) フードサービス(給食管理)

「労災病院衛生管理マニュアル」を基本とし、衛生的で安全な食事の提供に努めています。栄養量は成分栄養別で設定し、一般治療食から特別治療食まで約160種類の食種の対応が可能です。個人の嗜好に配慮した「ハート食(個人対応メニュー)」では、管理栄養士が直接患者の嗜好を確認し、摂取量の増加、栄養状態の改善を目的としたオーダーメイドでの食事提供を行っています。また食物アレルギーや宗教上の理由による禁忌食品がある場合などにも対応しています。咀嚼・嚥下機能に障害のある方には、料理方法を工夫し、食べやすい形態や6段階の嚥下調整食を準備し、嚥下のレベルに合わせた食事の提供を行っています。その他、出産お祝い膳や年間44回の行事食など、季節感あふれるメニューの提供を心がけ、手作りのメッセージカードを添えるなど入院中に食事楽しんでいただける患者サービスの工夫を心がけています。

(2) クリニカルサービス(栄養管理・栄養指導)

全入院患者の栄養スクリーニング、アセスメントを行い、患者一人ひとりの栄養状態に合わせた栄養管理を行っています。栄養状態を把握し、早期に栄養介入を行うことで、高齢者におけるフレイル予防や低栄養リスクの改善に努めています。また多職種で構成されるNST(栄養サポートチーム)で褥瘡チーム、緩和ケアチームなどと連携し、継続的な栄養管理を実施しています。

糖尿病・高血圧症・心臓病・腎臓病・脂質異常症(高脂血症)など食事療法が直接治療に関係する疾患のほか、消化器の術前術後、妊娠中の体重コントロールや先天性代謝異常症の食事の注意など、栄養・食事に関する様々な栄養指導・栄養相談を実施しています。また、嚥下障害、低栄養の危険のある方、がんの治療前後の方など、食事がとりにくくなった方への栄養食事相談なども行っています。さらに、医師・糖尿病認定看護師とともに透析予防指導を実施し、栄養管理計画に基づいた病棟訪問も実施しています。

栄養管理部・栄養管理室

【栄養指導・栄養相談】

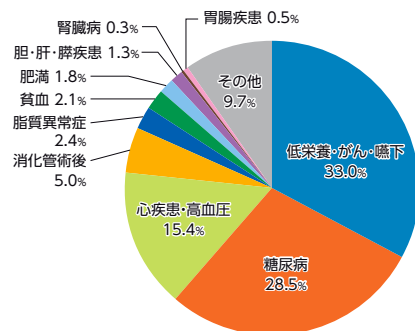
内容		曜日	時間	場所
個人指導	入院・外来	月～金	9:00～17:00	栄養指導室
	ベッドサイド指導	月～金	9:00～17:00	病室
集団指導	糖尿病教室	火曜日	14:00～15:00	栄養指導室
	減塩教室	月～金	15:00～16:00	栄養指導室
	胃腸病教室	月～金	16:00～16:40	栄養指導室
個人指導	透析予防指導	月～金	随時	栄養指導室
個別相談	栄養相談	月～金	随時	病室
がん化学療法栄養指導	個人指導・相談	週3回	10:30～12:00	化学療法室・栄養指導室

活動実績

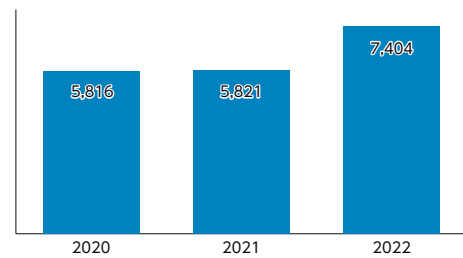
(1) 栄養指導の実績(2022年度)

内容	2022年度件数(入院外来)
糖尿病	2,108件
腎臓病	23件
心疾患・高血圧	1,142件
肥満	134件
脂質異常症	181件
胆・肝・膵疾患	95件
消化管術後	371件
胃腸疾患	34件
貧血	152件
低栄養・がん・嚥下	2,446件
その他	718件
合計	7,404件

疾患別栄養指導件数割合(入院・外来)



栄養指導件数年度比較



(2) チーム医療

NSTでは、栄養治療に関する専門知識を有する医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士・検査技師が院長直属の組織横断的チームを組織し、栄養障害を有する患者の栄養アセスメント、栄養療法の実施、モニタリングを繰り返し治療効果の向上を図っています。

回診とカンファレンスを毎週2回、NST勉強会を開催し、多職種で連携し実施しています。その他、病棟ラウンド、緩和ケア、褥瘡、糖尿病のチームに管理栄養士が属し、他職種とともに活動を行っています。

NST活動実績(2022年度)

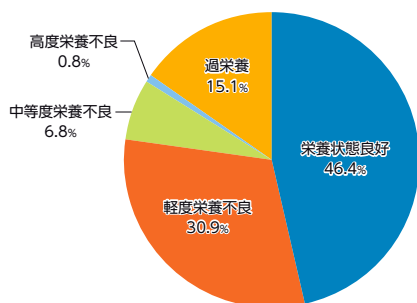
内容	件数
コンサルテーション数	1,189件
NST介入件数	335件
ミーティング実施回数	315件

栄養管理部・栄養管理室

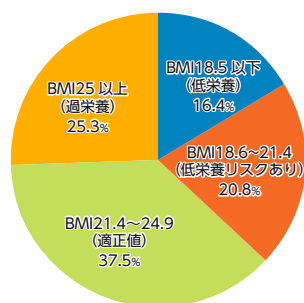
(3) 栄養評価の状況(2022年度 栄養状態別件数)

栄養評価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
栄養状態良好	319	320	373	288	336	350	350	276	321	318	317	348	3,916
軽度栄養不良	186	167	270	214	229	191	205	217	213	280	204	235	2,611
中等度栄養不良	55	55	56	39	45	46	42	45	59	46	42	43	573
高度栄養不良	7	7	6	6	8	3	5	3	7	3	7	5	67
過栄養	71	77	93	74	133	113	134	133	97	110	119	118	1,272
合計	638	626	798	621	751	703	736	674	697	757	689	749	8,439

2022年度 入院患者栄養評価結果



2022年度 入院患者BMI判定結果



地域活動の実績

- 国民栄養調査 調査活動(厚生労働省)
 - 日 程 令和4年11月
 - 場 所 八代市
 - 調 査 員 藤本敦子
- 熊本健康づくり推進 栄養アドバイザー活動
 - 日 程 令和4年9月
 - 場 所 八代市
 - 調 査 員 永野智子、中村香織

認定施設 等

- 日本臨床栄養代謝学会 NST稼働施設認定

講演会、研修会の開催等

- 令和4年度 第13回マッシュアップ研修会
 - 日程・会場等 令和4年11月22日
 - 演 題 「食べることは生きること」
 - 講 師 藤井しのぶ
- 令和4年度 産業保健研修会
 - 日程・会場等 令和4年6月、9月、12月、令和5年3月
 - 4回講演
 - 演 題 「肥満解消の食事」、「生活習慣病予防の食事」
 - 講 師 藤井しのぶ

栄養管理部・栄養管理室

食事サービス

食形態、セレクトメニュー、個人対応食、行事食、産褥食など(写真)

■食形態：患者様個人に合わせた食形態で対応しています。



2019年から食形態統一プロジェクトチームを発足し、食形態について当院より八代地域の病院、施設へ情報発信し、食の統一化を図る取り組みを行っています。

■ハート食(個人対応食)

その他、冷たい麺類・温かい麺類・パン食や肉類魚類が食べにくい方には特別メニューで提供



■行事食



■産褥食



■セレクトメニュー(朝食)



中央臨床工学部

スタッフ紹介



中央臨床工学部長
植田 公昭

スタッフ

臨床工学技士 5名

【学会所属・認定状況】日本臨床工学技士会、熊本県臨床工学技士会、全国労災病院臨床工学技士会、日本体外循環技術医学会、日本人工臓器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会、日本体外循環技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、心血管インターベンション技師、植込み型心臓不整脈デバイス認定士

中央臨床工学部の業務内容

生命維持管理装置などの医療機器の操作・保守を行うことを主な業務とし、医療の安全性及び質の向上を目的として平成26年4月1日に中央臨床工学部が設置されました。

当初、心臓血管外科手術で用いる人工心肺装置の操作及び人工呼吸器や輸液シリンジポンプなどの医療機器管理を行っていましたが、管理機器の増台や心臓カテーテル業務、ICU設立などによる業務拡充に伴い5名が増員となり、現在部長を含め6名にて業務を行っています。当院では患者さまの治療・検査にかかわる「臨床技術提供業務」と医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」の大きく2つに分け業務を行っています。

「臨床技術提供業務」は心臓血管外科手術にて使用する人工心肺装置や心筋保護装置などを操作する人工心肺業務、出血が予想される手術にて使用する自己血回収業務、腎不全や術後敗血症に対して施行するCHDFやPMXなどの血液浄化業務、ECMO・IABP操作保守を行う補助循環業務、術中モニタリング(MEP・SEP)業務、カテーテル検査や治療の補助を行う心臓カテーテル業務、ペースメーカー埋込患者への遠隔モニタリングやペースメーカー外来などにも取り組んでいます。「医療機器保守管理業務」では、特定保守管理医療機器に指定されている人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、

血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器を中心とし、それら以外にも麻酔器や輸液シリンジポンプ、患者監視装置(ベッドサイドモニタ)、低圧持続吸引器、AED、体外式ペースメーカーなどの使用頻度が高いものや使用時に緊急性の高いものを中央臨床工学部管理機器として保守管理しています。それぞれ点検チェックシートを作成し、点検計画を策定、実施し、取扱説明書や添付文書、安全情報も一括して管理を行っています。人工呼吸器、輸液シリンジポンプにおいては中央管理を実施し、貸出返却を集約して効率的な運用を目指しています。なお、医療機器の貸出返却や保守管理データは平成28年より医療機器管理システムを活用し、稼働状況や保守状況を確認できるようにし、安全使用に寄与しています。

活動体制

中央臨床工学部における業務内容が多岐にわたるため、各診療科医師、看護師、医療スタッフと綿密に情報交換を行い、日々の業務に取り組んでいます。現在は部長含め6名にて人工心肺業務や血液浄化業務、医療機器の不具合などの緊急時にはオンコール体制にて対応し、臨床技術提供業務では各診療科医師、医療機器保守管理業務においては医療機器安全管理責任者(麻酔科部長)の指示のもと業務を行っています。

活動実績

臨床技術提供業務において人工心肺業務26例、自己血回収業務20例、血液浄化業225例、術中モニタリング14例、心臓カテーテル業務332例を施行しています。医療機器保守管理業務では特定保守管理医療機器を含む33機種741台を保守管理しており、定期点検1,259件、使用中点検3,483件、始業前点検2,020件、終業時点検9,854件、日常点検24件、合計16,640件の医療機器点検を実施しています。中央管理機器(人工呼吸器、輸液シリンジポンプ)においては人工呼吸器504件、輸液シリンジポンプ8,884件の貸出が行われています。また、上記業務以外にも院内スタッフ向けに医療機器の取り扱いや臨床業務に関する研修会・勉強会40件、院内外勉強会・学会20件に参加し、スキルアップに努めています。

中央臨床工学部

私達は体外循環を始めとする臨床技術提供業務や医療機器保守管理業務を通して、患者さまへより

よい医療を提供できるよう、日々の業務に取り組んでいます。

活動状況



補助循環装置勉強会



心臓手術勉強会



血液浄化業務



人工呼吸器勉強会



心臓カテーテル業務



人工心肺業務



中央管理機器 貸出返却窓口

事務局

スタッフ紹介

事務局長
木村 幸司

事務局次長
伊藤 新

総務課

課長
相緒 友樹

係長 1名
事務員 正規 5名 嘱託 7名

会計課・中央監視室

課長
小松 靖明

事務員 正規 6名 嘱託 4名

ボイラー主任 1名
ボイラー技士 嘱託 2名

医事課・診療情報管理室・地域医療連携室

課長
松元 祐至

係長 1名
事務員 正規 6名 嘱託 25名
(保安専門員1名含む)

診療情報管理士 正規 2名 嘱託 2名
MSW 3名

事務局の特色

事務局は、総務課、会計課、医事課の3課により構成されています。

総務課は職員の採用、労務管理や安全衛生、給与、福利厚生といった人事に関することや、文書管理をはじめとする、行政や地域との関連により発生する諸業務(連絡調整、届出事項等)、職員に対する教育研修、各種院内行事の開催や広報活動など、多岐にわたる業務を担っています。

会計課は、病院の予算・決算、各種支払、資金管理といった経営に関することや、病院で使用する薬剤、診療材料、医療機器などの購入、維持管理に関すること、施設設備の保全・維持管理に関することなど、病院の経営を支える大黒柱として重要な役割を担っています。

医事課では、保険診療、自賠責、労災及びその他諸法(公費)による請求及び収納に関することや診療報酬明細書の作成及び保険者等への請求に関すること、診療情報の管理に関することといった、主に医療行為に伴う業務を担っています。また、地域医療連携室では医療福祉に関する相談・援助や連携医療機関・関係施設との前方・後方連携を担っており、いずれの部門においても「病院の顔」として、患者様が円滑に、安心して治療を受けていただくことを目指して業務にあたっています。

業務内容

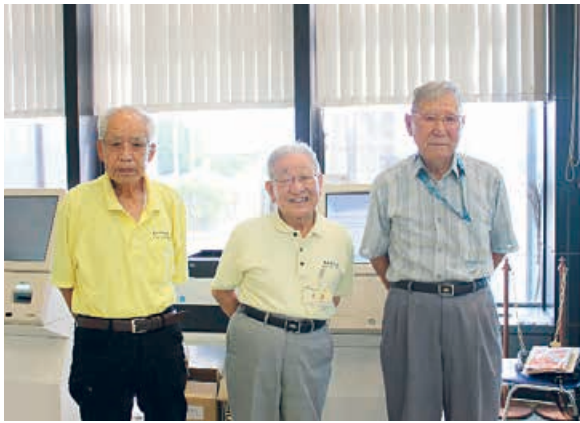
事務局の仕事は病院の運営を影で支える「縁の下の力持ち」であり、患者様と接する機会は多くありません。しかし、志すものが「良質で信頼される医療の実践」であることには変わりなく、そのために事務職として何が出来るかを考え、3課協力して日々前進していけるよう努力しています。

ボランティア

ボランティアの紹介

「熊本労災病院ボランティアの会」では、当院OBや地域の方々計10名が、患者様をはじめ病院を利用される人々がより良い環境で安心して治療を受けていただくことができるよう、自発的に活動されています。

いつも笑顔で優しく、心あたまる親切な対応で患者様に接されるボランティアの方々には、当院の医療サービス向上に大いに貢献していただいています。



活動内容

(1) 外来インフォメーション

患者様への各種案内、再来受付機の操作補助、移動の介助等

(2) 環境美化

車椅子整理、生花の飾り付け、敷地内の草花植え付け・手入れ、病棟プレイルームの整理等

(3) デイサービス

院内デイサービスでの看護師の活動補助



臨床業績



患者数等(年度実績4-3月)

①患者数等

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院患者延数	132,510	127,642	121,681	123,195
1日平均入院患者数	362.0	349.7	333.4	337.5
新入院患者数	9,987	9,266	9,020	8,873
退院患者数	10,016	9,267	9,018	8,893
平均在院日数	13.2	13.8	13.5	13.9
病床利用率	88.3	85.3	81.3	82.3
外来患者延数	140,849	136,637	140,033	145,107
1日平均外来患者数	586.9	562.3	578.6	597.1
救急患者数	12,497	10,243	10,848	12,204
救急車受入件数(ヘリ含む)	4,173	3,941	3,952	4,644
ヘリ	17	40	27	16

②入院科別患者数

1日平均在院患者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	21.4	0.0	23.0	0.0	15.0	0.0	18.8	0.0
呼吸器内科	61.3	0.0	56.4	0.3	54.0	0.5	54.3	0.0
消化器内科	42.6	0.0	39.5	0.0	36.1	0.0	41.0	0.0
糖尿病・代謝内科	6.3	0.0	6.5	0.0	7.8	0.0	8.6	0.0
循環器内科	30.7	0.0	34.4	0.0	39.3	0.0	34.3	0.0
小児科	7.7	0.0	3.7	0.0	4.1	0.0	3.6	0.0
外科	37.5	0.1	39.5	0.1	40.8	0.0	38.9	0.2
整形外科	81.3	4.1	80.0	5.0	80.7	3.2	78.9	3.3
形成外科	1.9	0.0	1.8	0.0	1.2	0.0	1.0	0.0
脳神経外科	16.2	0.1	16.9	0.4	16.5	0.0	16.9	0.4
心臓血管外科	7.5	0.0	7.5	0.0	4.2	0.0	5.7	0.0
皮膚科	4.5	0.1	4.5	0.0	4.5	0.2	7.0	0.1
泌尿器科	8.7	0.1	7.3	0.1	8.1	0.1	7.0	0.0
産婦人科	18.0	0.0	15.1	0.1	7.8	0.0	8.7	0.0
眼科	0.7	0.0	1.0	0.0	0.8	0.0	1.1	0.0
耳鼻咽喉科	15.7	0.1	11.7	0.0	12.2	0.0	11.9	0.0
リハビリテーション科	-	-	-	-	0.2	0.1	0.0	0.0
合計	362.0	4.7	349.7	6.1	333.4	4.1	337.5	4.0

在院患者延数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	12	0	-	-	-	-	-	-
脳神経内科	7,827	4	8,391	0	5,481	0	6,847	0
呼吸器内科	22,440	8	20,582	100	19,719	172	19,827	0
消化器内科	15,596	0	14,435	14	13,165	0	14,980	0
糖尿病・代謝内科	2,318	5	2,356	2	2,865	1	3,141	0
循環器内科	11,222	16	12,548	8	14,356	0	12,508	0
小児科	2,809	0	1,354	0	1,482	0	1,303	0
外科	13,733	39	14,432	30	14,908	6	14,193	57
整形外科	29,759	1,500	29,214	1,832	29,464	1,165	28,781	1,203
形成外科	685	12	674	0	449	0	368	0
脳神経外科	5,922	35	6,172	148	6,023	4	6,156	141
心臓血管外科	2,748	0	2,753	0	1,543	0	2,067	0
皮膚科	1,653	23	1,634	9	1,629	73	2,545	52
泌尿器科	3,178	41	2,677	47	2,957	40	2,560	0
産婦人科	6,592	0	5,502	21	2,858	0	3,176	0
眼科	268	0	368	1	284	0	399	0
耳鼻咽喉科	5,748	19	4,288	0	4,440	0	4,344	0
リハビリテーション科	-	-	262	0	58	30	0	0
合計	132,510	1,702	127,642	2,212	121,681	1,491	123,195	1,453

③新入院患者数・平均在院日数

新入院患者数(転科除く)

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	1	0	0	0	-	-
脳神経内科	412	2	456	0	352	0	345	0
呼吸器内科	1,237	2	1,161	4	1,225	3	1,208	2
消化器内科	1,259	0	1,193	0	1,098	0	1,171	0
糖尿病・代謝内科	156	1	190	2	203	1	171	0
循環器内科	1,081	1	1,176	1	1,204	0	1,069	0
小児科	758	0	291	0	366	0	282	0
外科	1,290	6	1,247	4	1,333	1	1,345	4
整形外科	1,424	71	1,474	81	1,447	72	1,385	76
形成外科	97	1	91	0	58	0	56	0
脳神経外科	266	1	250	6	209	2	214	1
心臓血管外科	129	0	105	0	87	0	88	0
皮膚科	143	1	126	2	120	3	236	1
泌尿器科	380	2	309	3	339	3	311	0
産婦人科	698	0	586	1	354	0	349	0
眼科	125	0	159	1	125	0	159	0
耳鼻咽喉科	532	3	451	0	500	0	484	0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	0	-
合計	9,987	91	9,266	105	9,020	85	8,873	84

平均在院日数

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
精神科	-	12	-	-
脳神経内科	19.1	18.4	15.5	20.1
呼吸器内科	18.3	17.8	16.3	16.5
消化器内科	12.5	12.2	12.3	13.0
糖尿病・代謝内科	15.8	13.3	14.8	19.0
循環器内科	10.5	10.7	11.9	11.7
小児科	3.7	4.7	4.0	4.6
外科	10.4	11.4	10.9	10.3
整形外科	20.8	19.9	20.3	20.7
形成外科	7.0	7.6	7.4	6.5
脳神経外科	22.1	24.9	28.4	28.8
心臓血管外科	20.2	24.5	17.6	21.4
皮膚科	11.8	12.8	13.9	10.8
泌尿器科	8.2	8.5	8.6	8.2
産婦人科	9.4	9.3	8.1	9.1
眼科	2.1	2.3	2.3	2.5
耳鼻咽喉科	10.7	9.5	8.8	9.0
リハビリテーション科	-	29.1	29	0
合計	13.2	13.8	13.5	13.9

④外来科別患者数

1日平均延患者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内 科	16.2	0.0	14.8	0.0	16.8	0.0	16.5	0.0
精神科	7.3	0.0	7.2	0.0	3.7	0.0	3.6	0.0
脳神経内科	18.8	0.1	16.6	0.1	17.3	0.1	19.2	0.0
呼吸器内科	48.9	0.3	44.4	0.3	48.7	0.1	63.6	0.2
消化器内科	50.8	0.2	49.5	0.3	50.8	0.2	55.2	0.2
糖尿病・代謝内科	28.1	0.0	28.2	0.0	29.9	0.0	30.8	0.0
循環器内科	32.6	0.0	34.8	0.0	38.7	0.0	42.6	0.0
小児科	37.9	0.0	23.5	0.0	27.8	0.0	25.5	0.0
外 科	39.7	0.1	40.4	0.0	45.7	0.0	46.0	0.0
整形外科	95.0	4.0	96.2	4.7	100.6	5.1	96.9	4.8
形成外科	11.7	0.2	10.1	0.1	9.5	0.1	7.7	0.1
脳神経外科	10.6	0.2	10.6	0.2	10.5	0.1	9.6	0.1
心臓血管外科	7.1	0.0	6.8	0.0	6.7	0.0	6.4	0.0
皮膚科	29.7	0.1	28.1	0.2	28.6	0.2	36.9	0.2
泌尿器科	27.6	0.8	25.3	0.7	26.1	0.6	25.0	0.5
産婦人科	35.8	0.0	33.0	0.0	27.5	0.0	24.4	0.0
眼 科	21.9	0.2	26.3	0.3	23.8	0.4	22.3	0.2
耳鼻咽喉科	37.5	0.0	33.2	0.1	33.8	0.0	32.6	0.0
放射線科	16.6	0.0	15.9	0.0	16.2	0.0	15.4	0.0
麻酔科	11.6	0.2	11.1	0.2	9.7	0.2	10.2	0.2
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	1.6	0.0	1.2	0.0	1.0	0.0	0.9	0.0
合 計	586.9	6.3	562.3	7.3	578.6	7.4	597.1	6.7

延患者数

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内 科	3,878	3	3,593	1	4,064	2	3,999	6
精神科	1,762	9	1,746	10	888	1	872	1
脳神経内科	4,508	22	4,041	22	4,189	21	4,667	12
呼吸器内科	11,734	60	10,781	71	11,783	35	15,449	42
消化器内科	12,183	41	12,017	62	12,282	55	13,418	38
糖尿病・代謝内科	6,739	11	6,864	5	7,242	3	7,491	5
循環器内科	7,833	9	8,456	2	9,372	1	10,345	2
小児科	9,085	0	5,710	0	6,736	0	6,194	0
外 科	9,538	16	9,823	12	11,061	6	11,177	10
整形外科	22,791	958	23,370	1,141	24,352	1,240	23,536	1,176
形成外科	2,800	36	2,464	21	2,300	16	1,862	23
脳神経外科	2,543	48	2,585	42	2,544	34	2,321	32
心臓血管外科	1,700	0	1,662	0	1,611	0	1,562	0
皮膚科	7,121	24	6,840	55	6,913	56	8,978	46
泌尿器科	6,612	180	6,143	165	6,307	148	6,068	128
産婦人科	8,600	0	8,019	0	6,666	0	5,935	0
眼 科	5,258	37	6,395	78	5,754	85	5,429	38
耳鼻咽喉科	9,009	6	8,076	28	8,190	8	7,918	2
放射線科	3,983	5	3,854	3	3,924	2	3,752	0
麻酔科	2,788	54	2,687	55	2,340	56	2,482	57
リハビリテーション科	-	-	1,224	7	1,265	22	1,443	18
医療相談科	384	0	287	0	250	0	209	0
合 計	140,849	1,519	136,637	1,780	140,033	1,791	145,107	1,636

⑤外来科別初再診別患者数

	初診患者延数				再診患者延数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内 科	2,160	1,689	1,810	1,362	1,718	1,904	2,254	2,637
精神科	468	452	424	389	1,294	1,294	464	483
脳神経内科	1,245	1,120	1,019	940	3,263	2,921	3,170	3,727
呼吸器内科	2,051	1,588	2,143	4,542	9,683	9,193	9,640	10,907
消化器内科	2,057	1,845	1,768	1,749	10,126	10,172	10,514	11,669
糖尿病・代謝内科	687	632	723	703	6,052	6,232	6,519	6,788
循環器内科	1,410	1,390	1,444	1,503	6,423	7,066	7,928	8,842
小児科	2,245	1,315	1,726	2,038	6,840	4,395	5,010	4,156
外 科	1,250	1,112	1,108	1,120	8,288	8,711	9,953	10,057
整形外科	4,339	3,983	3,998	3,950	18,452	19,387	20,354	19,586
形成外科	873	687	630	509	1,927	1,777	1,670	1,353
脳神経外科	955	874	751	744	1,588	1,711	1,793	1,577
心臓血管外科	256	224	203	217	1,444	1,438	1,408	1,345
皮膚科	1,844	1,489	1,485	1,725	5,277	5,351	5,428	7,253
泌尿器科	987	776	845	763	5,625	5,367	5,462	5,305
産婦人科	854	761	577	595	7,746	7,258	6,089	5,340
眼 科	850	676	625	614	4,408	5,719	5,129	4,815
耳鼻咽喉科	1,882	1,402	1,449	1,441	7,127	6,674	6,741	6,477
放射線科	938	853	849	783	3,045	3,001	3,075	2,969
麻酔科	2,328	1,930	1,697	1,759	460	757	643	723
リハビリテーション科	-	1,038	933	1,061	-	-	332	382
医療相談科	384	281	242	199	0	6	8	10
合 計	30,063	26,117	26,449	28,706	110,786	110,334	113,584	116,401

疾病構成

ICD-10 疾病大分類別退院患者数 (R4年度)

ICD-10 疾病大分類	患者数				平均年齢	平均在院日数	死亡数	死亡率
	計	%	男	女				
総数	8,893	-	4,560	4,333	67.1	14.9	558	6.3%
1 A00-B99 感染症及び寄生虫症	162	1.8%	72	90	61.6	13.7	23	0.3%
2 C00-D48 新生物(腫瘍)	2,005	22.5%	939	1,066	67.7	12.5	145	1.6%
3 D50-D89 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	26	0.3%	13	13	60.1	14.8	*	0.0%
4 E00-E90 内分泌、栄養及び代謝疾患	182	2.0%	85	97	65.5	19.2	*	0.0%
5 F00-F99 精神及び行動の障害	5	0.1%	4	*	52.6	5.6	0	0.0%
6 G00-G99 神経系の疾患	243	2.7%	134	109	63.3	13.8	5	0.1%
7 H00-H59 眼及び付属器の疾患	166	1.9%	66	100	75.1	3.3	0	0.0%
8 H60-H95 耳及び乳様突起の疾患	75	0.8%	32	43	52.0	5.5	0	0.0%
9 I00-I99 循環器系の疾患	1,489	16.7%	912	577	75.9	16.4	155	1.7%
10 J00-J99 呼吸器系の疾患	877	9.9%	521	356	64.0	16.8	121	1.4%
11 K00-K93 消化器系の疾患	1,163	13.1%	668	495	68.7	11.9	29	0.3%
12 L00-L99 皮膚及び皮下組織の疾患	119	1.3%	65	54	65.1	14.9	*	0.0%
13 M00-M99 筋骨格系及び結合組織の疾患	604	6.8%	313	291	68.4	23.7	*	0.0%
14 N00-N99 腎尿路生殖器系の疾患	197	2.2%	79	118	70.8	14.7	10	0.1%
15 O00-O99 妊娠、分娩及び産じょく(褥)	101	1.1%	0	101	33.3	12.4	0	0.0%
16 P00-P96 周産期に発生した病態	81	0.9%	44	37	0.0	9.6	0	0.0%
17 Q00-Q99 先天奇形、変形及び染色体異常	45	0.5%	27	18	17.1	7.1	0	0.0%
18 R00-R99 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	53	0.6%	18	35	60.5	7.1	8	0.1%
19 S00-T98 損傷・中毒及びその他の外因の影響	1,000	11.2%	442	558	67.7	19.1	31	0.3%
21 Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	30	0.3%	9	21	26.8	3.3	0	0.0%
22 U00-U89 原因不明の新たな疾患又はエマーゼンシーコードの暫定分類(新型コロナウイルス感染症)	270	3.0%	117	153	65.3	12.5	25	0.3%

上位20疾患 退院患者数 (R4年度)

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C34	気管支および肺の悪性新生物	356	4.0%	234	122	70.8	14.4	49
2	C50	乳房の悪性新生物	332	3.7%	*	331	58.1	7.6	8
3	U07	新型コロナウイルス感染症2019	267	3.0%	114	153	65.3	12.6	25
4	I50	心不全	264	3.0%	137	127	83.7	23.2	41
5	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	264	3.0%	160	104	84.4	24.8	62
6	K63	腸のその他の疾患	224	2.5%	145	79	69.5	3.9	0
7	S72	大腿骨骨折	219	2.5%	53	166	83.8	29.5	*
8	I20	狭心症	212	2.4%	170	42	73.4	5.2	0
9	K80	胆石症	186	2.1%	88	98	75.6	11.7	*
10	C18	結腸の悪性新生物	184	2.1%	105	79	71.6	13.7	13
11	M48	その他の脊椎障害	178	2.0%	111	67	72.8	17.8	0
12	I63	脳梗塞	175	2.0%	99	76	78.0	24.7	7
13	H25	老人性白内障	144	1.6%	55	89	76.3	3.0	0
14	S32	腰椎及び骨盤の骨折	122	1.4%	37	85	79.4	19.5	*
15	I48	心房細動及び粗動	122	1.4%	80	42	70.5	7.3	*
16	C16	胃の悪性新生物	100	1.1%	65	35	69.7	17.2	7
17	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	100	1.1%	48	52	77.1	15.4	14
18	S52	前腕の骨折	98	1.1%	39	59	57.8	13.0	*
19	C25	膵の悪性新生物	97	1.1%	57	40	75.2	14.9	11
20	C20	直腸の悪性新生物	92	1.0%	52	40	72.1	12.4	*

悪性新生物 上位20疾患 退院患者数(R4年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均 在院日数	死亡退院
1	C34	気管支および肺の悪性新生物	356	4.0%	234	122	70.8	14.4	49
2	C50	乳房の悪性新生物	332	3.7%	*	331	58.1	7.6	8
3	C18	結腸の悪性新生物	184	2.1%	105	79	71.6	13.7	13
4	C16	胃の悪性新生物	100	1.1%	65	35	69.7	17.2	7
5	C25	膣の悪性新生物	97	1.1%	57	40	75.2	14.9	11
6	C20	直腸の悪性新生物	92	1.0%	52	40	72.1	12.4	*
7	C61	前立腺の悪性新生物	85	1.0%	85	0	74.8	8.0	5
8	C67	膀胱の悪性新生物	70	0.8%	46	24	76.7	8.6	4
9	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	57	0.6%	42	15	72.2	17.5	10
10	C44	皮膚その他の悪性新生物	46	0.5%	26	20	74.1	9.0	*
11	C54	子宮体部の悪性新生物	38	0.4%	0	38	69.0	6.6	*
12	C56	卵巣の悪性新生物	30	0.3%	0	30	68.1	13.2	*
13	C73	甲状腺の悪性新生物	21	0.2%	*	18	66.3	14.4	4
14	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	20	0.2%	18	*	73.8	10.4	0
15	C15	食道の悪性新生物	19	0.2%	12	7	73.4	33.1	4
16	C24	その他及び部位不明の胆道の悪性新生物	18	0.2%	10	8	79.2	22.2	*
17	C57	その他及び部位不明の女性生殖器の悪性新生物	15	0.2%	0	15	65.6	7.2	0
18	C66	尿管の悪性新生物	14	0.2%	10	4	77.6	13.7	*
19	C65	腎盂の悪性新生物	14	0.2%	8	6	76.1	10.6	0
20	C32	喉頭の悪性新生物	13	0.1%	12	*	75.5	42.0	*

診療科別・疾患別 退院患者分類 (R4年度)

糖尿病代謝内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	E11	2型<インスリン非依存型>糖尿病<NIDDM>	82	51.9%	69.1	18.0
2	E87	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	17	10.8%	77.9	24.9
3	E86	体液量減少(症)	5	3.2%	82.6	30.8
4	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	4	2.5%	75.0	46.5
5	E16	その他の膵内分泌障害	4	2.5%	81.8	15.0

脳神経内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I63	脳梗塞	169	47.6%	77.8	23.6
2	G40	てんかん	33	9.3%	71.6	16.5
3	G20	パーキンソン<Parkinson>病	18	5.1%	74.8	30.2
4	G45	一過性脳虚血発作及び関連症候群	10	2.8%	78.2	7.4
5	G61	炎症性多発(性)ニューロパチ<シ>ー	6	1.7%	49.2	27.2
6	H81	前庭機能障害	6	1.7%	77.8	3.2
7	G12	脊髄性筋萎縮症及び関連症候群	5	1.4%	74.4	51.8
8	A41	その他の敗血症	5	1.4%	79.2	32.2
9	T42	抗てんかん薬、鎮静・催眠薬及び抗パーキンソン病薬による中毒	5	1.4%	72.0	6.2
10	G41	てんかん重積(状態)	5	1.4%	65.8	8.6

呼吸器内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	293	24.5%	70.5	15.3
2	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	235	19.7%	85.2	24.1
3	U07	コロナウイルス感染症2019	193	16.2%	78.1	13.5
4	J15	細菌性肺炎、他に分類されないもの	89	7.4%	78.3	14.9
5	J84	その他の間質性肺疾患	78	6.5%	81.2	23.1
6	J93	気胸	23	1.9%	72.2	19.5
7	I46	心停止	23	1.9%	76.5	1.0
8	N39	尿路系のその他の障害	20	1.7%	83.1	17.4
9	J44	その他の慢性閉塞性肺疾患	15	1.3%	79.8	29.3
10	J70	その他の外的因子による呼吸器病態	14	1.2%	75.1	17.6

消化器内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	K63	腸のその他の疾患	221	19.6%	69.4	3.5
2	K80	胆石症	129	11.4%	79.1	11.4
3	K57	腸の憩室性疾患	55	4.9%	71.5	9.0
4	C16	胃の悪性新生物	52	4.6%	73.0	16.3
5	C25	膵の悪性新生物	47	4.2%	74.5	16.6
6	C18	結腸の悪性新生物	41	3.6%	74.1	18.1
7	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	38	3.4%	73.0	17.1
8	K83	胆道のその他の疾患	36	3.2%	71.8	16.2
9	K85	急性膵炎	29	2.6%	68.3	19.3
10	N39	尿路系のその他の障害	24	2.1%	85.6	24.3

循環器内科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I50	心不全	242	22.8%	83.5	22.6
2	I20	狭心症	210	19.8%	73.4	4.9
3	I48	心房細動及び粗動	121	11.4%	70.3	6.6
4	I70	アテローム<じゅく><粥>状>硬化(症)	87	8.2%	77.8	16.0
5	I21	急性心筋梗塞	61	5.7%	74.6	14.1
6	I49	その他の不整脈	56	5.3%	75.9	9.5
7	I44	房室ブロック及び左脚ブロック	51	4.8%	83.0	11.8
8	I25	慢性虚血性心疾患	41	3.9%	71.1	5.2
9	I47	発作性頻拍(症)	34	3.2%	65.1	8.9
10	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	15	1.4%	78.1	6.3

小児科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J45	喘息	35	12.5%	3.1	4.7
2	P00	現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児及び新生児	28	10.0%	0.0	10.3
3	U07	コロナウイルス感染症2019	23	8.2%	4.1	3.4
4	J06	多部位及び部位不明の急性上気道感染症	17	6.0%	2.6	3.8
5	M30	結節性多発(性)動脈炎及び関連病態	16	5.7%	3.9	5.2
6	A08	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	15	5.3%	3.3	3.6
7	J21	急性細気管支炎	15	5.3%	0.9	5.6
8	J20	急性気管支炎	11	3.9%	1.5	4.2
9	P07	妊娠期間短縮及び低出生体重に関連する障害、他に分類されないもの	10	3.6%	0.0	12.2
10	R56	けいれん<痙攣>、他に分類されないもの	8	2.8%	2.5	3.5

外科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C50	乳房の悪性新生物	329	23.2%	58.0	7.2
2	C18	結腸の悪性新生物	143	10.1%	70.9	12.4
3	K40	そけい(鼠径)ヘルニア	80	5.6%	60.2	6.8
4	C20	直腸の悪性新生物	73	5.2%	71.3	13.0
5	C34	気管支及び肺の悪性新生物	58	4.1%	71.6	9.7
6	K80	胆石症	56	4.0%	67.4	12.4
7	K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞、ヘルニアを伴わないもの	54	3.8%	76.1	18.1
8	K35	急性虫垂炎	51	3.6%	37.7	8.7
9	C25	脾の悪性新生物	50	3.5%	75.8	13.3
10	C16	胃の悪性新生物	47	3.3%	66.0	18.1

整形外科

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S72	大腿骨骨折	216	15.5%	83.7	29.1
2	M48	その他の脊椎障害	178	12.7%	72.8	17.8
3	S32	腰椎及び骨盤の骨折	120	8.6%	79.3	19.4
4	S52	前腕の骨折	98	7.0%	57.8	13.0
5	M51	その他の椎間板障害	78	5.6%	58.3	14.8
6	S82	下腿の骨折、足首を含む	73	5.2%	62.6	25.5
7	M47	脊椎症	59	4.2%	72.0	19.8
8	M17	膝関節症[膝の関節症]	50	3.6%	76.7	37.3
9	M16	股関節症[股関節部の関節症]	46	3.3%	70.0	47.7
10	S42	肩及び上腕の骨折	42	3.0%	58.1	16.4

形成外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D17	良性脂肪腫性新生物(脂肪腫含む)	11	19.0%	48.7	6.8
2	D23	皮膚のその他の良性新生物	8	13.8%	21.6	6.1
3	Q18	顔面及び頸部のその他の先天奇形	7	12.1%	14.4	6.3
4	L75	アポクリン汗腺の障害	4	6.9%	15.8	10.3
5	D22	メラニン細胞性母斑	4	6.9%	7.5	6.0

脳神経外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I61	脳内出血	71	33.0%	72.6	37.7
2	S06	頭蓋内損傷	69	32.1%	73.7	23.1
3	I60	くも膜下出血	20	9.3%	68.5	37.8
4	I62	その他の非外傷性頭蓋内出血	13	6.0%	83.2	24.7
5	S00	頭部の表在損傷	4	1.9%	30.0	4.0
5	D43	脳及び中枢神経系の性状不詳又は不明の新生物	4	1.9%	75.5	43.3

心臓血管外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I71	大動脈瘤及び解離	36	34.3%	75.7	28.8
2	I83	下肢の静脈瘤	22	21.0%	64.0	3.3
3	I50	心不全	8	7.6%	82.5	43.1
4	I72	その他の動脈瘤及び解離	7	6.7%	81.6	16.6
5	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	5	4.8%	73.2	18.8
5	I34	非リウマチ性僧帽弁障害	5	4.8%	78.4	29.6

皮膚科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C44	皮膚のその他の悪性新生物	43	18.1%	75.8	8.1
2	L03	蜂巣炎<蜂窩織炎>	42	17.7%	75.0	13.3
3	B02	帯状疱疹[帯状ヘルペス]	18	7.6%	80.7	9.2
4	D23	皮膚のその他の良性新生物	18	7.6%	51.8	2.4
5	D04	皮膚の上皮内癌	11	4.6%	84.3	9.9

泌尿器科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C61	前立腺の悪性新生物	79	25.3%	74.6	7.6
2	C67	膀胱の悪性新生物	70	22.4%	76.7	8.6
3	N20	腎結石及び尿管結石	26	8.3%	74.2	7.7
4	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	20	6.4%	73.8	10.4
5	C65	腎盂の悪性新生物	14	4.5%	76.1	10.6
6	N10	急性尿細管間質性腎炎	14	4.5%	78.0	10.5
7	N40	前立腺肥大(症)	13	4.2%	74.9	9.1
8	C66	尿管の悪性新生物	13	4.2%	78.4	13.8
9	C68	その他及び部位不明の尿路の悪性新生物	11	3.5%	65.1	5.3
10	N17	急性腎不全	5	1.6%	85.0	8.2

産婦人科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C54	子宮体部の悪性新生物	38	10.9%	69.0	6.6
2	U07	コロナウイルス感染症2019	34	9.7%	32.2	10.2
3	C56	卵巣の悪性新生物	29	8.3%	68.1	12.3
4	D27	卵巣の良性新生物	22	6.3%	45.7	8.7
5	P03	その他の分娩合併症により影響を受けた胎児及び新生児	19	5.4%	0.0	9.0
6	O80	単胎自然分娩	17	4.9%	32.4	6.5
7	D25	子宮平滑筋腫	17	4.9%	44.9	10.1
8	C57	その他及び部位不明の女性生殖器の悪性新生物	15	4.3%	65.6	7.2
9	O60	切迫早産及び早産	12	3.4%	31.3	35.8
10	O82	帝王切開による単胎分娩	12	3.4%	36.3	10.2

眼科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	H25	老人性白内障	143	89.9%	76.3	3.0
2	H11	結膜その他の障害	7	4.4%	75.3	2.0
3	H26	その他の白内障	*	1.9%	57.0	3.0

耳鼻咽喉科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J32	慢性副鼻腔炎	65	13.4%	56.2	7.0
2	J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	57	11.8%	19.5	6.1
3	G47	睡眠障害	41	8.5%	57.3	2.0
4	G51	顔面神経障害	34	7.0%	58.0	9.2
5	H91	その他の難聴	21	4.3%	53.3	9.0
6	H81	前庭機能障害	21	4.3%	67.9	4.5
7	J36	扁桃周囲膿瘍	17	3.5%	51.4	7.1
8	C73	甲状腺の悪性新生物	17	3.5%	59.8	13.0
9	J38	声帯及び喉頭の疾患、他に分類されないもの	14	2.9%	64.0	12.4
10	D11	大唾液腺の良性新生物	14	2.9%	58.6	6.3

※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は[*]で掲載しています。

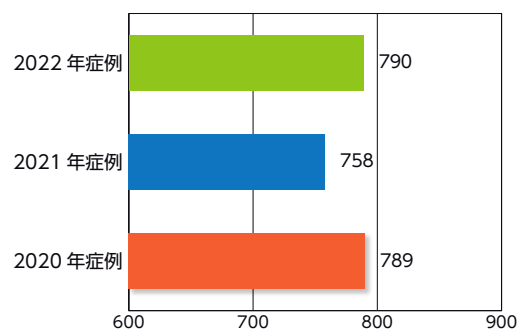
院内がん登録データに係る統計 —2022年診断症例—

2022年の院内がん登録件数は790件で登録上位5部位は、「肺」118件、「大腸」97件、「乳房」91件、「皮膚」71件、「前立腺」60件であった。前年より32件増加し、部位別でみると特に増加したのは「皮膚」(+19)、「前立腺」(+15)であった。

男女別登録数は男性414件、女性376件で、男性の方が38件多かった。登録件数の最も多い肺癌では男性72件、女性46件と男性が女性の約2倍となっている。

登録患者の平均年齢は72.1歳で例年同様高い傾向にある。年齢分布でみると70歳代が最も多く、男性は60歳代から増え始める。一方女性は30歳代から増え始め、その多くが乳房、子宮頸部であった。

登録件数

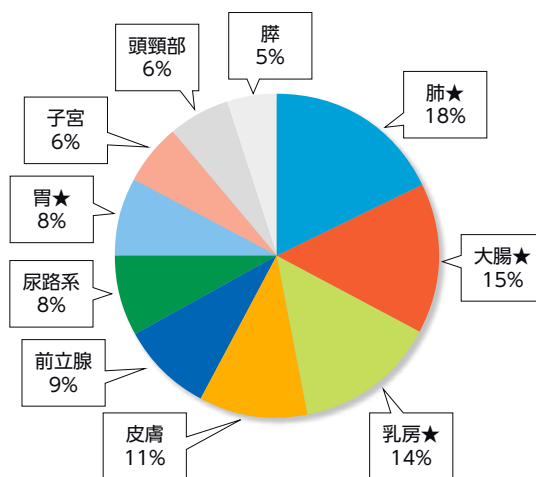


診断年別主要部位別登録件数

部位	2020年	2021年	2022年
肺★	128	137	118
大腸★	93	95	97
乳房★	86	115	91
皮膚	50	52	71
前立腺	51	45	60
尿路系	45	50	54
胃★	56	41	54
子宮	65	28	37
頭頸部	26	27	36
脾	35	22	30
肝★	30	34	24
脳脊髄	31	16	23
甲状腺	9	16	20
悪性血液	24	18	19
食道	9	12	12
その他	51	50	44

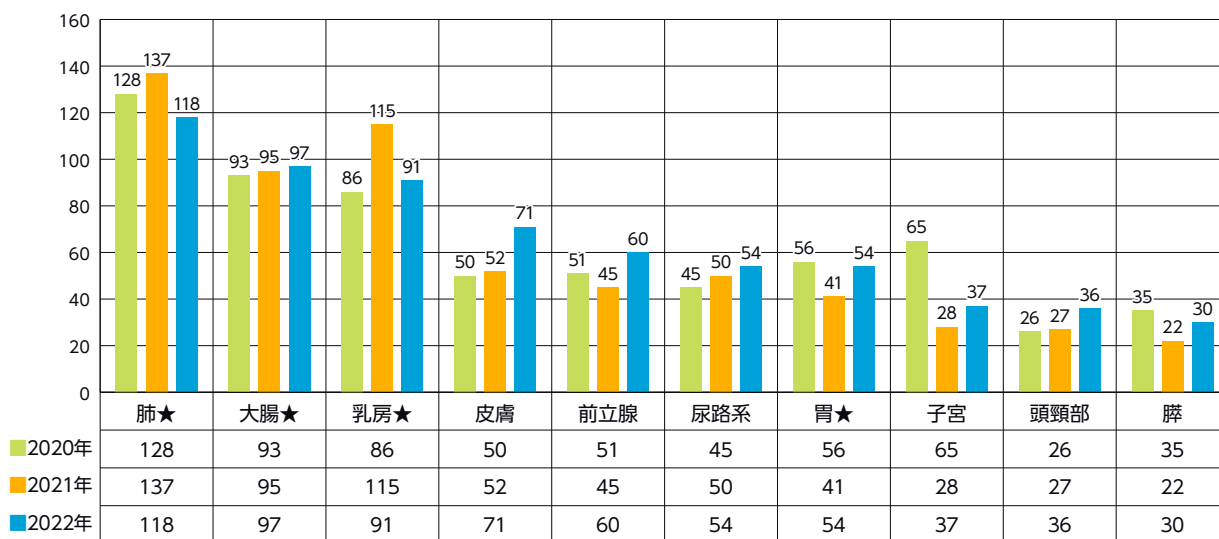
★は5大部位

登録上位10部位別登録割合



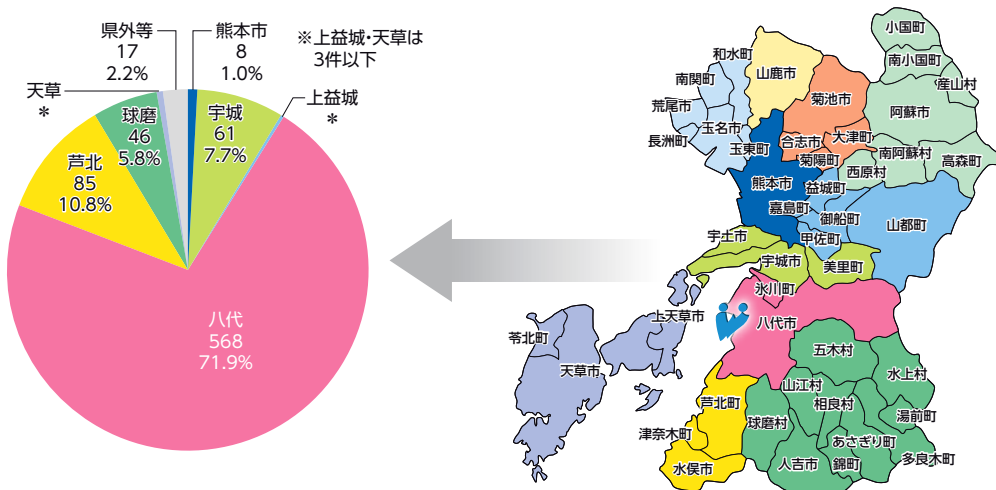
※大腸は結腸(76件)と直腸(21件)
 ※尿路系は膀胱(25件)、腎(17件)、腎盂(5件)、尿管(6件)、尿道(*件)
 ※子宮は子宮頸部(25件)と体部(12件)
 ※脳脊髄は脳腫瘍(19件)と脊髄(4件)
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫、骨髄腫、他の造血器腫瘍

2022年登録上位10部位

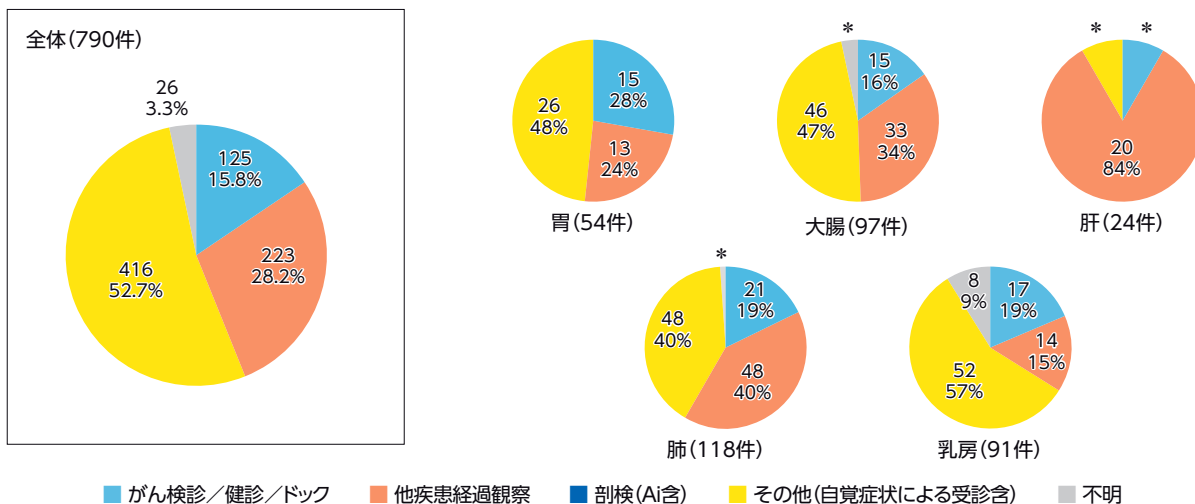


※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は[*]で掲載しています。

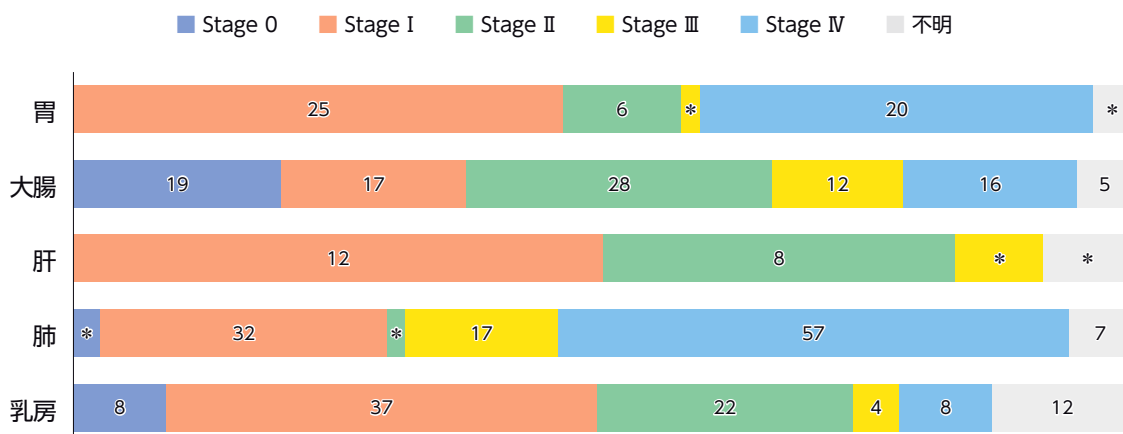
患者住所 医療圏別登録の状況



発見経緯 5大部位の内訳



5大部位別Stage件数



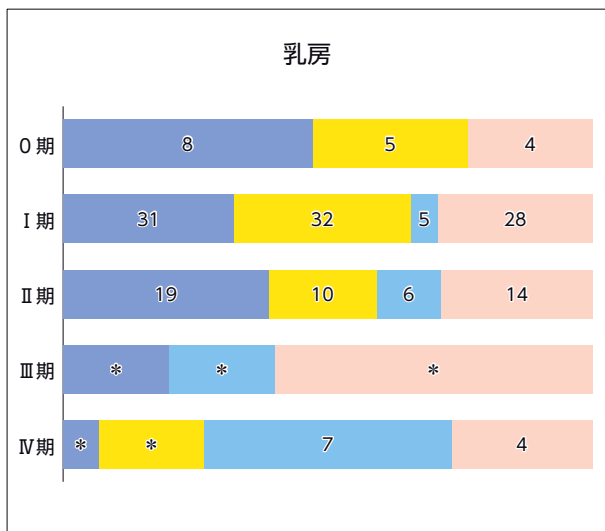
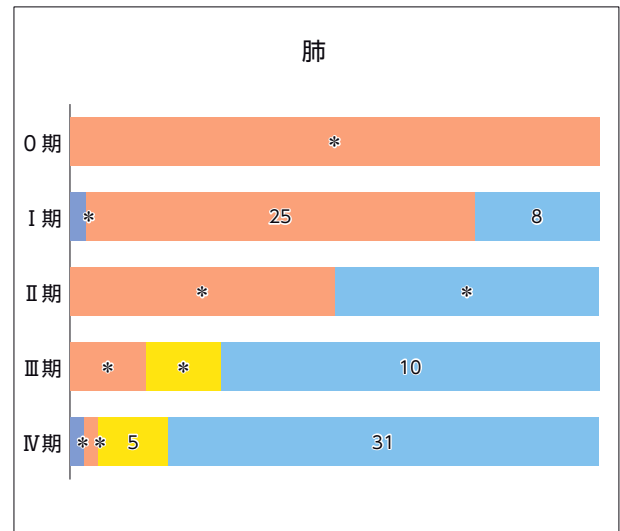
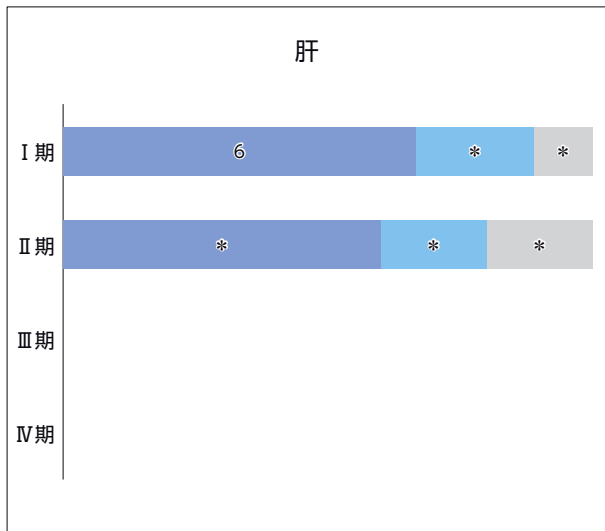
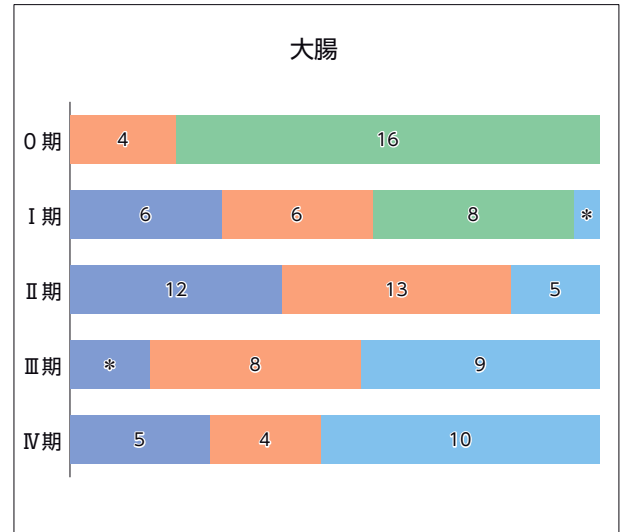
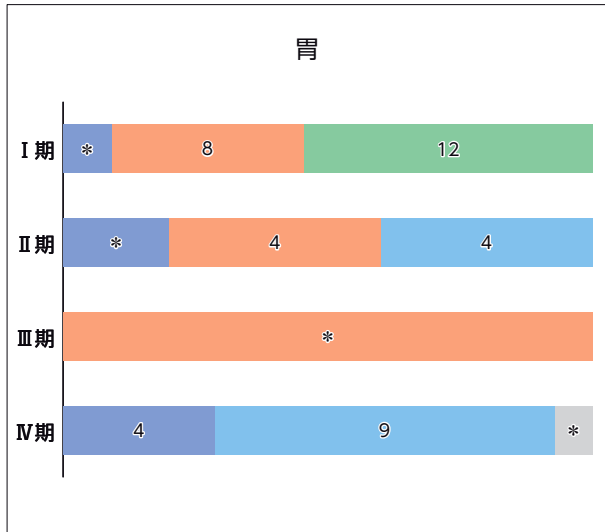
※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】

(術前治療なし・観血的治療例はp Stage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はc Stage)

※UICC病期分類がないもの、分類不明なものはその他で集計

5大部位(総合Stage別)の治療件数

■ 外科的 ■ 鏡視下 ■ 内視鏡的 ■ 放射線 ■ 化学 ■ 内分泌 ■ その他(RFA等)



全登録部位において、自施設初回治療、他施設初回治療開始後の継続治療を行った症例629件は、手術療法383件、放射線療法87件、化学療法163件、内分泌療法90件、その他の治療(RFA等)6件、経過観察のみ88件であり、例年と同じく手術療法が最も多くなっている。

治療に関しては、高齢者・若年層に関わらず、症状が出現した状態で受診し、それらの多くが進行癌であることなどから外科的治療が出来ない場合が少なくない。特に登録件数の一番多い肺癌ではstage IVの割合が約48%を占め、このような症例が多くなりました。

※ 初回治療+継続治療症例のみ集計
 ※ 治療は単独、複数に関わらず各々計算

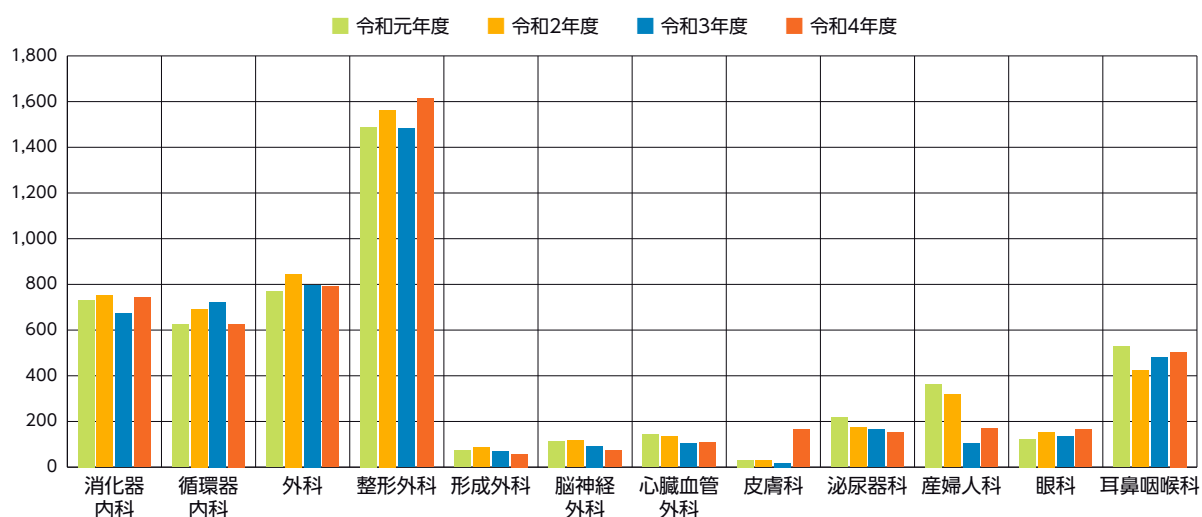
高度医療

単価（年度実績4-3月）

	1人1日当り単価(入院)				1人1日当り単価(外来)			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
内科	-	-	-	-	18,766	19,239	20,447	18,690
精神科	33,458	-	-	-	3,830	3,732	2,241	2,046
脳神経内科	46,302	49,046	50,493	52,335	13,112	11,091	10,800	13,438
呼吸器内科	44,466	48,379	51,332	55,340	31,708	37,291	36,728	33,064
消化器内科	47,277	51,790	50,054	52,025	20,789	23,423	27,044	26,820
糖尿病・代謝内科	35,649	38,632	42,544	41,663	10,796	11,058	11,308	11,002
循環器内科	114,288	118,319	110,396	113,985	15,001	16,448	15,494	16,081
小児科	65,933	65,640	66,304	71,338	16,604	22,921	21,207	23,130
外科	82,661	82,920	80,382	89,766	21,379	22,488	22,601	26,134
整形外科	58,803	61,195	60,635	64,057	9,496	9,366	9,437	9,596
形成外科	57,024	57,990	62,222	66,922	7,645	7,995	7,129	7,199
脳神経外科	59,874	57,073	56,406	56,339	13,687	13,803	13,305	13,681
心臓血管外科	130,062	146,607	169,075	159,606	14,158	14,382	14,197	15,406
皮膚科	43,566	44,731	41,906	56,197	8,499	8,012	7,584	9,199
泌尿器科	58,665	58,638	59,217	67,777	18,593	19,984	20,135	21,978
産婦人科	66,110	67,500	69,936	75,314	10,057	8,846	8,525	8,046
眼科	99,358	103,051	105,309	105,258	7,219	8,510	10,228	10,326
耳鼻咽喉科	52,458	58,594	60,586	66,363	11,352	12,374	11,877	11,542
放射線科	-	-	-	-	25,119	28,392	26,131	26,216
麻酔科	-	-	-	-	127	98	249	530
理学診療科	-	35,107	38,234	-	-	13	264	143
医療相談科	-	-	-	-	31,308	30,427	32,316	30,046
合計	62,689	66,582	66,656	69,721	15,111	16,030	16,582	17,274

臨床業績

手術（年度実績4-3月）

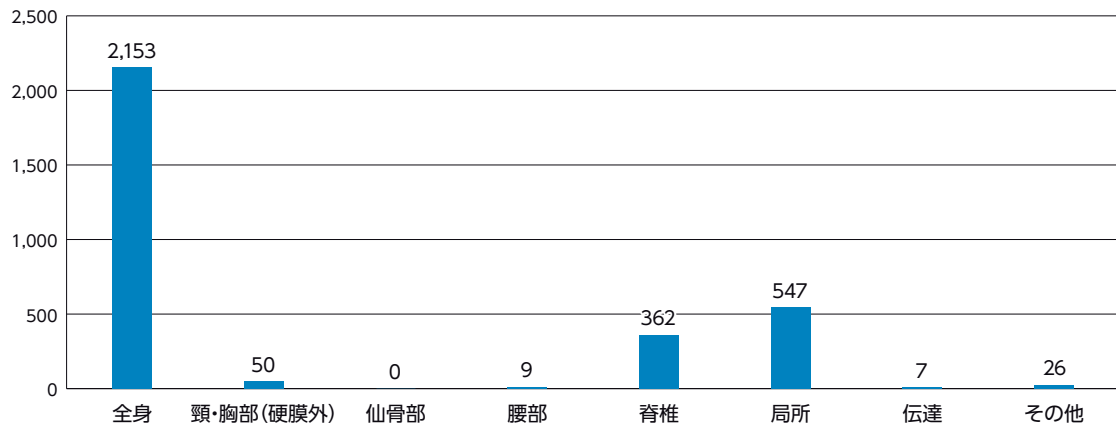


	消化器内科	循環器内科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
令和元年度	731	625	768	1,489	73	114	142	32	218	364	123	527	5,206
令和2年度	752	693	846	1,563	85	116	135	28	173	317	154	422	5,284
令和3年度	672	762	798	1,483	68	93	103	18	164	106	134	480	4,881
令和4年度	742	626	792	1,613	57	73	109	164	153	168	164	504	5,165

※入院と外来の手術室内手術件数(ただし、循環器内科と消化器内科については手術室外で行うため計上している)

麻酔（年度実績4-3月）

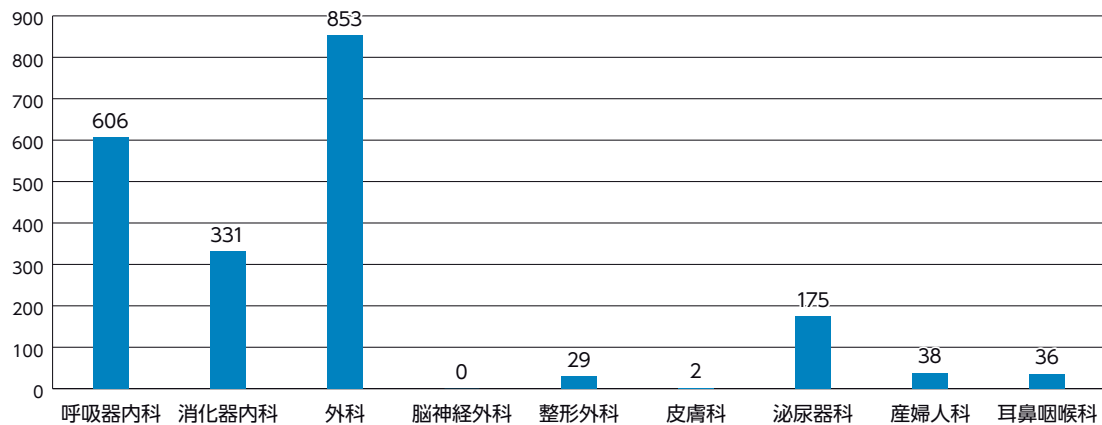
麻酔法別件数



	全身	頸・胸部 (硬膜外)	仙骨部	腰部	脊椎	局所	伝達	その他
令和4年度	2,153	50	0	9	362	547	7	26
※参考 令和3年度	2,157	30	0	6	318	448	0	7

外来化学療法加算（年度実績4-3月）

化学療法加算件数

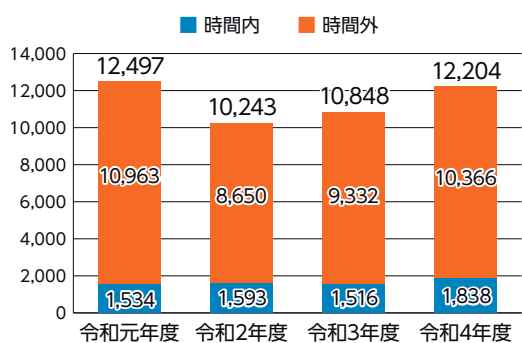


※令和4年度は外来化学療法加算、外来腫瘍化学療法診療料の合計件数

	呼吸器 内科	消化器 内科	外科	脳神経 外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻 咽喉科
令和4年度	606	331	853	0	29	2	175	38	36
※参考 令和3年度	498	319	686	3	31	6	138	21	44

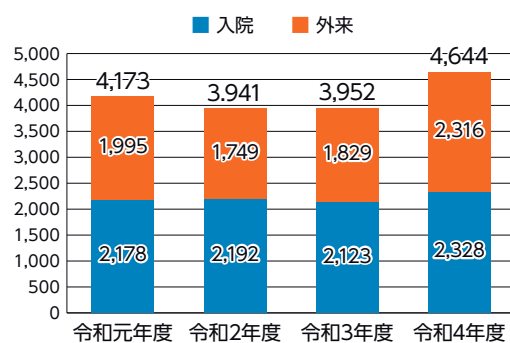
救急医療(年度実績4-3月)

救急患者数(時間内・時間外別)



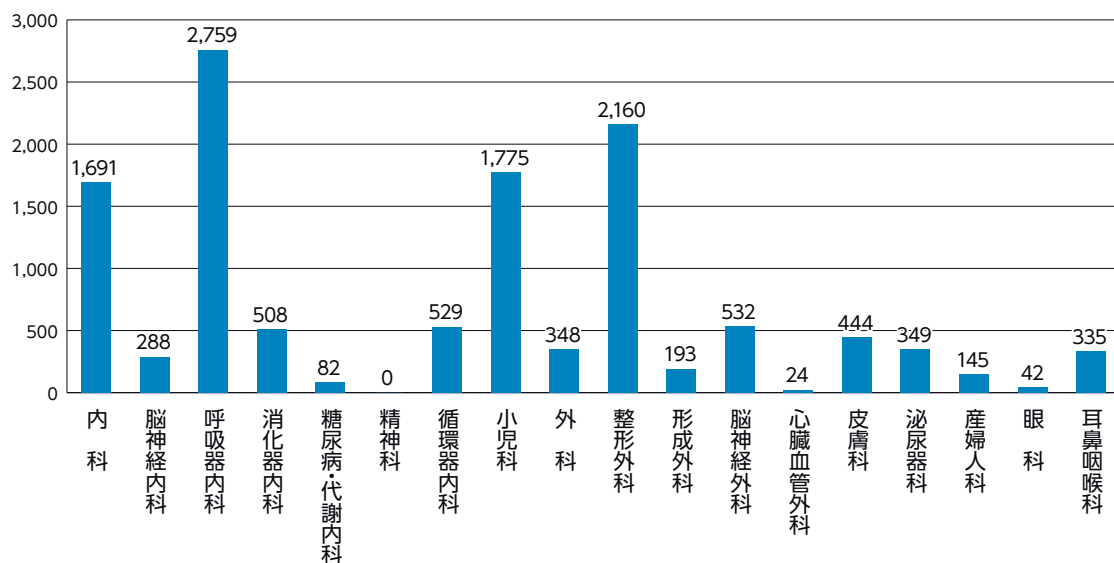
	時間内	時間外	合計
令和元年度	1,534	10,963	12,497
令和2年度	1,593	8,650	10,243
令和3年度	1,516	9,332	10,848
令和4年度	1,838	10,366	12,204

救急車搬送患者数(入院・外来別)(ヘリ含む)



	入院	外来	合計
令和元年度	2,178	1,995	4,173
令和2年度	2,192	1,749	3,941
令和3年度	2,123	1,829	3,952
令和4年度	2,328	2,316	4,644

診療科別救急患者数

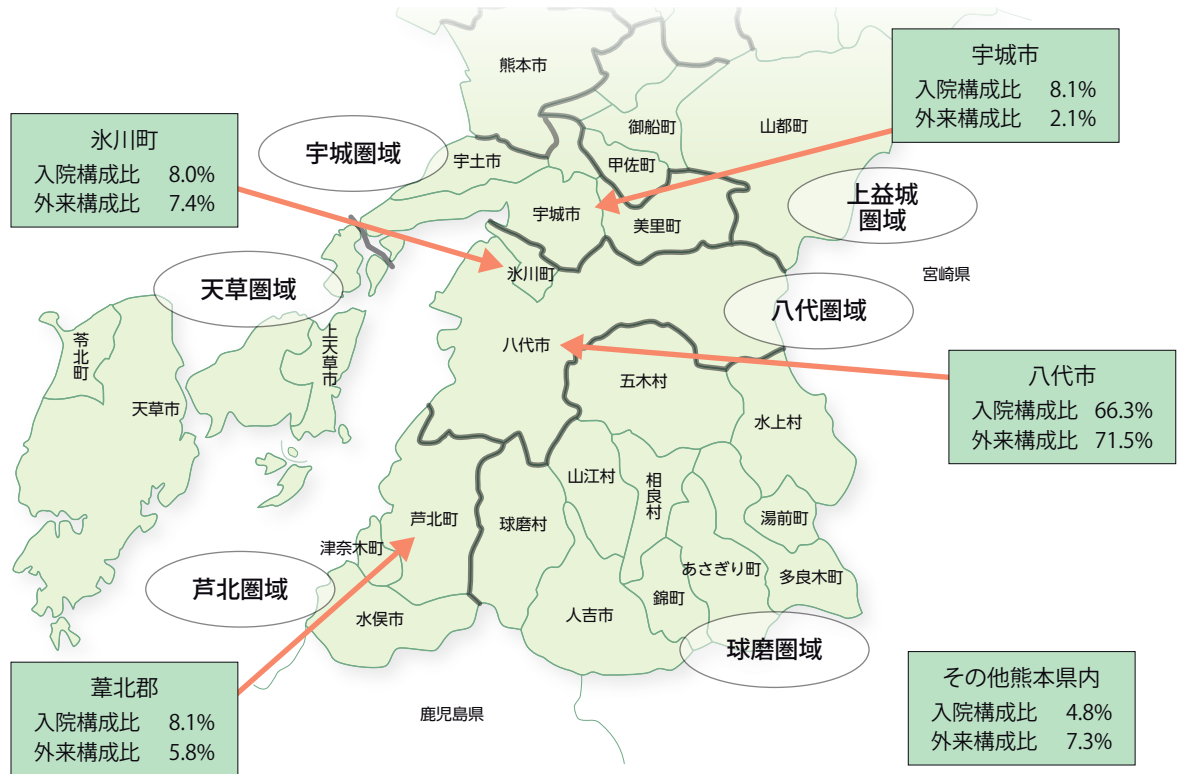


	令和4年度	※参考 令和3年度
内科	1,691	2,359
脳神経内科	288	302
呼吸器内科	2,759	971
消化器内科	508	520
糖尿病・代謝内科	82	87
精神科	0	3
循環器内科	529	563
小児科	1,775	1,363
外科	348	308

	令和4年度	※参考 令和3年度
整形外科	2,160	2,114
形成外科	193	192
脳神経外科	532	563
心血管外科	24	27
皮膚科	444	468
泌尿器科	349	410
産婦人科	145	140
眼科	42	78
耳鼻咽喉科	335	380
合計	12,204	10,848

臨床業績

地域医療(年度実績4-3月)



			入院患者				外来患者			
			延患者数		労災患者		延患者数		労災患者	
					構成比(%)	構成比(%)			構成比(%)	構成比(%)
熊本県	八代医療圏	八代市	81,700	66.3	847	58.3	103,770	71.5	1,178	72.0
		氷川町	9,824	8.0	53	3.6	10,712	7.4	79	4.8
		小計	91,524	74.3	900	61.9	114,482	78.9	1,257	76.8
		葦北郡	9,976	8.1	160	11.0	8,364	5.8	143	8.7
		宇城市	9,959	8.1	147	10.1	3,085	2.1	30	1.8
		球磨郡	2,821	2.3	35	2.4	924	0.6	19	1.2
		その他県内	5,878	4.8	30	2.1	10,544	7.3	68	4.2
		熊本県 計	120,158	97.5	1,272	87.5	137,399	94.7	1,517	92.7
	福岡県	375	0.3	0	0.0	403	0.3	1	0.1	
	鹿児島県	1,623	1.3	18	1.2	1,453	1.0	8	0.5	
	その他	1,039	0.8	163	11.2	5,852	4.0	110	6.7	
	合計	123,195	100.0	1,453	100.0	145,107	100.0	1,636	100.0	

